年　報　29

２０１２年度
（平成24年度）

２０１３．７

山梨県埋蔵文化財センター

序

昭和57年4月に埋蔵文化財の調査研究及び保護を図るため開所した当埋蔵文化財センターは、考古博物館とともに平成24年度で30周年を迎えました。

開所当初の調査組織は、調査第一担当5名・調査第二担当5名の10名の規模でした。中部横断自動車道・リニア実験線建設計画が具体化した開所7年後の平成元年には、総務課・調査研究課が設置され、調査研究課は2担当の調査体制となりました。平成5年度には4担当36人、平成6年度には埋蔵文化財指導幹の職とともに5担当が組織されました。平成7年度には調査研究課が、1課・2課に分かれて36人、平成9年度には6担当となりました。平成12年度には、調査研究課が4担当、収蔵資料の普及活用の充実を目的に調査研究第2課が資料普及課と改組されて、今日に至っています。

施設面では、調査が進むのと並行して収蔵資料も増加の一途のため、収蔵庫の確保が急務となり、平成6年には旧県林業技術センターRC3F（延床1441㎡）を岩窪収蔵庫として確保しましたが老朽化と満杯のため、平成23年12月には旧県立峡北高等学校（5410㎡）を収蔵・整理・学習施設として新たに確保し、24年度から「峡北収蔵庫・遺跡まなび館」と命名し供用開始するとともに、岩窪収蔵庫を廃止しました。

一方普及活用事業では、昭和59年から山梨県考古学協会と共催で「遺跡発表会」を年2回、平成元年から当該年度の発掘調査速報展として「山梨の遺跡展」を関係機関の協力のもと開催しています。また、各発掘現場での現地説明会や発掘体験教室などは随時、平成12年度から本格的に学校への出前支援事業、16年度から「埋蔵文化財シンポジウム」「発掘体験セミナー」を実施してきております。さらに24年12月には、県史跡甲府城跡での鉄門復元整備の完成にあわせて史跡の活用を図るために「山梨県教育庁組織規則」を改正し、埋蔵文化財センターの所掌事務等に「史跡」を追加しました。

さて、当センターが平成24年度中に実施しました事業概要は、次のとおりです。

開発事業に伴う発掘調査件数は3事業8件、遺跡の有無を把握するための試掘確認調査及び小規模工事などに伴う立合調査は35件を数えました。また、埋蔵文化財の普及活用関係事業については、参加された方々の数が、出前支援事業743人・発掘体験セミナー594人・講座講演会4747人・職場体験15人・城下町散策会251人・資料貸出1171人を数えました。

なかでも今年で25回目となる市町村発掘担当者研修会は「文化財レスキュー事業からみた東日本大震災による被災と復旧について－文化財の保護・保存とその役割について考える－」をテーマに仙台市博物館の金森安孝副館長に仙台博物館及び仙台城等の文化財や史跡の被災状況とレスキュー事業への取り組みについて講演していただきました。近々発生が予想される東海地震の震源域にはいる山梨県には、有意義な講演でした。

また当センターは、平成24年度から宮城県教育委員会に埋蔵文化財専門職員を1名派遣し、復興支援を進めております。

当センターでは、今まで以上に埋蔵文化財の調査研究、保護・保存に努力するとともに、収蔵する貴重な資料の学校教育や生涯学習の場での活用を推進して参りたいと考えておりますので、今後ともなお一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

2013年7月

山梨県埋蔵文化財センター

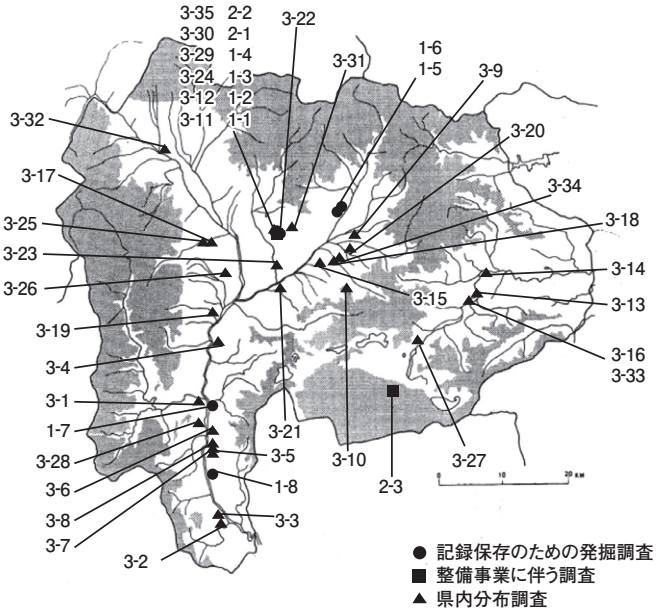
所　長　八巻　與志夫

目　次

序
凡例・職員組織
第Ⅰ章　2012年度の事業概要
1　発掘調査等 …… 1
2　整理作業 …… 1
3　資料普及事業 …… 2
4　収蔵資料の貸出し及び掲載許可一覧 …… 4
5　第25回市町村埋蔵文化財発掘担当者研修会 …… 8
6　遺跡調査発表会 …… 8
7　埋蔵文化財シンポジウム …… 9
8　山梨の遺跡展2013 …… 10
9　広報誌『埋文やまなし』…… 11
10　県指定史跡甲府城跡活用事業 …… 11
11　遺跡データ管理（ＧＩＳ） …… 14
12　報告書PDF化（遺跡資料リポジトリ） …… 15
13　埋蔵文化財センター峡北収蔵庫遺跡まなび館 …… 15
14　寄贈・購入図書 …… 15

第Ⅱ章　各遺跡の発掘調査等概要
1　記録保存のための発掘調査
1－1　甲府城跡（県庁舎耐震化等整備事業:委員会室棟） …… 16
1－2　甲府城跡（県庁舎耐震化等整備事業:駐輪場） …… 18
1－3　甲府城跡（防災新館石垣整備事業）…… 20
1－4　甲府城下町遺跡（県庁春日別館）…… 22
1－5　上コブケ遺跡Ｄ区 …… 23
1－6　膳棚遺跡Ｄ区 …… 25
1－7　常葉川堤防遺跡 …… 27
1－8　本城山 …… 28
2　整備事業に伴う調査
2－1　県指定史跡甲府城跡石垣整備事業 …… 30
2－2　県指定史跡甲府城跡鉄門復元整備事業 …… 32
2－3　史跡富士山復旧事業 …… 34
3　県内分布調査 …… 36

第Ⅲ章　県内の概説
1　届出件数と内容 …… 60
2　発掘調査 …… 60
3　県指定文化財（考古資料）及び県指定史跡 …… 60
4　発掘調査の成果と保存整備事業 …… 60
5　発掘調査体制 …… 61
発掘届出件数・発掘調査件数の推移・2012年度県内発掘調査一覧表 …… 62～69



2012年度　発掘調査等遺跡位置図

凡　例

1　本書は、2012年度の山梨県埋蔵文化財センターの事業をまとめたものである。

2　本書の編集は、小林健二・田口明子・正木季洋が行った。

3　2012年度の収蔵資料の貸出し及び掲載許可一覧、発掘調査一覧表は2013年３月末日現在で集計したものである。

4　第Ⅱ章各遺跡の発掘調査等概要における発掘調査面積の（　）内は、調査対象面積である。

5　左記の地図は、2012年度発掘調査遺跡の位置図である。なお、地図中の番号は、１頁の発掘調査等の表に対応している。

2012（平成24）年度　職員組織

所長	八巻與志夫
次長（兼）	福島一雄
総務課長（兼）	福島一雄
調査研究課長	米田明訓
資料普及課長	山本茂樹

総務課	
主査	齊藤浩志
主任	永田英恵
主事	下野由香

調査研究課　調査第一担当	
副主幹・文化財主事	今福利恵
主査・文化財主事	宮里学
文化財主事	御山亮済
非常勤嘱託	岩下友美

資料普及課　資料第一担当	
副主幹・文化財主事	保坂和博
副主幹・文化財主事	土橋寛仁
主任（事）（兼）	中山尚行
非常勤嘱託	塩谷風季

調査研究課　調査第二担当	
主査・文化財主事	小林健二
主任・文化財主事	永田亮一
文化財主事	青木真一
文化財主事	須長愛子

資料普及課　資料第二担当	
主査・文化財主事	田口明子（宮城県派遣）
主査・文化財主事	三田村美彦
副主査・文化財主事	依田幸浩
非常勤嘱託	加々美鮎実

調査研究課　調査第三担当	
主査・文化財主事	野代幸和
主査・文化財主事	笠原みゆき
文化財主事	柴田亮平
非常勤嘱託	長田隆志

第Ⅰ章　2012年度の事業概要

1　発掘調査等

2012年度の発掘調査等は、以下のとおりである。各遺跡の概要は、第Ⅱ章で述べることとする。

1）記録保存のための発掘調査

番号	調査名他	番号	調査名他
1-1	甲府城跡（県庁舎耐震化等整備事業）	1-5	上コブケ遺跡Ｄ区（西関東連絡道路建設事業）
1-2	甲府城跡（県庁舎耐震化等整備事業）	1-6	膳棚遺跡Ｄ区（西関東連絡道路建設事業）
1-3	甲府城跡（防災新館石垣移築保存事業）	1-7	常葉川堤防遺跡（中部横断自動車道建設事業）
1-4	甲府城下町遺跡（県庁春日別館）	1-8	本城山（中部横断自動車道建設事業）

2）整備事業に伴う調査

番号	調査名他	番号	調査名他
2-1	県指定史跡甲府城跡（石垣整備事業）	2-3	国指定史跡富士山（富士山史跡復旧事業）
2-2	県指定史跡甲府城跡（鉄門復元整備事業）		

3）県内分布調査

番号	事業名他（試掘調査）	番号	事業名他（立会調査）
3-1	中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査（身延町下山地先）	3-22	都市計画道路古府中環状浅原線改良事業《甲府城下町遺跡》
3-2	中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査（南部町福士地内）	3-23	国道358号共同電線溝設置事業（甲府市上今井町地内）
3-3	中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査（南部町福士地内）	3-24	県道甲府山梨線整備事業《甲府城跡》
3-4	中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査（市川三郷町落居地内）	3-25	林野庁関東森林管理局山梨森林管理事務所白根宿舎解体事業（南アルプス市有野地内）
3-5	中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査（身延町和田地内）	3-26	南アルプス警察署三田駐在所改築事業（南アルプス市寺部地内）
3-6	中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査（身延町帯金地内）	3-27	県営住宅寿団地下水道接続事業（富士吉田市上暮地一丁目地内）
3-7	中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査（身延町和田地内）	3-28	県営住宅身延第二団地下水道接続事業（身延町波木井地内）
3-8	中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査（身延町角打地内）	3-29	山梨県防災新館建設事業《甲府城跡》
3-9	国道411号改良事業《大門後遺跡》	3-30	県庁構内県警電話幹線埋設配管経路増設事業《甲府城跡》
3-10	山梨リニア実験線建設事業に伴う試掘調査《柚木遺跡》	3-31	県立甲府東高等学校治水対策事業（甲府市酒折一丁目地内）
3-11	甲府駅南口周辺地域修景計画《甲府城下町遺跡》	3-32	県立北杜高等学校緊急修繕事業（北杜市長坂町渋沢地内）
3-12	甲府駅南口周辺地域修景計画《甲府城跡》	3-33	東部地域総合制高校建設事業《三ノ側遺跡》
3-13	リニア見学センター再整備事業（都留市川茂地内）	3-34	森林公園金川の森再整備事業（笛吹市石和町上平井地内）
3-14	県営住宅大月団地建替事業《丹後屋敷》	3-35	舞鶴橋南立ち上げ管路復活工事事業《甲府城跡》
3-15	県営住宅御坂団地他駐車場整備事業《後畑遺跡・御坂埋没条里》		
3-16	東部地域総合制高校建設事業《三ノ側遺跡》		
3-17	県立わかば支援学校建設事業《後田堰》		
3-18	県立かえで支援学校建設事業《狐原遺跡》		
3-19	県立峡南高等技術専門校本館改築等事業（富士川町青柳町地内）		
3-20	南川河川改修事業（笛吹市一宮町地内）		
3-21	曽根丘陵公園（防災公園）整備事業《上の平遺跡》		

2　整理作業

2012年度の整理作業は、以下のとおりである。

1）基礎的整理作業

番号	遺跡名	番号	遺跡名
1	甲府城跡（県庁舎耐震化等整備事業）	4	膳棚遺跡Ｄ区
2	県指定史跡甲府城跡（石垣整備工事）	5	本城山
3	上コブケ遺跡Ｄ区		

2）本格的整理作業

番号	遺跡名	番号	遺跡名
1	甲府城跡（県庁舎等耐震化等整備事業）	8	膳棚遺跡Ａ区
2	県指定史跡甲府城跡（鉄門整備事業）	9	膳棚遺跡Ｂ区
3	甲府城下町遺跡（甲府地方検察庁）	10	膳棚遺跡Ｃ区
4	上コブケ遺跡Ａ区	11	三ノ側遺跡
5	上コブケ遺跡Ｂ区	12	常葉川堤防遺跡
6	上コブケ遺跡Ｃ区	13	国指定史跡富士山（富士山史跡復旧事業）
7	廻り田遺跡Ｂ区	14	山梨県内分布調査（平成24年1月～12月）

3）報告書刊行一覧

番号	報告書名	番号	報告書名
第288集	甲府城下町遺跡（都市計画道路）	第292集	甲府城下町遺跡（甲府地方検察庁）
第289集	国指定史跡富士山復旧事業	第293集	山梨県内分布調査報告書（平成24年１月～12月）
第290集	三ノ側遺跡	第294集	県指定史跡甲府城跡鉄門復元整備事業
第291集	常葉川堤防遺跡		

３　資料普及事業

2012年度（平成24年度）に実施した事業は、県内の小・中学校等へ出向き土器作りや火起こし体験などについて支援を行う「出前支援事業」、発掘調査現場で実際に発掘を体験する「発掘体験セミナー」、中学生・高校生を発掘調査や整理作業の現場に受け入れる「職業体験」「インターンシップ」などを行った。この他、講座・講演会等への講師派遣、学校の教職員を対象に埋蔵文化財を活用した学習を授業に積極的に取り入れる指導者の育成を目的とした「山梨の考古学と埋蔵文化財活用研修会」、一般の方を対象に遺跡現地説明会、山梨県考古学協会との共催による遺跡調査発表会、山梨県生涯学習推進センターとの共催による埋蔵文化財シンポジウム「自然災害と考古学～過去からの警告～」を実施した。

県民の日に先立ち11月18日には、甲府城跡を会場に甲府城および山梨の歴史と伝統を体験してもらう甲府城鉄門整備事業との合同企画「ひらけ！玉手箱」を、11月20日には、考古博物館を会場に古代の生活を体験したり埋蔵文化財に触れたりするイベントを行った。これらの事業以外にも、遺物貸出キット・火起こし道具・映像ライブラリーなど考古資料の貸出も行った。

また、文化庁の史跡等及び埋蔵文化財公開活用事業による国庫補助金を受けて、古代の人たちの生活や知恵などを年4回の継続した活動を通して学ぶ「体験してみよう‼古代の生活スタイル」を実施した。

出前支援事業（土器成形）

出前支援事業（火おこし体験）

発掘体験セミナー

「体験してみよう‼古代の生活スタイル」
（堅杵による脱穀）

2012年度　資料普及事業集計表

月	学校への出前支援事業	人数	月	講座・講演	人数	月	遺物など貸出・利用	人数	月	発掘体験セミナー・見学会	人数	月	職場体験受入	人数
4	竜王西小学校火おこし体験	46	4	甲州寺子屋	80	4	竜王西小学校(火おこし道具)	46	4	「甲府城北史蹟めぐり」見学会	50	8	双葉中職場体験整理作業体験	2
	高根北小学校土器づくり	13		甲府城下町散策会	80		甲府東高等学校(貸出キット、復元品)	100	5	竜王北中(甲府城見学)	150		甲府北中職場体験整理作業体験	2
5	竜王中学校火おこし体験	130	5	ことぶき歓学院甲府教室	72	5	穂坂小学校(貸出キット,体験学習教材)	15	7	第1回発掘体験セミナー(上コブケ遺跡)	20		山梨大学付属中職場体験整理作業体験	1
	高根北小学校土器焼き・火おこし体験	13	6	甲府城下町散策会	52		盲学校(火おこし道具、復元品)	3		第2回発掘体験セミナー(上コブケ遺跡) (※第1回体験してみよう 古代の生活スタイル)	22		河口湖北中職場体験整理作業体験	1
	豊富小学校土器づくり体験	32		ことぶき歓学院峡南教室	42		竜王中学校(火おこし道具)	130	8	やまなし伝統工芸館博物館実習(甲府城鉄門見学)	10		市川高校職場体験整理作業体験	2
	竜王北小学校火おこし・勾玉作り体験	64		ことぶき歓学院南都留教室	44		山梨英和中学校(復元品、石器作成キット)	52		やまなし伝統工芸館博物館実習(甲府城鉄門見学)	10		富竹中職場体験整理作業体験	3
6	高根中学校火おこし体験	62	7	ひらけ！玉手箱　甲府城鉄門	18	6	市川高等学校(貸出キット，復元品)	12	9	甲運小(甲府城鉄門見学)	45		城南中職場体験整理作業体験	4
	身延町立原小学校土器づくり	10	8	第2回体験してみよう 古代の生活スタイル	21	7	玉幡中学校(貸出キット，復元品)	134		中央市自治会(甲府城鉄門見学)	30			
	豊富小学校土器焼き・火おこし体験	32		山梨の考古学と埋蔵文化財活用研修	12		すみよし愛児園(火おこし道具)	45		甲府のかふふクラブ(甲府城鉄門見学)	150			
	高根中学校火おこし体験	40		山梨の考古学と埋蔵文化財活用研修	9	8	めだかの学校(火おこし道具)	18	10	第3回発掘体験セミナー（膳棚遺跡）	20			
	田富南小学校土器づくり	28		甲府城下町散策会	59		玉幡中学校(貸出キット)	134		第4回発掘体験セミナー（膳棚遺跡）	5			
	後屋敷小学校火おこし体験	55	9	第3回体験してみよう 古代の生活スタイル	18	9	富士河口湖高校(火おこし道具、土偶)	144	11	遺跡見学会(膳棚遺跡)	80			
	身延町立原小学校土器焼き・火おこし体験	10	10	2012年度上半期遺跡調査発表会	110		県立博物館木製復元品(竪杵)	40						
7	田富南小学校土器焼き・火おこし体験	28	11	第4回体験してみよう 古代の生活スタイル	19	11	すみよし愛児園(火おこし道具)	15						
	中道南小学校火おこし体験	27		地域ウォークラリー　甲府市立紺屋小学校	263		甲府東高等学校(貸出キット)	100						
	富士見小学校学童保育火おこし体験	69		ひらけ！玉手箱	1,600	12	竜王中学校(火おこし道具)	130						
11	大月市立大月東小学校	84		県民の日イベント及び30年のあゆみ展	1,332	3	吉田高等学校(貸出キット)	53						
				甲府城下町散策会	60									
			12	ことぶき歓学院北都留教室	37									
			1	甲府城跡鉄門オープニングイベント	96									
				甲府城跡鉄門オープニングイベント	135									
				甲府城跡鉄門オープニングイベント	3									
			2	開設30周年記念講演会	21									
				再発見講座第1回	95									
				再発見講座第2回	85									
				ことぶき歓学院中北教室(北巨摩合同庁舎)	80									
				再発見講座第3回	72									
				再発見講座第4回	79									
			3	2012年度下半期遺跡調査発表会	90									
				埋文シンポジウム	63									
	17件	743		30件	4,747		17件	1,171		12件	592		7件	15

人数総計 7268 人

件数総計 83 件

4　収蔵資料の貸出し及び掲載許可一覧

収蔵資料貸出し一覧

番号	貸出期間	申請者	利用目的	申請物件名	
1	5.19～8.10	南アルプス市教育委員会	エントランス展示『市内に広がるウシ・ウマの足跡』に展示のため	百々遺跡	甲斐型坏1点
					獣歯（ウマ）1点
					石製巡方1点
2	7.1～12.25	MIHO MUSEUM	秋季特別展『土偶・コスモス』に展示のため	安道寺遺跡	水煙文土器1点
3	7.14～9.3	県立博物館	企画展『クニマスは生きていた～山梨おさかな発見物語』で展示のため	鰍沢河岸跡	魚類遺存体1式
4	8.1～11.22	長野県立歴史館	秋季企画展『縄文土器展』に展示のため	一の沢遺跡	縄文土器2点
				安道寺遺跡	縄文土器1点
5	9.20～12.28	明治大学博物館	特別展『氷河時代のヒト・環境・文化～THE ICE AGE WORLD～』に展示のため	横針前久保遺跡	旧石器12点
6	9.20～ 平成25.6.30	「黄金の国々」展実行委員会	企画展『黄金の国々～甲斐の金山と越後・佐渡の金銀山～』に展示のため	甲府城跡	金箔付飾り瓦2点
7	9.14～12.20	北杜市教育委員会	企画展『天神遺跡群の実像』に展示のため	天神遺跡	縄文土器5点
					ヒスイ大珠1点
					黒曜石大型原石1点
				柳坪遺跡	土偶2点
				小坂遺跡	縄文土器5点
					けつ状耳飾り1点
				甲ッ原遺跡	けつ状耳飾り2点
					縄文土器6点
					琥珀垂飾3点
					鈎状石製品2点
					土偶2点
8	11.10～ 平成25.3.31	神奈川県教育委員会	遺跡展・巡回展『勝坂縄文展』に展示のため	安道寺遺跡	縄文土器1点
				海道前Ｃ遺跡	縄文土器1点
					石棒1点
9	11．29～ 平成25.6.1	文化庁	指定調査のため	酒呑場遺跡	縄文土器・土製品22点
					石器・石製品45点
10	平成25.2.19～5.24	埼玉県立歴史と民俗の博物館	特別展『発掘された木の道具』で展示のため	甲斐銚子塚古墳	木柱1点
					円盤形木製品4点
					蕨手形木製品3点
					棒状木製品1点
					円盤・蕨手・棒状木製品復元品1点
11	平成25.3.19～6.28	釈迦堂遺跡博物館	企画展『縄文人の装い』に展示のため	天神遺跡	ヒスイ大珠1点
				大月遺跡	ヒスイ大珠2点
				上の平遺跡	垂飾1点
				花鳥山遺跡	けつ状耳飾り1点
				獅子之前遺跡	玉斧1点
12	平成25.2.20～6.28	県立博物館	企画展『水の国やまなし―信玄堤と甲斐の人々―』に展示のため	宮沢中村遺跡	木製品4点
				二本柳遺跡	木製品11点
				大師東丹保遺跡	木製品10点
				平田宮第2遺跡	木製品28点
					土器・石製品16点
13	平成25.3.22～ 平成26.3.31	県立博物館	常設展『山梨の自然と人』に展示のため	甲斐国分寺跡	鬼瓦のレプリカ1点

14	平成25.3.31～6.28	中央市豊富郷土資料館	企画展『中央市・中世に生きた人々』	小井川遺跡	灰釉陶器1点
					土師質土器皿1点
					硯5点
					五輪塔部材2点
					宝篋印塔部材2点

古代衣装貸出し一覧

番号	貸出期間	申請者	利用目的	申請物件名	
1	5.29～6.19	竜王西小学校	社会科学習のため	貫頭衣	3着
				胡服	3着
				巫女	3着
				官吏	3着
				女官	3着
2	5.31～6.4	塩山北小学校	社会科学習のため	貫頭衣	2着
				胡服	2着
				巫女	2着
				官吏	2着
				女官	2着
3	6.28～7.8	富士見小学校学童クラブ	古代の服について知るため	貫頭衣	1着
				胡服	1着
				巫女	1着
4	11.5～11.30	四日市市教育委員会	『伊勢湾をのぞむ古代の役所―久留倍官衙遺跡』展での展示に使うため	貫頭衣	1着
				官吏	1着

写真資料貸出し許可一覧

番号	申請日	申請者	利用目的	申請物件名	
1	4月14日	MIHO MUSEUM	秋季特別展『土偶・コスモス』図録等に掲載のため	安道寺遺跡	縄文土器1点
2	4月16日	個人	考古学ジャーナル4月号に掲載のため	甲府城跡	人形付鬼瓦1点
					鉄門調査風景2点
3	4月16日	個人	山梨県考古学会誌21号に掲載のため	甲府城跡	稲荷櫓整備事業に係わるもの2点
4	5月16日	南アルプス市教育委員会	エントランス展示『市内に広がるウシ・ウマの足跡』展示パネルに掲載のため	百々遺跡	出土状況5点
5	5月24日	(株)アドブレーン社	県内各所に設置の大型ビジョンで放映するため	百々遺跡	遺跡全景1点
					遺構写真1点
6	6月13日	県立博物館	企画展『クニマスは生きていた～山梨～おさかな発見物語』図録等に掲載のため	鰍沢河岸跡	出土魚類遺存体1点
7	6月21日	埼玉県立歴史と民俗の博物館	特別展『発掘された木の道具』図録等に掲載のため	甲斐銚子塚古墳	出土状況4点
					木製品2点
					復元イメージ1点
8	6月21日	(株)碧水社	『日本の城データファイル』に掲載のため	甲府城跡	空撮写真1点
9	6月27日	(株)ベネッセコーポレーション	『2012年度　大学入試　第2回ベネッセ・駿台記述模試・10月（日本史Ｂ）』に掲載のため	甲ッ原遺跡	石皿と磨石1点
10	7月20日	長野県立歴史館	秋季企画展『縄文土器展』図録等に掲載のため	一の沢遺跡	縄文土器2点
				安道寺遺跡	縄文土器1点

11	8月10日	笛吹市教育委員会	文化財パンフレットに掲載のため	平林2号墳	青銅鏡類1点
					馬具類1点
					武器類1点
					装身具類3点
					出土状況3点
					調査前の状況1点
					古墳全景1点
12	8月22日	明治大学博物館	特別展『氷河時代のヒト・環境・文化―THE ICE AGE WRLD―』図録等に掲載のため	横針前久保遺跡	旧石器1点
13	8月22日	県立博物館	企画展『黄金の国々―甲斐の金山と越後・佐渡の金銀山―』図録等に掲載のため	甲府城跡	金箔付飾り瓦2点
14	8月31日	(株)新泉社	『縄文土器ガイドブック』に掲載のため	安道寺遺跡	縄文土器1点
15	9月6日	北杜市教育委員会	企画展『天神遺跡群の実像』ポスター・チラシ等に掲載のため	天神遺跡	出土遺物7点
				柳坪遺跡	出土遺物2点
				小坂遺跡	出土遺物6点
				甲ッ原遺跡	出土遺物15点
16	9月6日	(株)新泉社	『縄文土器ガイドブック』に掲載のため	天神遺跡	縄文土器1点
				酒呑場遺跡	縄文土器1点
				宮の前遺跡	縄文土器1点
17	10月3日	(株)アム・プロモーション	『縄文土器を読む』に掲載のため	安道寺遺跡	縄文土器1点
18	10月25日	奈良県立橿原考古学研究所附属博物館	特別陳列『十二支の考古学―巳―』に展示のため	安道寺遺跡	縄文土器1点
19	11月15日	神奈川県教育委員会	遺跡展・巡回展『勝坂縄文展』図録等に掲載のため	安道寺遺跡	縄文土器1点
				海道前Ｃ遺跡	縄文土器1点
				海道前Ｃ遺跡	石棒1点
20	11月29日	(株)平凡社	『縄文ビジュアル百科』に掲載のため	一の沢遺跡	土器集合3点
					縄文土器1点
				殿林遺跡	縄文土器1点
				海道前Ｃ遺跡	縄文土器1点
				酒呑場遺跡	縄文土器3点
					土鈴・鳴子1点
				安道寺遺跡	縄文土器2点
				大木戸遺跡	縄文土器1点
				天神遺跡	縄文土器1点
				上野原遺跡	縄文土器1点
				天神遺跡	ヒスイ大珠1点
21	12月1日	共同通信社	新年の連載企画『えとの日本史　巳』の記事配信のため	大木戸遺跡	縄文土器1点
22	12月12日	(株)雄山閣	『季刊考古学122号』に掲載のため	天神遺跡	ヒスイ大珠1点
23	1月10日	(株)新泉社	『遺跡を学ぶ』別冊03『縄文時代ガイドブック』に掲載のため	酒呑場遺跡	縄文土器2点
24	1月23日	(株)童夢	『お豆なんでも図鑑』に掲載のため	酒呑場遺跡	縄文土器2点
25	1月27日	糸魚川市教育委員会	『ヒスイってなんだろう』に掲載のため	天神遺跡	ヒスイ大珠1点
26	1月28日	県立博物館	企画展『水の国やまなし―信玄堤と甲斐の人々―』図録等に掲載のため	宮沢中村遺跡	出土状況2点
				二本柳遺跡	出土状況5点
				大師東丹保遺跡	出土状況1点
				平田宮第２遺跡	木製品1点
					出土状況2点
27	2月5日	(株)MOKU出版	月刊誌「MOKU3月号」に掲載のため	安道寺遺跡	縄文土器1点
28	3月5日	南アルプス市教育委員会	冊子『堤の原風景（3訂版）』へ掲載のため	宮沢中村遺跡	調査風景2点
					磁器集合1点

29	3月14日	釈迦堂遺跡博物館	企画展『縄文人の装い』チラシ・展示解説に掲載のため	天神遺跡	ヒスイ大珠1点
				大月遺跡	ヒスイ大珠2点
				上の平遺跡	垂飾1点
				花鳥山遺跡	けつ状耳飾り1点
				獅子之前遺跡	玉斧1点
30	3月19日	(有)スタジオパラム	『関東・甲信越　古代遺跡ガイド』に掲載のため	銚子塚古墳	全景1点
					木柱出土状況1点
					木製円盤集合1点
					三角縁神人車馬鏡
					作業風景1点
				立石遺跡	住居跡完掘写真1点
					作業風景1点
					旧石器集合1点
				考古博物館	縄文土器3点
					土師器1点
					外観写真1点
					展示室内写真1点
					空撮写真1点
31	3月27日	(株)同成社	『市民の考古学シリーズ第10巻　歴史時代を掘る(仮)』に掲載のため	山梨県山岳信仰遺跡詳細分布調査	調査写真3点

5　第25回市町村埋蔵文化財発掘担当者研修会

開催日時　2013年2月22日（金）午後１時～４時
会　　場　風土記の丘研修センター　講堂
講　　師　仙台市博物館副館長　　金森　安孝　氏

本研修は、県内市町村の埋蔵文化財担当職員の資質や技術向上を目的とするもので、今回で25回目となる。

今年度は、「文化財レスキュー事業からみた東日本大震災による被災と復旧について～文化財の保護・保存とその役割について考える～」をテーマに、2011年3月11日に発生した東日本大震災による仙台市博物館や国史跡仙台城跡ほか、城郭の石垣等の被災状況や、それに伴う文化財レスキュー事業の取り組みについて講演していただいた。被災の「教訓」として、過去の被災記録調査や石垣カルテ作成等の必要性や城郭を核としたまちづくりが復興のシンボルになるという提案もなされ、参加者約30名が文化財の保護や保存の意義を改めて認識することができる貴重な機会となった。

6　遺跡調査発表会

遺跡調査発表会は、山梨県考古学協会と共催で、上半期と下半期の年2回開催している。県内の最新発掘情報を広く県民に公表する場であり、パワーポイントなどを使用した分かりやすい発表となっている。また、出土品や写真パネルのミニ展示も併設している。

○2012年度上半期遺跡調査発表会【参加者約110名】
開催日時：2012年10月22日（土）　午後１時30分～４時40分
開催場所：風土記の丘研修センター　講堂
発表１　韮崎市：宿尻遺跡（発表者　韮崎市教育委員会　閏間俊明）
縄文時代中期の竪穴住居跡6軒や大型の袋状土坑、古墳時代前期の布堀構造をもつ掘立柱建物跡1棟などが発見された。
発表２　甲斐市：金の尾遺跡（発表者　甲斐市教育委員会　大嶌正之）
山梨を代表する弥生時代の遺跡。弥生時代後期の方形周溝墓3基、古墳時代前期の竪穴住居跡4軒などが発見された。
発表３　山梨市：上コブケ遺跡（発表者　山梨県埋蔵文化財センター　柴田亮平）
古墳時代前期・平安時代中期の竪穴住居跡12軒、掘立柱建物跡6棟などが発見された。
発表４　山梨市：日下部遺跡（発表者　公益財団法人山梨文化財研究所　宮澤公雄）
山梨の考古学史に残る平安時代の遺跡。9世紀後半～10世紀代の竪穴住居跡6軒や掘立柱建物跡などが発見された。
発表５　甲府市：甲府城下町遺跡（発表者　山梨県埋蔵文化財センター　土橋寛仁）
江戸時代初期の鍛冶遺構が発見され、石臼や金粒が付着したふいごの羽口、かわらけが出土したことから、金座に係る甲州金の吹き替えを行っていた建物の一部と考えられる。

○2012年度下半期遺跡調査発表会【参加者約80名】
開催日時：2013年3月16日（土）　午後１時～４時30分
開催場所：帝京大学文化財研究所　大ホール

発表１　北杜市：堰口遺跡（発表者　北杜市教育委員会　佐野隆）
縄文時代前期から中期にかけての50軒を超える竪穴住居跡や、ドングリのアク抜き遺構と考えられる溝などが発見された。

発表２　甲府市：川田瓦窯跡・北田遺跡（発表者　甲府市教育委員会　平塚洋一）
平安時代前期の竪穴住居跡3軒、7世紀後半および8世紀中頃の瓦が大量に出土した溝などが発見された。瓦には、寺本廃寺・甲斐国分寺の同笵瓦が含まれていた。

発表３　山梨市：膳棚遺跡Ｄ区（発表者　山梨県埋蔵文化財センター　青木真一）
平安時代末期の竪穴式住居跡43軒、土坑19基などが発見された。

発表４　韮崎市：山影遺跡・三光寺塁跡（発表者　韮崎市教育委員会　閏間俊明）
現存する土塁が戦国時代末期に遡ることが確認され、縄文時代から戦国時代にかけての溝・土坑・ピット群などが発見された。

発表５　身延町：大野堤防遺跡（公益財団法人山梨文化財研究所　宮澤公雄）
徳川家康の側室養珠院（お万の方）の菩提寺である本遠寺を守るために築かれた堤防の調査。

７　埋蔵文化財シンポジウム

シンポジウムの様子（寒川先生）

シンポジウムの様子（高橋先生）

これまで埋蔵文化財シンポジウムは、考古学と関連諸分野の研究者との連携により実施し成果を上げてきた。平成24年度は、東日本大震災から2年が経ち自然災害に対する世間の関心が高まるなか、日本人がどのように災害に向き合ってきたのかを遺跡の発掘調査において発見される様々な災害の痕跡や歴史的資料をもとに考え、学び、今後の防災や減災につなげていこうということで「自然災害と考古学～過去からの警告～」をテーマに、山梨県生涯学習推進センターとの共催で山梨県立男女共同参画推進センター「ぴゅあ総合」大研修室において基調講演とシンポジウムを行った。

基調講演では、地震考古学、地震地質学等で著名な寒川旭先生（独立行政法人産業技術総合研究所）より「遺跡が語る地震の歴史」というテーマで、また、環境考古学、災害リスクマネージメント等の分野で御活躍されている高橋学先生（立命館大学）より「未来を語る環境考古学～災害を掘る～」というテーマで講演をいただいた。

このシンポジウム開催前の4回のやまなし再発見講座(サテライトスクール)では、山梨県生涯学習推進センター・セミナー室において次のような講座を行った。各講座は県内4合同庁舎及び山中湖情報創造館のサテライトスクールへ配信された。

第１回　「溶岩流と火山灰災害」：平成25年2月7日（木）
講師：杉本悠樹氏（富士河口湖町教育委員会）

第２回　「土石流による災害」：平成25年2月14日(木)
講師：篠原　武氏（富士吉田市教育委員会）
第３回　「温故知震 ～遺跡に学ぶ地震災害～」：平成25年2月21日（木）
講師：保坂和博氏（山梨県埋蔵文化財センター）
第４回　「堤防遺跡からみる減災の視点」：平成25年2月28日（木）
講師：斎藤秀樹氏（南アルプス市教育委員会）

シンポジウムでは、各講座の担当者からそれぞれの講座の要旨の説明後、会場からの質疑応答を交えながら自然災害と考古学との関連について考えを深めることができた。

シンポジウム
パネラー：寒川　旭・高橋　学・篠原　武・杉本悠樹・斎藤秀樹・保坂和博
コーディネーター：八巻與志夫（埋蔵文化財センター所長）

シンポジウムの様子（高橋先生）

８　山梨の遺跡展2013

「山梨の遺跡展2013」は、平成24年度中に県内で実施された発掘調査並びに整理作業の成果を広く一般に公開し、埋蔵文化財に対する理解と郷土への歴史的認識を深めてもらう場として、平成25年3月9日～4月7日まで県立考古博物館の企画展示室で開催した。今回で25回目の開催であり、例年通り観覧無料とした。

展示内容は、次のとおりである。

（１）当センターが行ったもの

西関東連絡道路建設に関わる上コブケ遺跡Ｄ区では、古墳時代の器台・平安時代の甕や坏、同事業の膳棚遺跡Ｄ区では、平安時代末の緑釉陶器や花瓶、坏、甕を展示して、出土状況等をパネルで紹介した。中部横断自動車道建設に関わる本城山は、戦国時代のかわらけや陶器などを展示し、常葉川堤防遺跡は遺構や発掘の様子を写真パネルで紹介した。災害復旧事業国指定史跡富士山（１合目付近）は、2011年3月11日の東日本大震災、同年3月15日の静岡県東部地震により倒壊した石碑や石鳥居の復旧、調査の様子を写真パネルで紹介した。県庁舎耐震化等整備事業に関わる甲府城跡（県庁構内地点）は、駐輪場地点と委員会室棟地点の2ヵ所の成果を紹介し、かわらけや瓦等に加えて、薬莢や焼夷弾頭等を展示した。県指定史跡甲府城跡石垣整備事業は、詰石に使用された宝篋印塔や刻印のある石を展示した。県指定史跡甲府城跡鉄門復元整備事業は復元整備作業の様子を写真パネルで紹介した。

また、県内分布調査や資料普及事業についてもパネル展示をおこなった。ふるさと山梨文化財歴史発見事業は、体験事業の中で行った土器づくりの成果と作成した石包丁を展示した。

（２）県内の教育委員会が行ったもの

甲府市教育委員会は県指定史跡武田晴信室三条氏墓、天神山古墳、大坪遺跡の3ヵ所の成果を展示

した。県指定史跡武田晴信室三条氏墓、天神山古墳は、遺構や発掘の様子を写真パネルで紹介し、大坪遺跡は平安時代の坏や蓋、壺を展示した。山梨市教育委員会の日下部遺跡は、平安時代の墨書土器や坏、甕を、北杜市教育委員会の堰口遺跡は、縄文時代前期・中期の土器、石器や石製装飾具を、身延町教育委員会の大野堤防遺跡は、近世～近代の陶器や磁器、古銭などを展示し調査成果を紹介した。

９　広報誌『埋文やまなし』

◆42号

甲府城では、鉄門の復元事業や城内にある県庁整備・甲府市役所整備・甲府地方検察庁整備等に伴う発掘調査が行われ、こうした中で城下町では金座がみつかるなど多くの注目を集めるようになってきており、城下町を散策する「ぶらっと甲府城下町」を開催したところである。これにあわせて本号は「甲府城下町をめぐる」と題する甲府城下町を紹介する特集とし、甲府城下町を現在の町並みと重ねたイラストマップ「平成甲府城下町絵図」によって散策できるよう楽しめるものとした。

◆43号

本号は、「埋蔵文化財センター30周年記念号」と題し、開所からの30年間の事業歴史を年表を通して詳細に解説した。また、平成24年11月20日から2週間開催した「考古博物館と埋蔵文化財センターの30周年のあゆみ展」を写真資料を用いながら紹介した。その他、西関東連絡道路建設に伴う膳棚遺跡Ｄ区発掘事業で行った現地説明会の模様や、平成25年初頭の主催イベント等の告知を行った。

◆44号

「埋文やまなし」44号では、平成24年当センターが開所30周年事業として開催した「体験してみよう！！古代の生活スタイル」という小中学生を対象とした体験学習会の模様を掲載した。第1回は山梨市上コブケ遺跡での発掘体験、第2回以降は北杜市にある峡北収蔵庫遺跡まなび館で、実物の縄文土器を見本とした縄文土器づくり、石包丁づくり（第2回）、土器焼成、石包丁での穂摘み体験（第3回）、焼成した土器での調理体験、複製品の磨製石斧による伐採体験（第4回）など、考古資料の公開活用を通じて郷土の歴史を学ぶ学習会の様子を紹介した。

10　県指定史跡甲府城跡活用事業

県指定史跡甲府城跡（舞鶴城公園）は、平成2年から県土整備部主体のもと「舞鶴城公園整備事業」に着手し、文化財の保護や安全性の向上等を目的として城内の整備を実施してきた。平成16年に稲荷櫓が完成し、整備事業は完了したが、現在も県土整備部によって石垣補修工事等、史跡の維持管理が続けられている。

平成22年度から県教育委員会で実施した鉄門復元整備事業は、甲府城跡に更なる歴史的風格を持たせ地域活性化に繋げることを目的として始まった。事業の最終年度となる今年度は、竣工式典やオープニング関連企画等をはじめ、年間を通して様々な活用事業を実施した。また、教育委員会だけでなく県土整備部、観光部、竣工に際しては国民文化祭課とも連携し活用事業を行うことで、史跡の利活用のあり方を多角的に検討し、郷土学習の場として次世代に繋げられるよう努めた。

・夏季臨時企画展『ひらけ！玉手箱』～よみがえる鯱～

平成25年1月の公開に向けて復元整備中の鉄門について、そのシンボルともいえる鯱瓦を復元し、8月下旬に葺く工程となった。完成後も外観として鯱瓦を見上げることは可能であるが、復元根拠とあわせて間近に観察することはできなくなるため、発注者である県土整備部営繕課と施工者である長

田組土木・フカサワＪＶの協力を得て『ひらけ！玉手箱』～よみがえる鯱～を開催した。

また、夏休み期間を利用して展示することで、本事業や甲府城の歴史など、大人だけでなく子どもまで広く関心を持ってもらうことも目的とした。

開催期間は、山梨県立考古博物館では平成24年7月3日（火）～8月10日（金）、甲府城跡稲荷櫓では平成24年8月11日（土）～8月19日（日）と2会場で実施した。

あわせて、鉄門事業の概要や復元の経緯等の解説パネルを展示し、7月21日（土）の午後には小中学生を対象に鯱瓦写生大会を実施した。また愛称として鯱瓦の名前を募集し、鉄門オープニングの際に発表する企画も実施した。これには57件の愛称候補が寄せられ、投票の結果、阿形の鯱瓦は「しゃっちー」吽形の鯱瓦は「ほこちー」と決定された。

鯱瓦写生大会の様子

展示会の様子

・プレ県民の日イベント「ひらけ！玉手箱～山梨の伝統と歴史を体感しよう！」

平成24年11月18日、甲府城跡を会場とし、埋蔵文化財センターと県立考古博物館主催のもと、縄文時代から江戸時代にかけての様々な伝統技術と文化を体感してもらうことを目的とした普及活動を行った。

例年は、11月20日の県民の日に開催していたが、本年度は休日の18日（日）にプレ県民の日として開催することとなった。

主な取り組みとしては、甲府城跡の歴史を学ぶことを目的とし、甲府城の壁にある狭間から弓矢を射る弓矢体験、埋蔵文化財センター認定甲府城検定、御金蔵破り体験、ほら貝体験、甲府城ぬりえをおこなった。また、江戸時代の遊びをテーマに、泥めんこ投げ、甲府城かるた、吹き矢のほか、江戸時代の文化芸能にふれる甲府城落語や江戸時代の大道芸、風呂敷のつつみ方講座を実施した。

さらに鉄門復元整備事業に関連して荒壁ぬり体験、 鉄門パネル展、ミニチュア石垣による石工体

石引き体験の様子

大工体験の様子

験や約1トンの石材を運ぶ石引き体験、大工体験としてカンナやノコギリ、釘の早打ち体験、児童らによる小屋を組み立てる体験など甲府城跡に関心や親しみを持ってもらう機会に努めた。

・県指定史跡甲府城跡鉄門復元整備事業関連刊行物

◆「鉄門復元整備事業報告書」

本書は、文化財復元整備工事の報告書であるが、3カ年にわたる調査成果や詳細な工事内容のほか、普及活動としての取り組みについても言及した報告書である。

◆「よくわかる甲府城事典」巻ノ七～九

本年度の鉄門復元整備事業の進行状況を工事工程にあわせて解説したほか、甲府城跡の歴史や城内の見どころ、甲府城跡および駅周辺の文化施設や江戸時代の甲府城下町の名残を紹介した。紹介した見どころや諸施設などは本誌掲載のＱＲコードでより詳細な情報が得られる工夫をした。

◆よみがえる鉄門（改訂版）

昨年度に刊行した「よみがえる鉄門」と同タイトルの改訂版に位置付けられるもので、鉄門復元整備および関連工事が完了した状況を本誌には反映した。

・文化財工事講習会

鉄門復元整備工事には様々な職種が工事に携わった。特に、配管の埋設工事は掘削を伴うため慎重な作業が必要となる。石垣補修工事も築城期の石垣を対象とするため「舞鶴城公園稲荷櫓整備事業と県指定史跡甲府城跡発掘調査に関するマニュアル」に基づき作業に対する注意事項等を事前に講習した。

・視察・見学会など

鉄門復元整備事業に伴い、県内外から鉄門工事現場や甲府城跡の視察、見学会の依頼が寄せられたため、甲府城跡の利活用促進や事業への理解を促す機会として受け入れた。

県外地方公共団体や県内各種団体の視察研修では甲府城跡の整備方針、事業の概要から復元根拠、工事の進捗状況について解説した。そのほか博物館実習や高等技術専門学校などの現地研修、甲府市内の小学校の依頼を受け、郷土学習の場として対応した。

出前支援による普及活動の様子

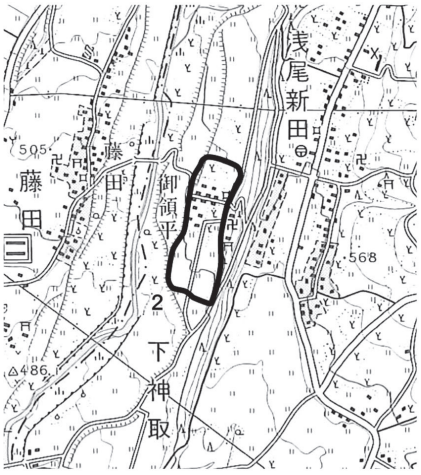
校外学習の受け入れの様子

学芸員実習での現地視察

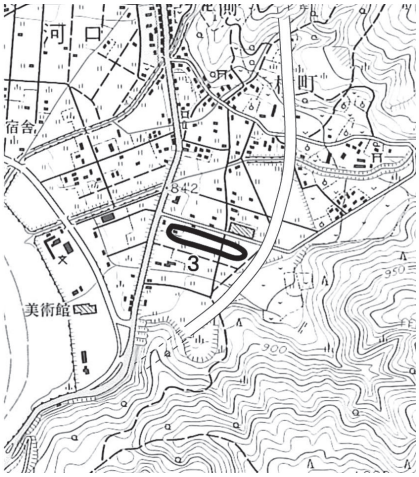
11　遺跡データ管理（ＧＩＳ）

2012年度の遺跡管理システム（Geographic Information System）に登録した遺跡の発見や範囲の変更については、7件であった。内訳は、遺跡の発見（１．山梨市 神明前遺跡、２．北杜市 前町遺跡、３．富士河口湖町 鯉ノ水遺跡、４．身延町 平林遺跡）4件と遺跡範囲の変更修正（５．山梨市 日下部遺跡、６．都留市 三ノ側遺跡、７．中央市 上窪遺跡）3件である。

1　神明前遺跡

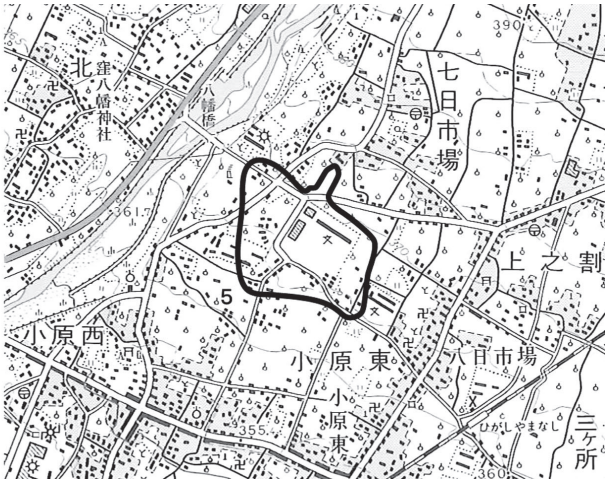


2　前町遺跡

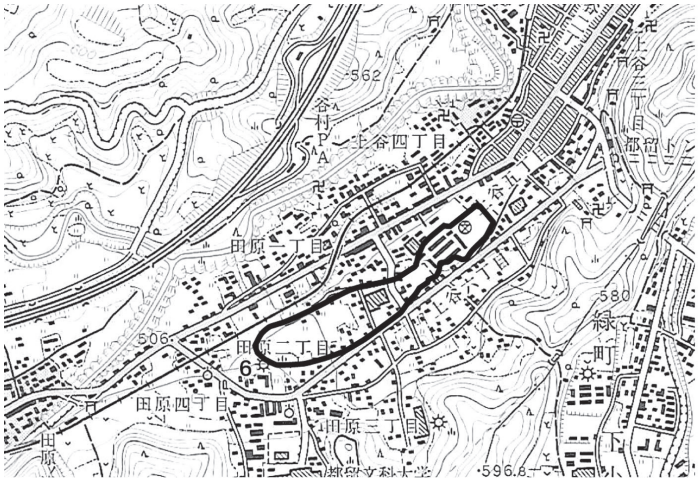


3　鯉ノ水遺跡

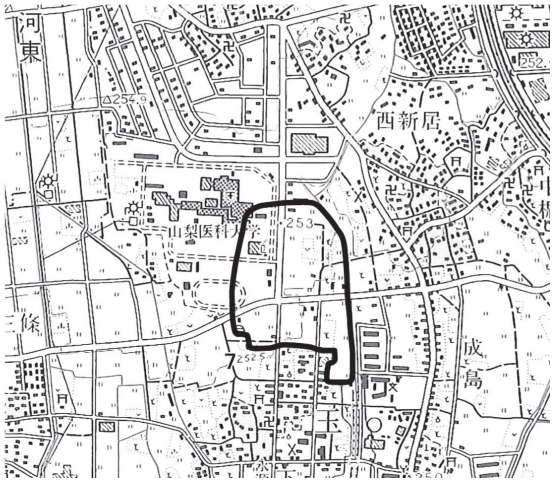
4　平林遺跡



5　日下部遺跡



6　三ノ側遺跡



7　上窪遺跡

12　報告書PDF化（遺跡資料リポジトリ）

平成24年11月30日に山梨県教育委員会と国立大学法人信州大学付属図書館が協定を結び、「山梨県遺跡資料リポジトリ」が正式に公開された。遺跡資料リポジトリとは、考古・歴史分野の基本資料である遺跡調査報告書の電子化を進めるとともに、リポジトリ（倉庫）システムを構築することで、当該分野の調査・研究、教育活動の支援と、貴重な文化財遺産の記録を広く一般に公開するための取り組みである。

山梨県埋蔵文化財センターでは、これまで発行した調査報告書のPDF化作業を進めており、今年度は、山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第101集から287集までのPDFデータを山梨県遺跡資料リポジトリへ提供した。

13　埋蔵文化財センター峡北収蔵庫遺跡まなび館

今年度は、国補事業を取り入れた体験事業、遺物台帳整備、講演会及び愛宕山収蔵庫にある遺物の搬入などを行った。

体験事業では、土器づくり、石器づくり、土器焼き、石器で稲刈り、火起こし、磨製石斧による木の伐採、土器による炊飯体験などを行った。小学生の参加者トータル人数は58名で、親子で実施した。最終の事業では収穫祭を行い、焼き芋をつくって皆で食べ、全員で写真撮影を行った。

遺物の台帳整備では、昨年度遺跡まなび館に搬入された遺物の内、11,255箱の台帳作成を終了した。

講演会は、冬の2月3日に実施したことから、参加人数が少なく21名であった。

遺物の搬入では約7,000箱を受け入れ、各部屋へ地域ごとに収納し、台帳作成を行う予定である。

なお、体験事業で行った土器づくりと石器づくりでは、山梨の遺跡展2013に出品した。

14　寄贈・購入図書

図書は、毎年度約3,000～4,000冊が寄贈・購入されている。寄贈図書の内容は、全国の都道府県・市町村教育委員会から送付される発掘調査報告書、年報、研究紀要、博物館・資料館等の企画展図録などである。その他にも業務に関する考古学や歴史学の専門書、学術雑誌を購入している。

2012年度（平成24年度）は、3,173冊の図書を登録し、専門書・学術雑誌の購入は 59冊である。総登録数約98,200冊に大塚文庫約11,000冊を加えると約109,200冊が収蔵されていることになる。

登録された図書データは、図書データベース（マイクロソフト社データベースアクセス）で管理し、蔵書の検索もできるようにしている。

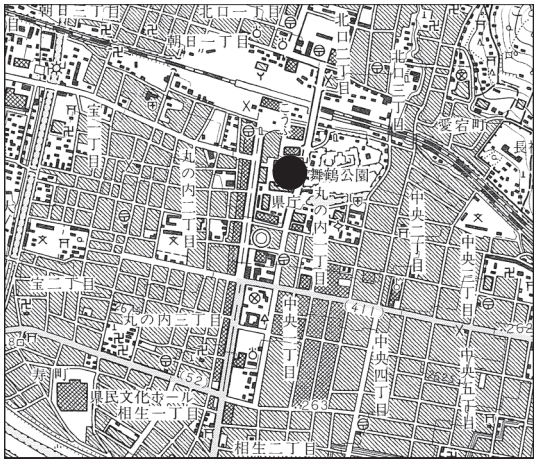
年々増加していく図書であるが、収蔵スペースが不足し、2008年度（平成20年度）に書棚設置場所を設けて書棚6棚を増設し、2011年度（平成23年度）には5棚増設したものの、既に限界に達している。依然として閲覧スペースを含めた収蔵スペースの確保・整備が大きな課題となっている。

第Ⅱ章　各遺跡の発掘調査等概要

1　記録保存のための発掘調査

1－1　甲府城跡（委員会室棟）

所　在　地　甲府市丸の内一丁目6-1
事　業　名　県庁舎耐震化等整備事業
調 査 期 間　2013年1月21日～2月20日
調 査 面 積　約140㎡
担　当　者　今福利恵・御山亮済



甲府城跡（委員会室棟）位置図

調査は県庁委員会室棟改築に伴い実施した。甲府城内においては楽屋曲輪の東端にあり、月見櫓台下の西側に該当する。甲府城内の絵図では温泉地が想定される場所である。昭和6年に県庁舎が現在の場所に建設される前には、明治33年から甲府中学校が建っており、調査区は甲府中学校の敷地内にあたる。

発掘調査を実施するにあたり、2012年5月28日～6月1日の日程で試掘調査をおこなった。試掘調査は委員会室棟の外周にある幅約3mの植栽帯の南側・東側・北側を対象として、1～7号試掘坑まで設定した。試掘調査の結果、委員会室棟南側は発掘調査による記録保存が必要であると判断し、東側については立会い調査、北側については保護措置不要にて対処することとした。

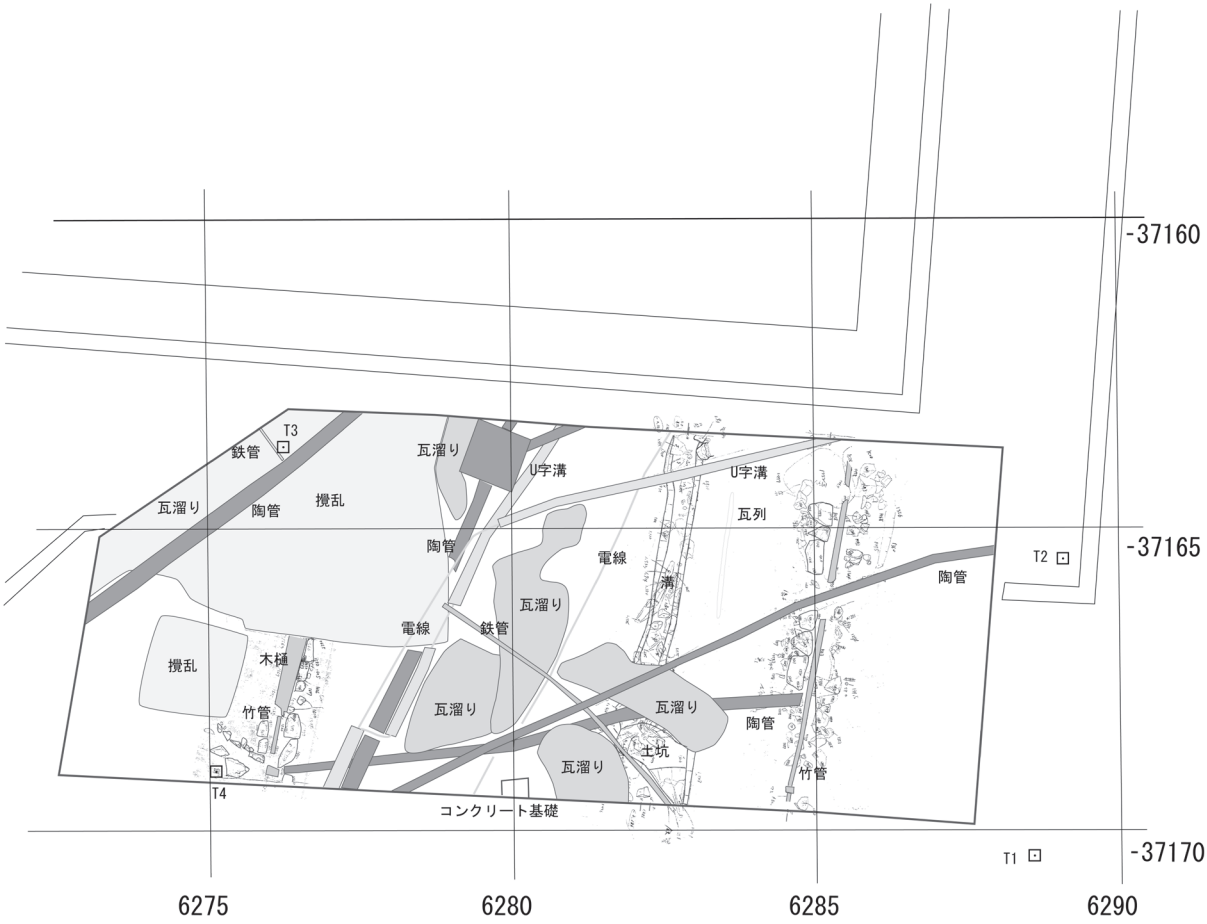
試掘調査の成果を踏まえて、今年度中に実施できる委員会室棟南側の範囲を対象として発掘調査を実施することとなった。1月21日に重機による表土剥ぎを実施し、翌22日より人力による掘り下げを開始した。作業により生じた排土は場内にて処理し、2月18日までに人力による掘り下げ作業および重機による埋め戻し作業を終了し、2月20日までに機材等を撤収して現場での作業を終了した。

地表面直下の表土は、近現代の陶磁器類やコンクリート塊がみられる黒色土層である。この表土を掘り下げると、調査区東端部ではピンク色の堅緻地盤を検出した。この面では土管が3列、4方向に接続された雨水桝、鉄管1条、U字溝などの近現代に埋設されたインフラがみられた。また、同面からは石組み水路2列、溝1条、土坑1基、瓦溜まりを検出した。

2列の石組み水路は、約8m間隔で南北方向に平行しており、水路内にはいずれも竹樋が設置されていた。また2つの石組み水路は陶管により接続されており、明治期以降に設置されたものと想定される。石組み水路の2m西では南北方向に伸びる溝を検出した。深さは約15cmで溝内には径20cm程の礫が大量に投棄されて埋め戻されていた。南側では、溝に接続して土坑を検出した。土坑は地山を旧地表面より約80cmの深さまで掘り込んでいる。溝内に投棄された礫の隙間と土坑内には粘土が堆積していたが、時期・性格は不明である。これらの遺構を検出した旧地表面では、広範囲にわたり瓦が堆積している。瓦は細かい破片になったものが多く、明治期以降に人為的に砕いて広範囲に敷設したものと思われる。

今回の発掘調査で出土した瓦は甲府城期のものを含むが、近代以降に帰属する瓦も多く見られた。2列の石組み水路は甲府城期に構築されたものを再利用した可能性もあるが、今回の発掘調査では、甲府城期と明確にわかる遺構は確認できなかった。

出土遺物は瓦が大半を占め、その他陶磁器類などプラスチック収納箱20箱（推定重量約500kg）である。



甲府城跡（委員会室棟）　遺構平面図

石組み水路1(東から)

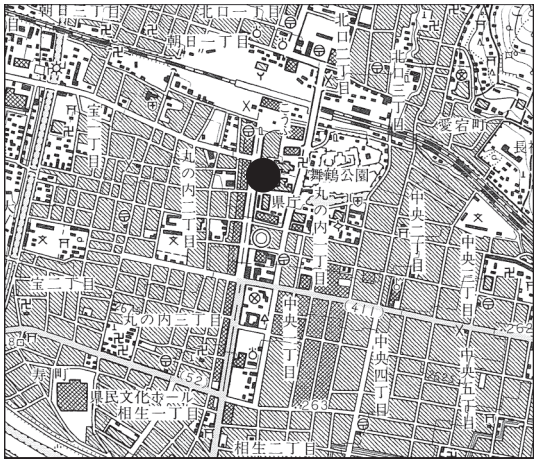
石組み水路2(南から)

溝・土坑(南から)

インフラ・瓦溜まり(南から)

1−2　甲府城跡（駐輪場）

所　在　地　甲府市丸の内一丁目6-1
事　業　名　県庁舎耐震化等整備事業
調 査 期 間　2012年11月1日～12月14日
調 査 面 積　約270㎡
担　当　者　今福利恵・御山亮済



甲府城跡（駐輪場）位置図

県庁舎耐震化等整備事業における駐輪場の建設に伴い、埋蔵文化財調査を実施することとなった。この場所は甲府城楽屋曲輪西側を通る内堀に面した土塁に該当する。駐輪場建設予定地にある第一車庫の解体撤去時には当センターが立会し、土塁を構築した際の版築土層と石組み水路の一部を確認した。

今回の発掘調査について、原則現地保存として試掘調査により遺構の遺存状況を把握して現地保存ができない箇所については記録保存で対応する予定であった。しかし工事工程上、試掘調査を実施する時間を確保できなかったため、全面調査を実施して石組み水路と土塁版築の遺存状況を把握したところで保存協議をおこなうこととした。なお、発掘調査は排土の場内処理をおこなうスペースを確保するため、調査区を南側と北側に分けて反転調査を実施した。

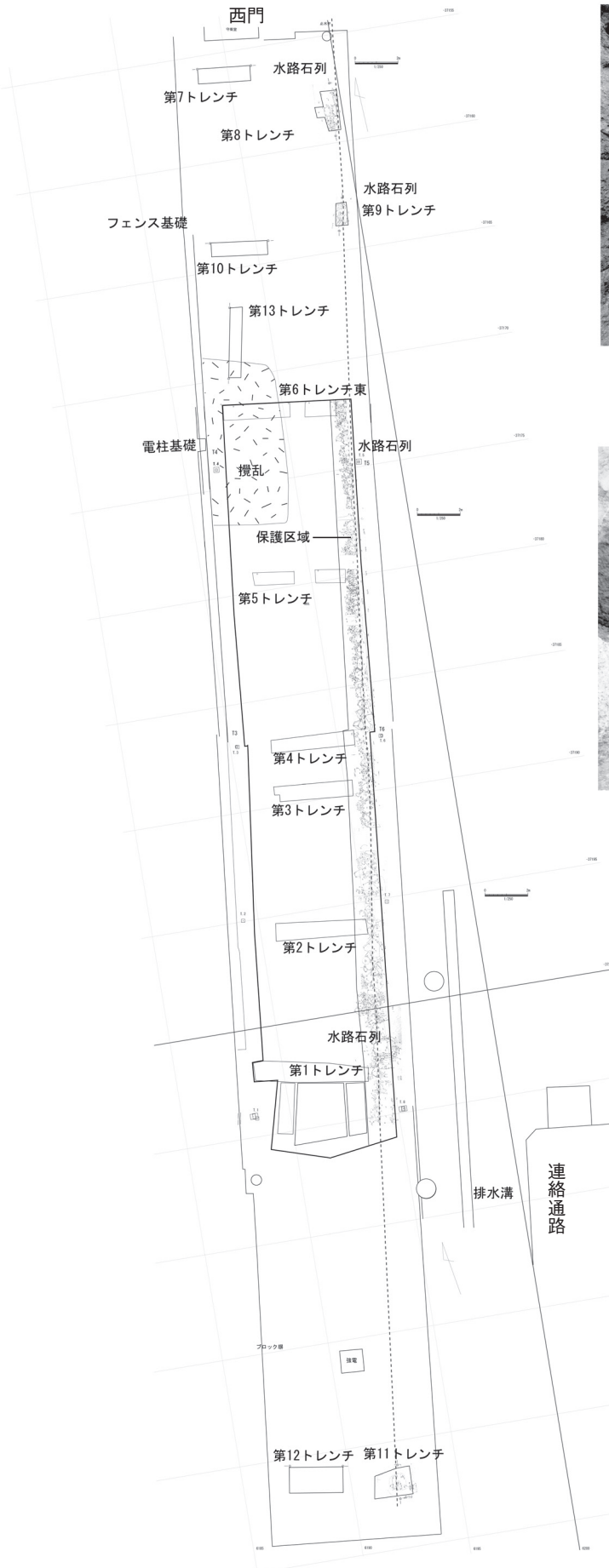
発掘調査は11月1日に重機による表土剥ぎを実施し、11月5日から人力による掘削作業を開始した。11月21日～22日にかけて調査区を北側に反転し、12月14日までに人力での掘削作業を終了した。

重機による表土剥ぎでは、現地表面下50cm程度で昭和初期の県庁舎建築に伴って整地された土塁の削平面を検出した。それに伴い、土塁版築の堆積状況を確認するため、第1～6トレンチを設定して人力による深掘りを実施した。各トレンチは現地表面より150cm～200cmまで掘り下げて調査をおこなった。トレンチ調査の結果、土塁版築の東西方向の堆積状況は粘土と砂の互層で西から東へ傾斜し、また南北方向の堆積状況は調査区中央が低いレンズ状を呈していることがわかった。

調査区東端では、南北に伸びる安山岩の布積み2段組で構築された石組み水路を約34mにわたり検出した。検出した石組み水路は水路西面のみで、東面は調査区外となり一部を除き確認することができなかった。確認できた水路幅は約70cm、深さ約80cmである。石組み水路は調査区南端では2段目の石まで残存していたが、その南北は2段目の石が喪失していた。水路の深さは、調査区南端の2段目上端で現地表面下65cm、調査区中央の2段目上端で55cm、調査区北端部で65cmである。

また、調査区域内のインフラ等の影響で重機による掘削ができなかった区域については、人力によるトレンチ調査を実施した。トレンチ調査では第7～13トレンチを設定し、第7・10・12トレンチは土塁版築の堆積状況、第8・9・11トレンチは水路の遺存状況、第13トレンチは調査区南端部で確認された攪乱の続きをそれぞれ確認した。第7・10・12トレンチでは、西から東へ傾斜する版築が確認された。第8・9・11トレンチでは、それぞれ現地表面下105cm、110cm、120cm程で石組み水路を検出した。よって本水路は県庁構内においてほぼそのまま遺存していると思われる。土塁版築についても、一部現地表面下150cmまで撹乱されている場所があるものの、現地表面下50cm以下には土塁版築層が大部分遺存していると判断される。

水路石列は山砂で保護層を設け、土塁削平面にはブルーシートを敷いた上で埋め戻し、現地にて埋設保存した。出土遺物量は陶磁器や瓦類など、プラスチック収納箱にて6箱である。



甲府城跡(駐輪場)　遺構平面図

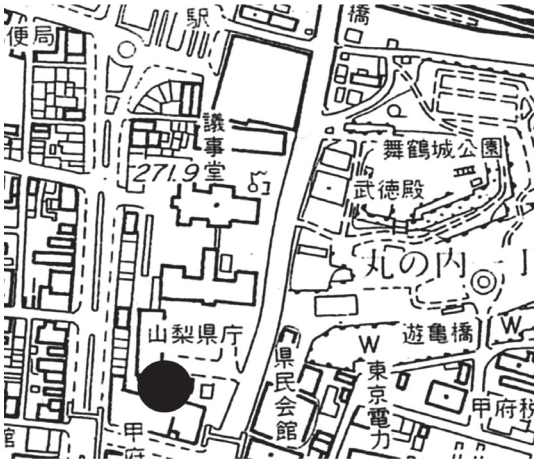
第1トレンチ　土層堆積状況(東西方向)

石組み水路　石積み状況

石組み水路検出状況

１－３　甲府城跡（こうふじょうあと）
（防災新館石垣移築保存事業）

所　在　地　甲府市丸の内１丁目6-1（県庁構内）
事　業　名　山梨県防災新館石垣移築保存事業
事　業　者　山梨県防災新館ＰＦＩ株式会社
調 査 期 間　2012年10月29日～12月22日〔石垣移築工事〕
工 事 面 積　約45㎡
担　当　者　野代幸和・長田隆志



甲府城跡（防災新館石垣移築）位置図

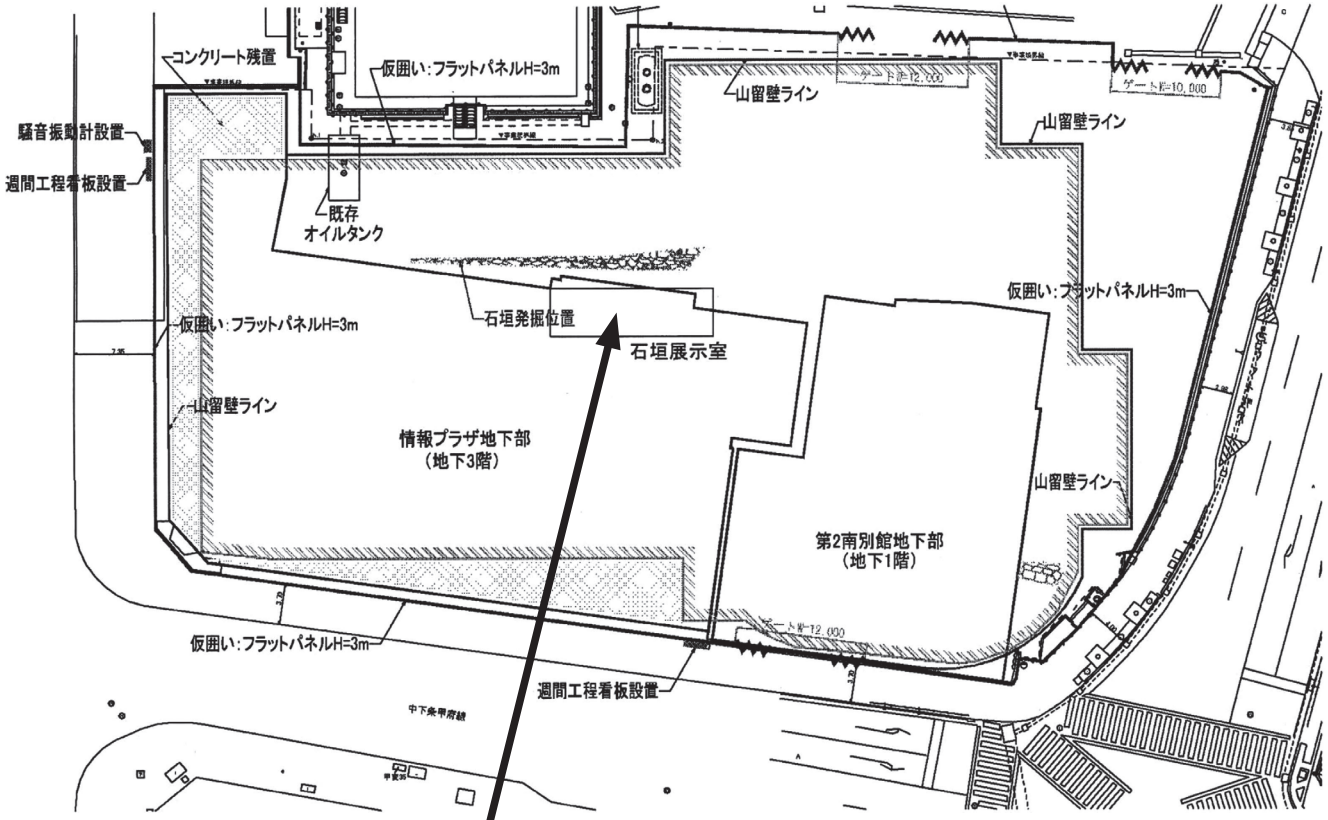
県庁舎耐震化等整備事業に伴い、防災機能充実のため庁舎の建て替えが行われることとなり、その整備事業に先立ち平成22年度に発掘調査を実施したところ、江戸時代初期に築かれた甲府城の石垣が確認された。その一部大手門付近については、保存措置を講じてきたが、南西部分の石垣については設計を変更することが不可能なため、やむを得ず学識経験者のご意見を伺いながら記録調査と解体工事を実施した。これに伴い、活用策の一環としてその一部（約13m分）ではありますが、新庁舎の地下一階部分に展示室を設け、移築保存工事を実施した。

当センターでは、発掘調査データを事業主体者である管財課に提供すると共に、ＰＦＩ株式会社による防災新館石垣移築保存工事に係る「石垣移築工事分科会」が設置され、管財課・学術文化財課・センター・事業主体者・施工監理業者・施工業者による具体的な作業手順や安全性、施工計画、課題について検討を行った。センターの役割としては、施工現場において発掘データに基づくアドバイス並びに、石材や施工方法の確認作業を行うと共に、工事記録としての報告書作成業務を担った。

移築地点は建物の位置関係から現位置への復元とはならなかったが、工事では安全性を最優先に考慮しつつ、発見時の石垣の状況を再現するため欠落した石材を転石から補填するなどし、全体的な景観に配慮しながら、築城期の石垣本来の価値を損なわないように極力配慮して施工した。屋内での実物石材を使った展示としては、国内でもあまりない事例であり、展示活用策の一つの方法として一石を投じるものであろう。

アンカー設置状況

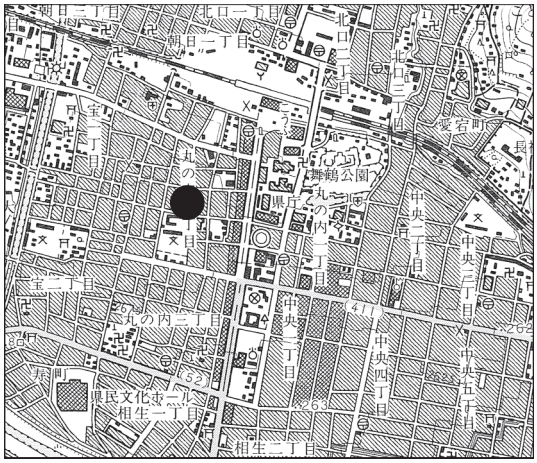
石積み作業状況


コンクリート残置
仮囲い:フラットパネルH=3m
騒音振動計設置
週間工程看板設置
既存
オイルタンク
山留壁ライン
山留壁ライン
仮囲い:フラットパネルH=3m
仮囲い:フラットパネルH=3m
石垣発掘位置
石垣展示室
山留壁ライン
情報プラザ地下部
(地下3階)
山留壁ライン
第2南別館地下部
(地下1階)
仮囲い:フラットパネルH=3m
週間工程看板設置

移築完了状況

１－４　甲府城下町遺跡（春日別館）

所　在　地　甲府市丸の内二丁目25県庁春日別館跡地
事　業　名　県庁舎耐震化等整備事業
調 査 期 間　2012年6月14日
調 査 面 積　約40㎡(調査対象地約530㎡)
担　当　者　今福利恵・御山亮済


甲府城下町遺跡（春日別館）位置図

調査地点は甲府城二の堀とその西側を流れる甲府上水に挟まれた区画に位置し、調査区西側には甲府上水が隣接する。この場所は甲府城下町の地図より水田地が想定されている。県警車庫建設に先立って試掘調査を実施した。東西方向に平行する試掘坑を2本設定し、南側の試掘坑を1号試掘坑、北側の試掘坑を2号試掘坑とした。

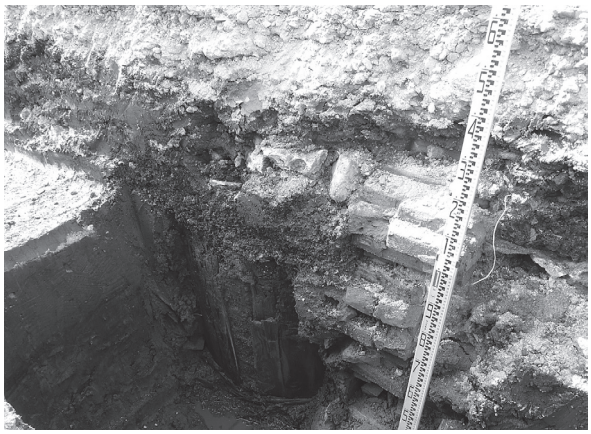
基本土層は、地表面直下にあるⅠ層は砕石層、Ⅱ層は近現代の遺物を含む暗褐色土、Ⅲ層は近代の遺物を含む暗褐色粘質土である。Ⅳ層は橙斑が多くみられる暗褐色粘質土で江戸期の水田床土と思われる。Ⅴ層は暗灰色粘質土で橙斑がみられる。Ⅵ層は砂を含む青灰色粘質土で湧水がみられる。

1号試掘坑は東西方向約18m、幅約1m、2号試掘坑は東西方向約22m、幅約1mとそれぞれ設定した。重機にて表土剥ぎをおこない、以下人力による掘り下げを実施して調査を進めた。

1号試掘坑では、地表面下約80cmでⅣ層を確認したため、Ⅲ層上面まで重機で掘削し、以下人力による掘り下げを実施した。東端部ではレンガ積みによる建物基礎が検出され、地表面下1.7mまで確認したが、さらに下層まで続くと判断したため掘削を中断した。建物基礎の西側では近世以降と思われる杭列を確認した。調査の結果、1号試掘坑からは江戸期の遺構・遺物は確認されなかった。2号試掘坑ではⅤ層上面まで重機で掘削し、その以下を人力により掘り下げた。また、東端部は深く掘り下げをおこなった。東端部の北壁からは幅約15cm程の縦板を竹で結った井戸枠の一部が確認された。井戸枠の周囲はレンガで囲われ、基礎はレンガ敷きでコンクリートにより固められていることから、近代以降の県庁春日別館に伴う遺構であると思われる。井戸の西側では1号試掘坑で確認された杭列の続きを確認した。調査の結果、2号試掘坑からも江戸期に帰属する明確な遺構は発見されなかった。

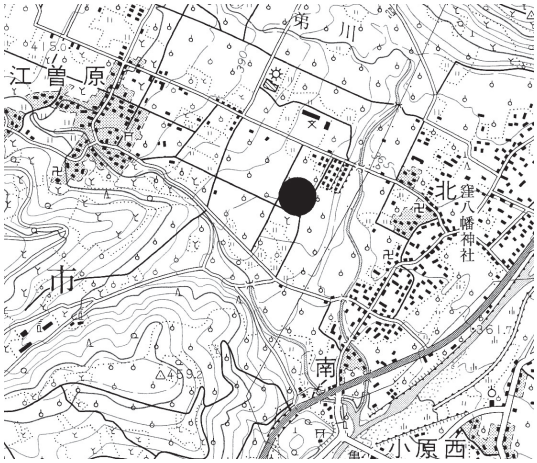
試掘調査の結果、調査地東側の区域は攪乱されており、また、Ⅳ層以下から江戸期の遺構や遺物が検出されなかったため、保護措置は不要であると判断した。掘削終了後、それぞれの試掘坑において測量作業および写真撮影などの記録作業をおこなった。すべての作業終了後、重機を用いて1号および2号試掘坑の埋め戻しを実施し、6月15日までに現場機材等を撤収し、作業を終了した。

1号試掘坑 東端部 レンガ積み建物基礎


2号試掘坑 東端部 井戸

１－５　上コブケ遺跡D区

所　在　地　山梨市南字コブケ293－１外１筆
事　業　名　西関東連絡道路建設事業
調 査 期 間　2012年6月4日～8月8日
調 査 面 積　1,384㎡
担　当　者　笠原みゆき・青木真一・須長愛子・柴田亮平



上コブケ遺跡D区位置図

上コブケ遺跡は、山梨市南地内、笛吹川の支流である兄川の左岸にあたり、兄川と弟川に挟まれたなだらかな南向きの斜面(遺跡標高約374.5～375.5m)に位置している。東方から南方には笛吹川流域から御坂山地が広がり、その上方には特別名勝及び史跡富士山が顔を見せている。また遺跡周辺には、本殿など主要な建造物群が重要文化財に指定されている窪八幡神社や、ナウマン象の臼歯などが山梨県ではじめて発見された兄川河床遺跡などが点在している。

上コブケ遺跡は周知の遺跡であったが、平成22年度に行った西関東連絡道路建設に伴う試掘調査によって、周知の箇所の南側に約13,500㎡の範囲が追加された。その後平成23年度にＡ～Ｃ区、約12,000㎡の調査が行われた。Ａ・Ｃ区では平安時代の住居が検出され、特にＡ区では焼失住居が確認された。Ｃ区ではカマドの下層部分から須恵器の小壺が、四隅から完形の坏が出土するなど、祭祀に関わる資料が確認された。Ｂ区では縄文時代中期の資料が多く出土し、曽利Ⅰ式古段階の人面装飾付き土器の埋甕が逆位で確認されるなど、貴重な成果を得られた。

本年度は前年度の調査地に隣接するＤ区約1,400㎡の調査を行った。調査方法は、重機による表土除去後に、世界測地系座標による基準杭の設置を行った上で、人力による遺物包含層の掘削・精査を行いながら、遺物の記録、取り上げ、また遺構及び土層の堆積を確認・掘削して、記録した。

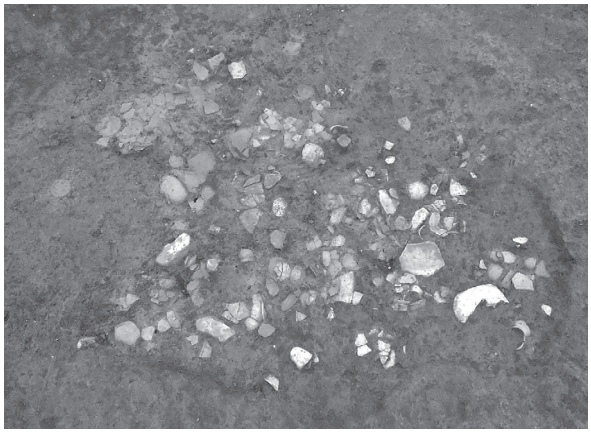
調査区内は北から南にかけて下る緩傾斜地であり、場所によって差異が認められるが、表土からの掘削深度0.4～0.6m程で遺構・遺物が検出された。調査区の中央付近は拳大の礫を含む地山が確認され、遺構は検出できなかった。調査の結果、住居跡12軒、掘立柱建物跡6軒、焼土跡9基、溝18条、土坑92基、ピット117基、暗渠4条が検出され、調査区の東側に集中する傾向が見られた。遺構の多くは平安時代に属するものであったが、一部には古墳時代と考えられる遺構も確認された。

遺物は主に平安時代の土師器が多数発見された。第6号住居跡周辺では、完形の坏が複数個重なって検出された。前年度調査がおこなわれた上コブケ遺跡Ｃ区でも、住居の四隅から完形の坏が検出されており、住居を構築する際、あるいは廃棄する際に行われたと推定される祭祀の可能性も推測される。また、第5号住居跡では古墳時代の、いわゆるＳ字甕が床一面に廃棄されて検出された。前年度に調査をおこなった上コブケ遺跡Ａ区でも溝からＳ字甕の破片が確認されており、それを補強する新たな調査成果と言えよう。

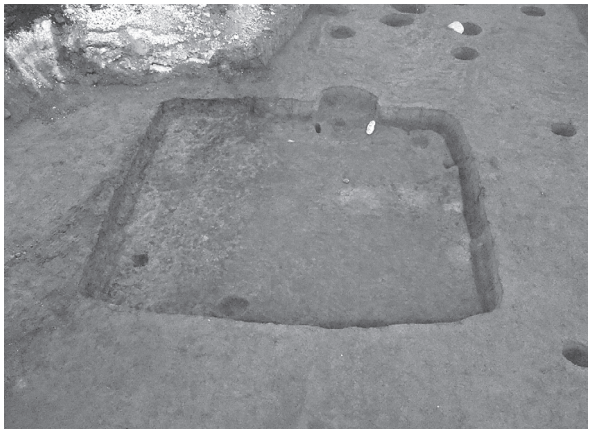
今回は道路建設予定地の非常に狭い範囲内のみの調査であったにも関わらず、上記のように、多岐にわたる時代の遺構・遺物が発見された。

遺構全体図

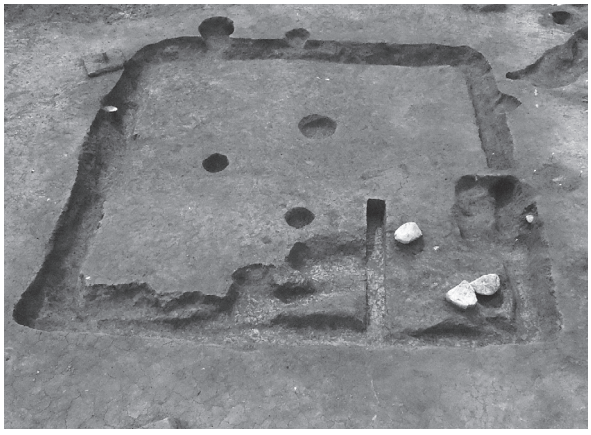
発掘調査風景



５号住居跡遺物出土状況



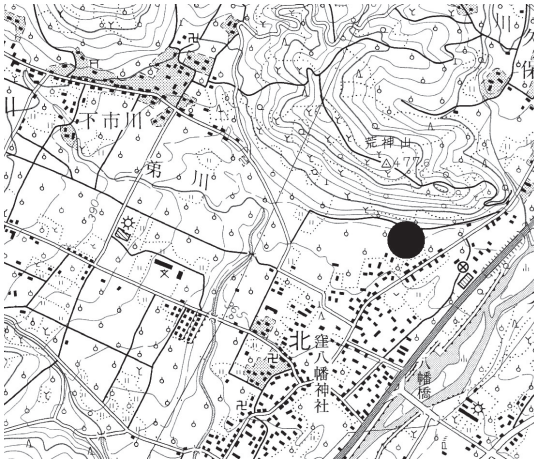
１号住居跡



６号住居跡

１－６　膳棚遺跡（ぜんたないせき）D区

所　在　地　山梨市北733－1外
事　業　名　西関東連絡道路建設事業
調 査 期 間　2012年8月20日～1月15日
調 査 面 積　約8,600㎡
担　当　者　笠原みゆき・青木真一・須長愛子・柴田亮平



膳棚遺跡D区位置図

膳棚遺跡は山梨市北地内にあり、荒神山の裾部に展開する南向きの緩やかな斜面上に存在する。この遺跡は西関東連絡道路建設に伴う試掘調査によって、平成22年に新しく発見された遺跡である。遺跡の全体規模は20,000㎡近くになると考えられている。その後、平成23年度中にＡ～Ｃ区、計約10,500㎡の発掘が終了し、縄文時代の土器・石器類や平安時代の土器や土坑・柱穴などが発見されている。

今年度は、Ｃ区のさらに東側に位置するＤ区、約8,600㎡の発掘調査を行った。Ｄ区は約376～382mの標高を測り、甲府盆地東部を眼下に見下ろすことができる位置にある。対象となる面積が広く、かつ調査区の中に道路が縦断していたため、調査区をⅠ区・Ⅱ区に分け、なおかつⅠ区を1～2、Ⅱ区を1～4に細分化し、掘削土の置場を反転して調査した。

調査開始にあたって表土掘削を行ったところ、表土からの掘削深度0.9～1.8m程で遺構・遺物が検出された。また、Ⅰ区南部からⅡ区3・4にまたがって、帯状に大量の河原石が混入している状況が確認できた。これは笛吹川の旧流路であると考えられ、昨年のＡ～Ｃ区の調査でもこの流路の続きと考えられる河原石の帯が認められている。

調査の結果、住居跡43軒、土坑19基、ピット102基、溝4条、石組遺構4基などが確認された。

住居跡はそれに伴う遺物の時期から、すべてが平安時代末期のものと推定される。住居跡は調査区の東半分地域でまんべんなく検出されたが、特にⅠ区南東部に重複して集中する傾向が見られた。広さとしては2.5m×2.5m程度のものがほとんどであったが、5m以上を超える大型の住居もあった。

カマドは東壁、北東コーナーに設置された例が1軒ずつあった他は、全てが南東コーナーに設置されていた。前述の河原石は住居の中にも入り込んでおり、台石として利用した痕跡が認められるものもあった。

遺物は大半が平安時代の土師器であったが、須恵器、灰釉陶器、金属製品も確認できた。全てが同じ時期ではなく、Ⅰ区からは11世紀～12世紀前半頃の脚高高台坏や柱状高台坏が多く確認され、Ⅱ区からは10世紀末～11世紀頃の甲斐型土器が確認されるなど、若干の差異が認められる。

また、この遺跡の住居跡からは、完形の土師器坏がカマド付近や壁付近から多く出土する傾向が見られた。さらに、住居床面の貼床の下やカマド直下から特徴的な遺物が確認された例もある。5号住居跡では緑釉陶器、10号住居跡では灰釉陶器の花瓶（けびょう）が確認されている。緑釉陶器は二分されており、片方は表を上にして、もう片方は裏を上にして出土した。9号住居跡においては2枚の坏が合わさるようにして出土した。これらの遺物は何らかの祭祀を行った痕跡の可能性も推測できるが、詳細は不明である。

土坑・ピット・溝からは遺物はほとんど確認されなかったものの、59号ピットのように甕の破片がまとまって出土した例もある。

一方で調査区東端において時期不明の石組遺構が発見されたほか、調査区西端では縄文時代の集石と思われる遺構が検出されるなど、数は少ないが平安期以外の遺構も確認されている。

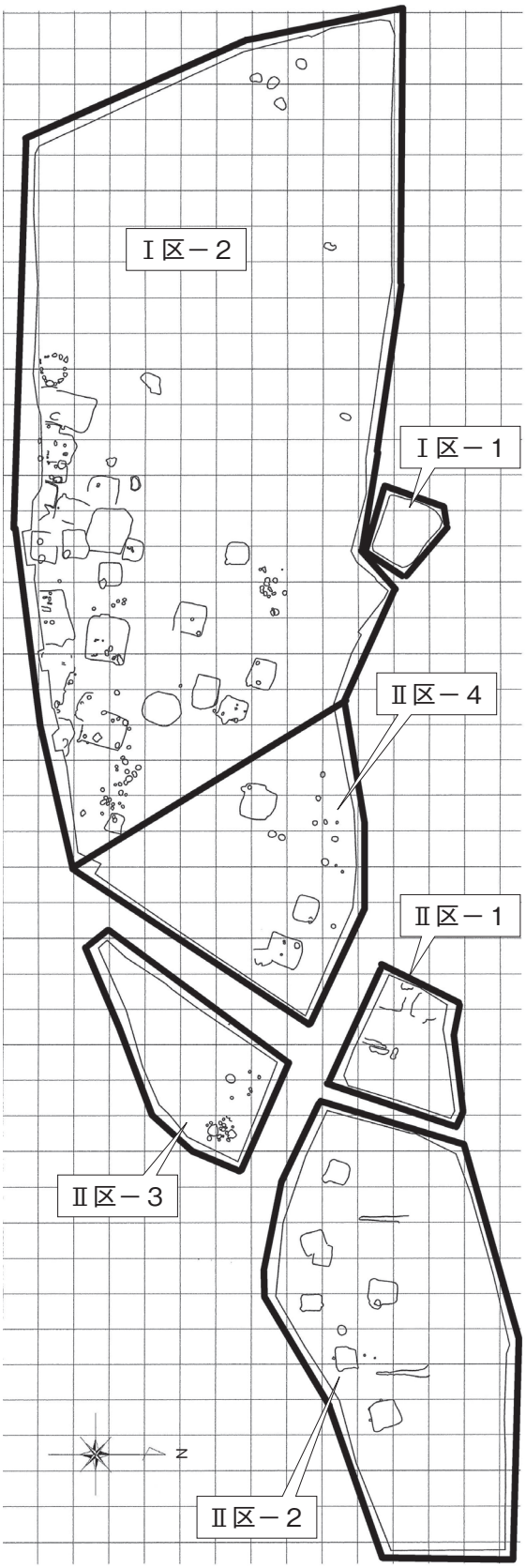
このように、今回の調査では平安時代の遺構・遺物が大量に検出され、この地域に大規模な集落が存在していたことが確認できた。調査区北に隣接する荒神山の中腹では、当調査区と同時期の土師器の窯跡が確認されているが、その関連性を解明していくことが今後の課題となる。

8号住居跡

9号住居跡遺物出土状況

10号住居遺跡物出土状況

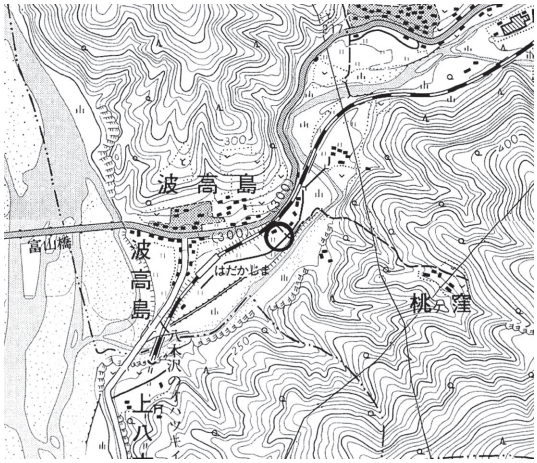
5号住居跡遺物出土状況



遺構全体図（1マス5メートル）

１－７　常葉川堤防遺跡

所　在　地　南巨摩郡身延町波高島地内
事　業　名　中部横断自動車道建設事業
調 査 期 間　平成24年5月28日～6月29日
調 査 面 積　230㎡
担　当　者　依田幸浩・加々美鮎実



常葉川堤防遺跡位置図

常葉川堤防遺跡は、富士川との合流地点に近い常葉川の右岸に位置し、遺跡周辺の標高は206ｍほどである。

本遺跡は、明治21年に旧日本陸軍陸地測量部により測量された地図に堤防の高まりが記載されていることから、堤防遺跡推定地となっていた。平成23年度に試掘調査を実施したところ、調査区北東側に現存する旧堤防の延長線上に石積みの一部を確認したことから本調査を実施することとなった。

調査の結果、堤防跡の堤体と川裏側の法先部分の一部を検出した。堤防跡は、現在の地表面から20～25㎝ほどの深さにある水田の鋤床層直下から検出し、上部が耕作土によって削平されている状況が確認された。法先部分は、南北方向に伸びていた。南北ともに調査区の外側へ伸びており、北側の延長線上にある調査区の外側に現存している堤防跡の裏法面につながると考えられる。堤体部分も南東側の調査区外へ広がっており、堤防の全体像を把握することはできなかった。検出された堤防の規模は、川裏の法先部分が全長7.1ｍ、堤体の幅が最大2.8ｍであった。

川裏の法先には長径約40～70㎝、短径約40～50㎝の礫が並べられていた。川裏側や堤体側へ崩れている部分も見られたが、本来は長径方向を横向きにして立てて設置されていたと考えられる。礫は法先の一段目が残るのみで上段の石積みは確認されなかった。礫の外側にはコンクリートが付着していたが、元地権者が、堤防の際に沿ってコンクリートの水田用水路を作ったとのことであった。

堤防内部の観察からは、地山と堤防部分との境目に黄褐色粘土が確認された。周辺の状況から粘土が自然堆積したとは考え難く、堤防を構築する際に地山部分に粘土を敷いたことが推測される。
堤防跡の上部からは番線で括られた木材を検出した。何に使用されたものか不明であるが、調査区周辺には昭和40年頃まで河川に水制の一種である牛類が設置されていたらしく、それらが堤防とともに埋められた可能性も考えられる。

川裏側の現地表下には、水田の地盛りのための客土が認められ、客土の中からは近世～現代の陶磁器片などが出土したが堤体内部からは堤防の構築時期がわかるような遺物は出土しなかった。

常葉川堤防遺跡全景

木材検出状況

１－８　本城山（ほんじょうやま）

所　在　地　南巨摩郡身延町大島字馬込4842外
事　業　名　中部横断自動車道建設事業
調 査 期 間　2012年7月2日～12月21日
調 査 面 積　1,729㎡
担　当　者　小林健二・永田亮一

本城山位置図

本城山は、富士川中流の左岸、身延町大島地区の小字馬込集落の東に位置し、さらに東側の山地から西流し富士川へ合流する的場沢川と向平川に挟まれた標高255m、比高100mほどの小高い山である。富士川左岸に沿っては、現在県道富士川身延線とＪＲ身延線が走っているが、それ以前は「東河内路」が通っており、甲斐と駿河両国を結んでいた。

本城山については、江戸時代の地誌『甲斐国志』古跡部において、「大島ノ居址」の項目を起こして「馬込ト云フ処ニ本城山トテ高岡アリ。頂ニ五輪石塔一基を存ス。伝へ云フ、本城時頼ト云フ人住セシトナリ」として、本城氏の居館としての伝承を載せている。また、同書山川部では「本城山ト云フアリ。古時ノ狼煙台ナリ」とも伝えている。現況からは、中世戦国期の居館とするよりも富士川左岸をつなぐ狼煙台の一つであったと考えるのが妥当なところであるが、馬込集落の裏山にあたることから、「大島ノ居址」は馬込集落を含めた城砦と考えることもできる。

本遺跡は、これまで発掘調査は行われていないが、今回調査対象となった区域は、現況の本城山主郭部から東側へ下る尾根から北側に浅い谷を挟んだ小山にかけての範囲であり、このうち最も低い部分は現在でも湧水が豊富で、かつては水田が造られていたが、その後は山林となっていた。調査前は立木が密で下草も多く、土地の形状がわかりにくかったが、伐開後は主郭部を西に仰ぐ堀状の地形と、尾根南側の向平川の流れる谷まで高さ35m前後の急斜面となる地形が明瞭になった。標高は尾根上で216m前後、低い部分で205m前後をそれぞれ測る。

上記のような立地により、現地へのアクセス並びに重機等の搬入は困難であったことから、調査については表土除去及び抜根からすべて人力により掘削・精査を行った。また、現場作業の効率化を図るため、向平川側の急斜面に工事用モノレールを設置し、現場作業員の搬送を行った。

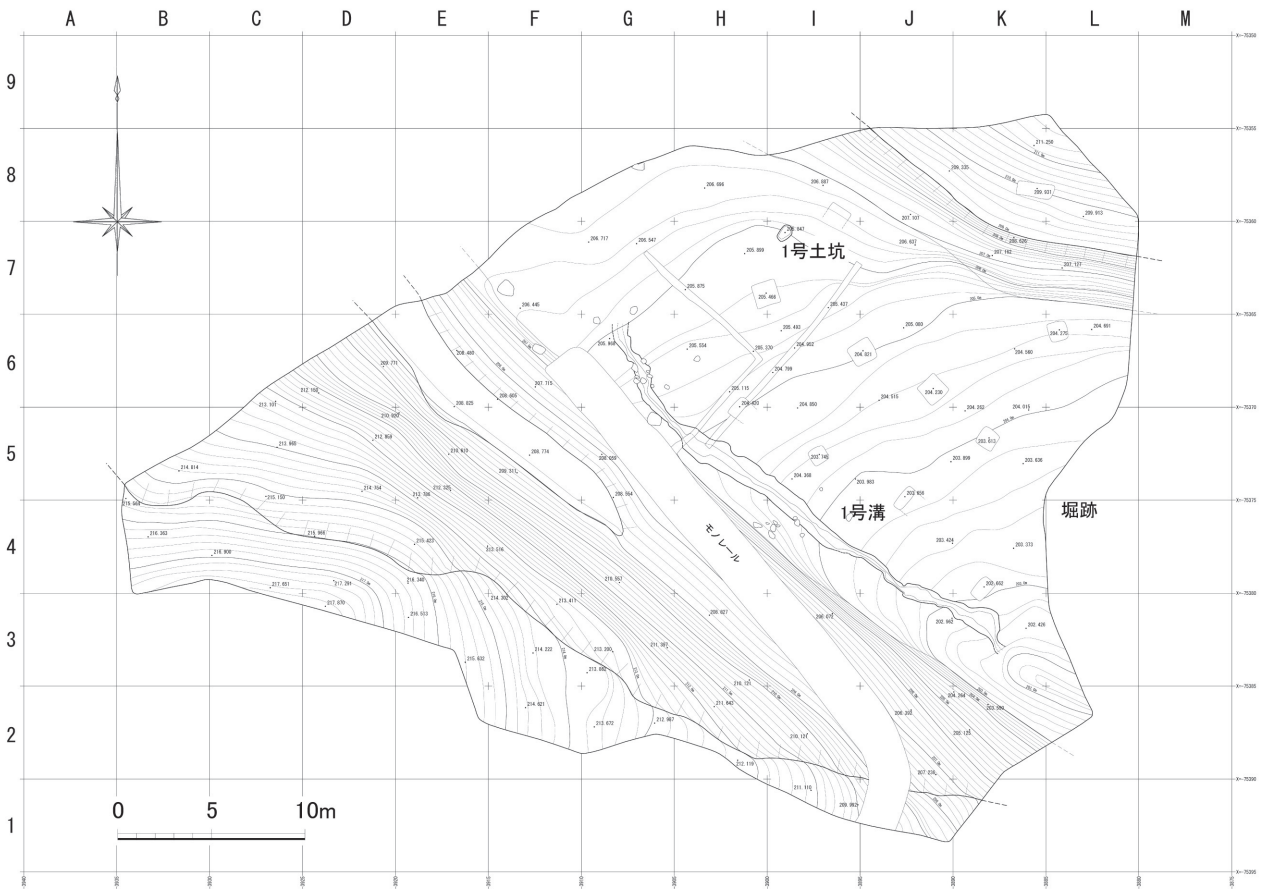
調査の結果、堀跡１条、溝１条、土坑１基が発見された。

堀跡は長さ約20m、最大幅約25m、深さ約3～5m、底の幅約20mの箱堀で、尾根の斜面と北側の小山の斜面を利用して造られており、横堀はなかったが、堀両法面にはテラス状の平坦面が検出された。南側法面下の堀底には杭列を伴った溝が西から東に向かって流れていた。土坑は北側法面立ち上がり部分にあり、モミ属の炭化材が含まれていた。年代測定の結果、中世前半期の年代値が得られている。

一方、尾根上の平坦面は部分的に腐食土が堆積していたが地山層が露呈しており、建物や柵の柱穴となるようなピットは確認することができなかった。

出土遺物については、堀底の堆積土中からわずかではあるが当該期のかわらけや擂り鉢、常滑窯産甕の破片を確認することができた。他には縄文時代の石器（石鏃）、江戸時代の陶磁器、金属製品（煙管・寛永通宝）などがある。

今回の調査により、本城山東側の縄張りの一部を確認することができた。これらを踏まえ、次年度の報告書作成に向けて、さらに遺跡周辺の踏査や文献資料の調査を行い、本遺跡の歴史的位置づけ等について考える必要がある。



本城山調査区全体図

本城山遠景（南東から富士川を望む）

調査風景（南から）

堀跡（東から）

堀跡と主郭部へ続く平坦面（北から）

２　整備事業に伴う調査

２－１　県指定史跡甲府城跡

所　在　地　甲府市丸の内一丁目地内
事　業　名　舞鶴城公園石垣復元補修工事
調 査 期 間　2012年4月1日～2013年3月31日
対 象 面 積　1,175㎡
担　当　者　野代和幸・宮里学・長田隆志・岩下友美

甲府城位置図（施工地点）

県指定史跡甲府城跡はJR甲府駅に近接し、文禄慶長年間に築城された織豊城郭である。城内には天守台や本丸を始めとし、築城期の野面積みの石垣が良好に残り、県指定史跡となっている。

甲府城跡では、平成2年度から平成16年度まで県土整備部が舞鶴城公園整備事業として、変形や改変された石垣の修理等と、併せて鍛冶曲輪門、稲荷曲輪門、内松陰門、稲荷櫓の復元整備ならびに園路、広場、堀改修工事などを専門委員会の指導を受けながら実施した。

平成17年からは、未修理の野面積み石垣を対象に、強度や安全性を協議しながら、詰石の除却、補充など石垣の維持と安全確保を目的とした石垣補修工事を実施している。本年度は鉄門復元事業を背景に、見学時の主要園路にあたり、かつ変形の激しい本丸周辺石垣を施工対象とし、甲府城跡櫓門復元検討委員会石垣部会の指導を得て実施した。

事前調査と作業手順

実施した4地点の石垣は、1590年代（文禄・慶長年間）の甲府城築城期の構築である。石垣としては、横目地の連続しない野面積み石垣で、石質は安山岩である。石材は、長軸平均12㎝を測る四寸矢穴による粗割が散見できるが、自然石が主体である。隅角部では稜線作出、築石部などでは縁辺部の調整加工が認められる。現況は、天端部2段程度は近代以降の改修または平成の修理事業が実施されている。根石部は、本丸西面石垣を除き、安山岩の岩盤から構築されていることが確認できる。全体的に、石材破損や内部の空洞化が目立ち、築石部も詰石の欠落や石材破損が多くみられるが、勾配などに大規模な変形はない。作業は、事前測量の後、仮設足場を設置し、番付、事前写真記録、石垣清掃、施行前調査、個別施工方法の検討、施工、施工後の確認、記録（施工地点ごとの個別カード）を教委監督員が常駐のうえ各段ごとに実施した。

天守台北・南面および天守曲輪南面

当該石垣は、石材破損や落石による空洞化、局所的な傷みが認められるものの、事前の3次元測量図からも不安定さを感じる勾配の歪みや孕み出しはない。しかし、園路に面しているという利用環境や復元整備した鉄門への主要園路であることから補修を実施するに至った。

石垣は、甲府城築城期の野面積み石垣で、規模や位置、残存状況、構築技術から甲府城跡内でも文化財的価値の高いシンボル的な石垣である。したがって、施工にあたってはこの価値を十分に踏襲できるよう努めた。施工面積は、天守台北面が301㎡、同南面が319㎡を図る。南面石垣では、石垣の目地に詰石や小形の築石を飾り状に据え置く配石が多数みられ特徴的であったが、施工にあたっては落石防止のための工夫が必要であった。また、矢穴で二分割に粗割し、分割面を石面としてとして使用する事例も多くみられる。なお、天守曲輪南面石垣の天端部分では、極端に不安定な配石が認められたため、協議のうえ石材を取り外しのうえ復旧する作業を実施した。

本丸西面

施工地点は、平成23年度に実施し施工が残った本丸西面石垣の北側に位置する。当該石垣の南側半

分は厚みのない巨石に起因する孕み出しが極端に激しいが、本年度の施工では、極端な孕み出しはないため従来の工法で実施した。しかし、傷みの状態により補修では十分な効果が期待できず、施工後の変動でより孕み出す危険性もあると判断された場合には、昨年と同様に補修を実施しない部分も生じた。

施工前の天守台北面石垣（北より）

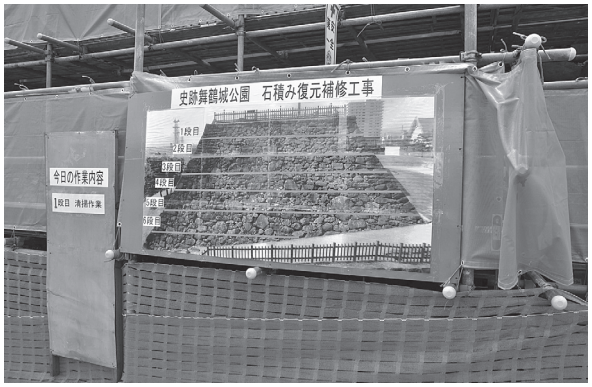
施工中の天守台南面石垣（南東より）

施工前の現場協議

文化財専門職員による記録作業

不安定な配石（天守曲輪南面石垣）

施工状況（本丸西面石垣）



現地の広報パネル

室内における本格的な整理作業

２－２　県指定史跡甲府城跡（鉄門復元整備事業）

甲府城跡鉄門復元箇所位置図

所　在　地　甲府市丸の内一丁目地内
事　業　名　鉄門復元整備事業
調 査 期 間　2012年4月1日～2013年3月31日
対 象 面 積　鉄門事業約67㎡（建築面積)
担　当　者　宮里学・岩下友美

甲府城跡は、文禄慶長年間に築城された織豊城郭である。明治6年の廃城後、中央線の敷設等により城郭の規模が縮小されたが、城内には築城期の野面積みの石垣が良好に残り、県指定史跡となっている。平成2年度から平成16年度まで県土整備部が舞鶴城公園整備事業を実施し、城内の発掘調査、石垣修理、建造物復元を行ってきた。平成22年9月に着工した県指定史跡甲府城跡鉄門復元整備事業は、築城期から明治初年に本丸南側に存在していた鉄門を、中心市街地活性化、展示交流施設等の目的で平成25年度の国民文化祭までに完成させるものである。

本年度の経過

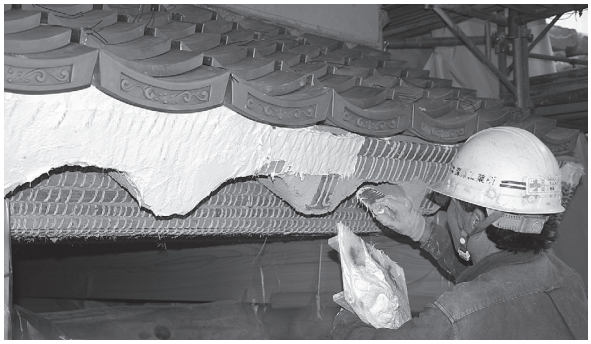
本年度は、選定保存技術保持団体の研修または同等の技能者が実施する屋根工事および左官工事から始まった。鯱瓦や鬼瓦類の役瓦および軒瓦類は総量で約8,000枚を葺き、その形状は発掘調査出土品をもとに櫓門復元検討委員会の指導を受け復元制作した。設置は土居葺きの上に釘止めと銅線で緊結した。左官工事では、二階外部は大壁（9工程）、内部はすべて真壁（6工程）である。その他、建具工事、金具工事、防蟻工事、電気などの設備工事、周辺環境整備工事を実施した。大規模な掘削を伴う工事はなく、設備工事では稲荷櫓との情報システム連結をおこなうため新規に配管掘削を実施したが、おおよそ既掘範囲であり遺構への影響はなかった。周辺環境整備工事では、安全対策を兼ねた外構工事や園路舗装、照明設備の設置をおこなった。

平成24年12月28日には本体工事がすべて完了し、平成25年1月10日には知事、山梨県議会議長、甲府市長らご臨席のもと竣工式を開催し、併せて鉄門公開特別展示を開催し、3カ年の事業期間で実施した資料調査の成果を広く公開した。

この他、復元根拠に係る基礎的な調査研究として計画に定められた資料調査を実施し、国文学研究資料館や県内寺院から新出の資料が発見された。平成25年3月25日には、本事業の成果を取りまとめた『県指定史跡甲府城跡鉄門復元整備事業報告書』を刊行、発送し業務を完了した。

なお、工事の進捗により委員会および部会を開催のうえ指導を受け、隔週で工事関係者による工程会議を開催し円滑で適切な文化財整備事業の推進に努めた。

関係者による隔週の工程会議



左官（軒下漆喰下地作業）

建具工事（大扉吊り込み）

金物工事（富山県での材料確認）

配管工事の立会

資料調査（県内）

竣工式典１

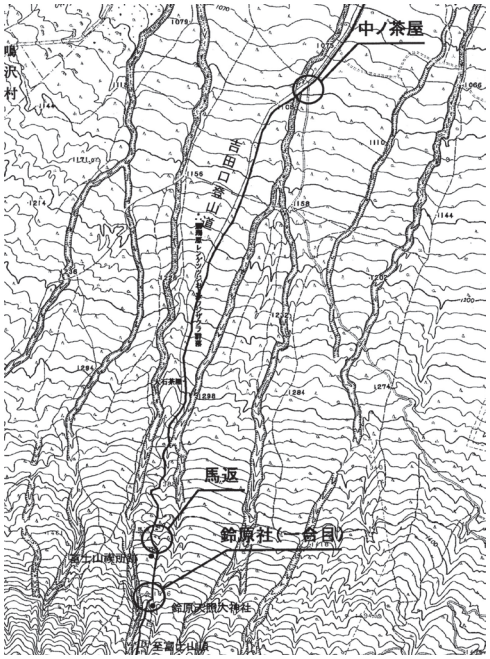
竣工式典２

竣工後の櫓内部

櫓門部分（北西より）

２－３　国史跡富士山復旧事業

所　在　地　富士吉田市上吉田字遊境下3、鈴原下11・12
事　業　名　富士山史跡復旧事業
調 査 期 間　2012年6月4日～6月14日
担　当　者　野代幸和・長田隆志



国史跡富士山復旧事業位置図

平成23年3月の東日本大震災と静岡東部地震のため、史跡指定範囲内の吉田口登山道沿い〔中ノ茶屋から一合目（鈴原社）〕にある石造物の一部が倒壊等した。史跡の重要な構成要素である石造物が倒壊したままであることは、史跡の価値を低めるとともに見学者の安全性に問題があるとし、被災した22基の石碑と1基の石鳥居の復旧作業を実施した。

中ノ茶屋は、江戸期から昭和期に造立された38基の石造物が確認されている。この内、被災が確認されものは、石碑2基と燈籠1基である。主な原因としては、経年変化に由来する基壇・基礎部分の変形が起因となったものと想定される。

馬返は、江戸期から昭和期に造立されたものと、復元整備されたもの等を含めると30基程度の石造物が存在する。この中で被災が確認されたものは、燈籠4基、石碑8基と鳥居1基、猿像1基であるが、復元整備された燈籠4基については被災後倒壊して登山道を塞いでいたことなどから、道路管理者によって復旧が進められた。また、猿像については鳥居の復旧時に動いていることが確認されたため、当初の事業内容には含まれていなかったが元位置への復旧を行った。今回、被災した石碑群一帯は平成12年に整備した部分にあたり、石碑については経年変化に由来する基壇部分の変形（傾斜）が起因となって倒壊等の被害が発生したものと想定され、鳥居については倒壊こそ免れたが、組み合わせ部分の右周りの捻れ現象に伴って部材の破断が発生している。

一合目（鈴原社）は、鈴原社の正面、旧登山道沿いに位置しており、「歴史の道整備活用推進事業」によって昭和50年代に現道沿いに配された石造物群を平成13年に現位置に復元整備した部分である。

本地点には江戸期から大正期に造立されたものと、復元整備されたもの等を含めると17基程度の石造物が存在する。この中で被災が確認されたものは、石碑12基であるが、この内1基（鈴№7）については被災後倒壊してきた石造物（鈴№8）によって基礎部分の一部が破断していたが、接着を行い完了済であったため今回の復旧作業は、石碑11基が対象である。被災した石碑は、経年変化もそれほど大きくなかったにもかかわらず被害が甚大であった。これは本地点の揺れが大きかったことを示すものと考えられる。また、隣接する間隔が狭かったことから、本体の破損も多かった。

今回事業対象となった地点では、標高が上がるにつれ被害が甚大となる傾向が認められた。過去に整備事業などが行われなかった地点は中ノ茶屋のみであり、比較的基礎がしっかりしていたにも関わらず被害が多かったことは揺れの大きさが影響したものと想定され、その動きが集中した地点が馬返から一合目付近であったことが考えられるが、馬返と鈴原社の被災石造物群は整備時の盛土上に位置しており、自然地盤でなかったことも起因している可能性がある。全体的な課題としては、経年変化に伴う地盤の変位変形が挙げられる。整備の実績がない地点では、著しい根による浸食が確認できた。整備実績のある地点でも地盤の沈降や根の浸食が認められた。今回の事業は、あくまでも地震災害に伴う応急的な対応であり、基本的には発掘調査を伴わないため、基壇部分や基礎部分についてはほとんど手を付けずに対応してきた。そのため整備後のメンテナンス的な課題も確認できた。

事前打ち合わせ

測量状況

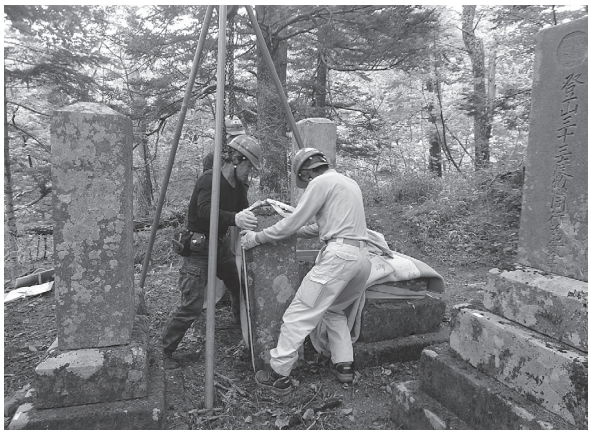
解体復旧状況（中ノ茶屋）

復旧状況（中ノ茶屋）

解体作業状況（馬返）

門型クレーンによる施工状況（馬返）

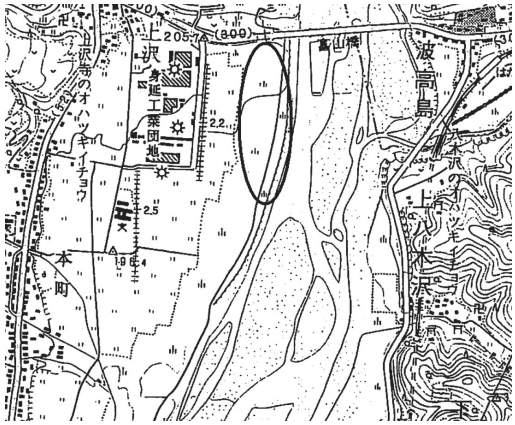
石造物の倒壊状況（鈴原社）



三又による復旧状況（鈴原社）

３　県内分布調査

３－１　中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査



試掘調査　位置図

所　在　地　南巨摩郡身延町下山地先
調 査 期 間　2012年7月4日～5日、24日
調 査 面 積　約949㎡（調査対象面積約22,000㎡）
担　当　者　保坂和博・土橋寛仁

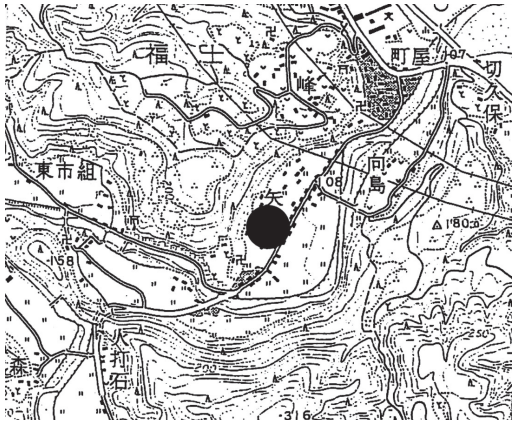
本事業は、中部横断自動車道建設事業によって生じた残土置場及び残土を利用した築堤を建設する事業である。周知の埋蔵文化財包蔵地である下山堤防遺跡の範囲に当たる残土置場の一部は、2008年に身延町教育委員会により砂利採取工事の際に試掘調査が実施され、堤防の痕跡がないことを確認している。この範囲を除いた今回の試掘調査対象地は、下山堤防遺跡の隣接地に当たり工事による盛土の高さが3m以上となることから、国土交通省関東地方整備局甲府河川国道事務所、大新工業株式会社、学術文化財課、埋蔵文化財センターにより、2012年6月25日に行われた現地協議に基づき、試掘調査を実施した。

今回の試掘調査では、現堤防に影響を与えない場所を選定し、長さ約41～123m、幅約3m、深さ約1.4～3mのトレンチ（試掘溝）を4箇所（1T～4T）設定し、重機による掘削後、人力により遺構確認と土層観察を行った。

土層堆積状況では、1Tで地表下約10㎝～70㎝、2Tで地表下約50～100㎝、3Tで地表下約70～170㎝、4Tで地表下約50～190㎝まで埋土（ズリ石など）が堆積し、その直下に河川堆積によるシルト層、砂層、砂礫層が確認された。3T東側（富士川寄り）では金網製のかご状構造物の内部に自然石を中詰めした現代の蛇籠が2本確認され、残存長は7.2m（上流側）と6.2m（下流側）を測る。

試掘調査の結果、現代の蛇籠の外には堤防の痕跡は確認できず、遺物も流れ込みと考えられるもの以外の出土はなかったことから、今回の試掘調査範囲においては、工事に着手しても差し支えないと判断されるが、工事予定地内の現堤防部分については、旧堤防が遺存する可能性があるため掘削する際に立会調査を行う旨を報告した。

３－２　中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査



試掘調査　位置図

所　在　地　南巨摩郡南部町福士字矢島4969外地内
調 査 期 間　2012年9月10日～12日
調 査 面 積　約130㎡（調査対象面積約3,520㎡）
担　当　者　保坂和博・土橋寛仁

本事業は、中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査である。事業予定地には、周知の埋蔵文化財包蔵地は確認されていないが、福士川左岸に広がる氾濫原にあり、現集落地帯として平坦地が広範囲に及ぶことから、中日本高速道路株式会社、学術文化財課、埋蔵文化財センターにより、2012年7月20日に行われた現地協議に基づき、試掘調査を実施した。

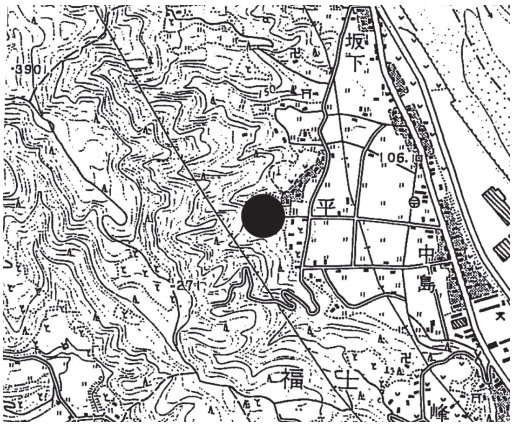
今回の試掘調査では、引き渡しが完了した用地内に長さ約8.0～17.0m、幅約1.0m、深さ約0.4～2.0mのトレンチ（試掘溝）を11箇所（1T～11T）設定し、重機によりそれぞれ掘削し、人力により遺

構確認と土層観察を行った。

各トレンチの土層堆積状況は、基本的に同様であり、地表下約30㎝～1m前後までは現代の水田の耕作土や床土及び埋土が堆積し、その直下から氾濫による砂礫層が確認された。

試掘調査の結果、いずれの地点からも遺物や遺構は全く確認できず、遺跡はないと考えられたため、今回の試掘調査範囲においては、工事に着手しても差し支えない旨を報告した。

３－３　中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査



試掘調査　位置図

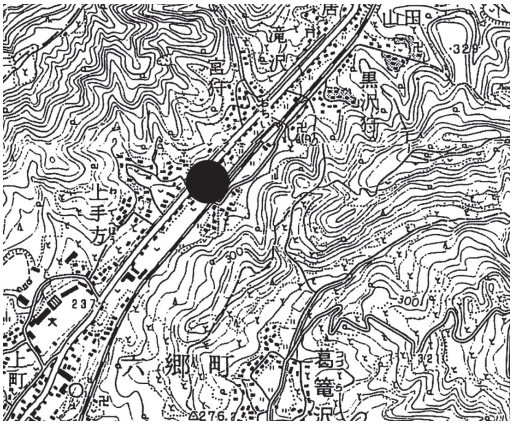
所　在　地　南巨摩郡南部町福士字平3154外地内
調 査 期 間　2012年9月13日
調 査 面 積　約59㎡（調査対象面積約533㎡）
担　当　者　保坂和博・土橋寛仁

本事業は、中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査である。事業予定地には、西側の山地から東流し富士川へ合流する沢の左岸に広がる氾濫原にあり、周知の埋蔵文化財包蔵地は確認されていないが、現集落地帯として平坦地が広範囲に及ぶことから、中日本高速道路株式会社、学術文化財課、埋蔵文化財センターにより、平成24年7月20日に行われた現地協議に基づき、試掘調査を実施した。

今回の試掘調査では、引き渡しが完了した用地内に長さ約9.6～21.5m、幅約1.0m、深さ約0.7～1.0mのトレンチ（試掘溝）を3箇所(1T～3T)設定し、重機によりそれぞれ掘削し、人力により遺構確認と土層観察を行った。各トレンチの土層堆積状況は、基本的に同様であり、地表下約20㎝～70㎝までは耕作土（畑地）や埋土（第1層～第4層）が堆積し、その直下から地山層（第5層～第8層）が確認された。また、湧水によるグライ化が第8層に確認された。

試掘調査の結果、いずれの地点からも遺物や遺構は全く確認できず、遺跡はないと考えられたため、今回の試掘調査範囲においては、工事に着手しても差し支えない旨を報告した。

３－４　中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査



試掘調査　位置図

所　在　地　西八代郡市川三郷町落居6806外地内
調 査 期 間　2012年9月14日～20日
調 査 面 積　約73㎡（調査対象面積約4,800㎡）
担　当　者　保坂和博・土橋寛仁

本事業は、中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査である。事業予定地は、北側の山地から南流し富士川へ合流する山田川の左岸にあり、JR身延線沿いの低地で標高220m前後を測る。予定地に隣接する南側一帯が周知の埋蔵文化財包蔵地「一の坪遺跡」の範囲に含まれることから、中日本高速道路株式会社、学術文化財課、埋蔵文化財センターにより、2012年7月20日に行われた現地協議に基づき、試掘調査を実施した。

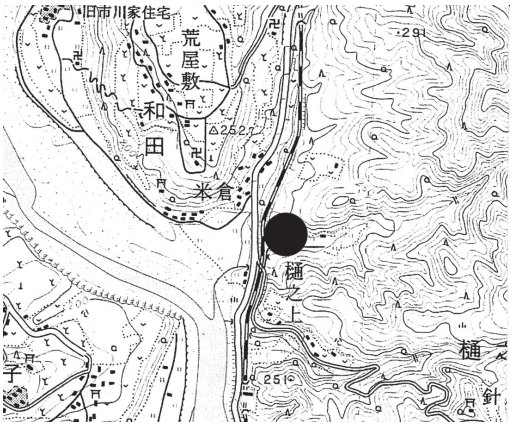
今回の試掘調査では、引き渡しが完了した用地内に長さ約5.7～15.0m、幅約1.0m、深さ約1.7～2.2mのトレンチ（試掘溝）を6箇所（1T～6T）設定し、重機によりそれぞれ掘削し、人力により遺構確認と土層観察を行った。

調査地は、JR身延線沿いの宅地であり、地表下約0.2～1.1m前後までは盛土や攪乱層（第1層～第4層）が堆積し、その直下から氾濫による河川堆積層（第5層～第8層）が確認された。なお、1Tでは、地表下約2.2㎝までに及ぶ廃棄物による攪乱層が確認された。

試掘調査の結果、いずれの地点からも遺物や遺構は全く確認できず、遺跡はないと考えられたため、今回の試掘調査範囲においては、工事に着手しても差し支えない旨を報告した。

３－５　中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査

所　在　地　南巨摩郡身延町和田字石倉沢243外地内
調 査 期 間　2013年2月8日、12日
調 査 面 積　約42㎡（調査対象面積約750㎡）
担　当　者　保坂和博・土橋寛仁



試掘調査　位置図

本事業は、中部横断自動車道建設事業の本線建設に伴う試掘調査である。事業予定地は、東側の山地から西流し富士川へ合流する時雨沢川の両岸に広がる河岸段丘上にあり、周知の埋蔵文化財包蔵地は確認されていないが、現集落地帯として平坦地が形成されていることから、国土交通省関東地方整備局甲府河川国道事務所（中部横断自動車道推進室）、学術文化財課、埋蔵文化財センターにより、2012年4月19日及び12月6日に実施した現地協議に基づき、試掘調査を実施した。

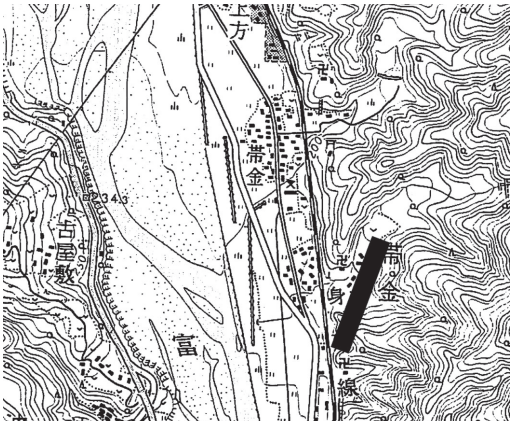
今回の試掘調査では、長さ約2.4～8.6m、幅約1.0～1.3m、深さ約0.6～1.9mのトレンチ（試掘溝）を6箇所(1T～6T)設定し、重機および人力による掘削後に遺構確認と土層観察を行った。

調査地は、時雨沢川の右岸（1・3・4T）と左岸（2・5・6T）の大きく2地点に分かれる。1・3・4Tの土層堆積状況は、基本的に同様であり、現地表下2.2m前後まで掘り下げたところ埋土層が確認された。2・5・6Tの土層堆積状況は、地表下20～30㎝前後までは第1層（表土層：崩落土層）となり、その下層に第2層（埋土層）が堆積し、さらに2・5Tの山側にだけ第3層（地山層：砂質土層）の層順が確認された。これらの埋土層は、ボーリング調査結果（中部横断自動車道地質調査：2006年実施）および地元の方からの聞取り（調査地点付近の時雨沢川両岸には、現河床まで埋土層が堆積している）と符合するものである。

試掘調査の結果、いずれの地点からも遺物や遺構は全く確認できず、遺跡はないと考えられたため、工事に着手しても差し支えない旨を報告した。

３－６　中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査

所　在　地　南巨摩郡身延町帯金字泥の沢1241地内
遺　跡　名　泥の沢A遺跡、泥の沢B遺跡
調 査 期 間　2013年2月22日～3月1日
調 査 面 積　約239㎡（調査対象面積約3,643㎡）
担　当　者　保坂和博・土橋寛仁



試掘調査　位置図

本事業は、中部横断自動車道建設事業に係る工事用道路建設に伴う試掘調査である。事業予定地は、東側の山地から西流し富士川へ合流する泥之沢川と薬師沢川に挟まれた複合扇状地にあり、JR身延線沿いの低地で標高186m前後、山側で標高224m前後を測る。予定地内の一部が周知の埋蔵文化財包蔵地である「泥の沢A遺跡（中・近世）、泥の沢B遺跡（中・近世）」の範囲に含まれることから、遺跡の広がりや遺構・遺物の有無を把握するため、国土交通省関東地方整備局甲府河川国道事務所（中部横断自動車道推進室）、学術文化財課、埋蔵文化財センターにより、2012年4月19日及び2013年2月8日に実施した現地協議に基づき、試掘調査を実施した。

今回の試掘調査では、工事用道路建設に係る借地契約が完了した用地内に長さ約1.0～15.0m、幅約1.0～1.8m、深さ約0.5～1.5mのトレンチ（試掘溝）を19箇所(1T～19T)設定し、重機による掘削後に人力により遺構確認と土層観察を行った。

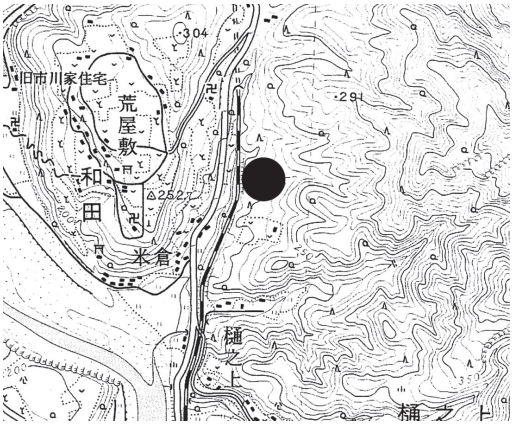
調査地は、山側の緩斜面（1T～12T）、JR身延線沿いの低地（13T～19T）の大きく2地点に分かれる。1～6Tでは、地表下0.4m前後までは表土層（第1層）、旧耕作土層（畑地：第2層）が堆積し、その直下から河川堆積物層（第3層～第5層）が確認された。7～12Tでは、地表下0.3m前後までは表土層（第1層）、旧耕作土層（水田：第2層、床土：第3層）が堆積し、その直下から河川堆積物層（第4層～第10層）が確認された。13～15Tでは、地表下0.4～0.8m前後までは表土層（第1層）、攪乱層（第2層）、耕作土層（第3層）が堆積し、その下層は河川堆積層となる砂礫層（第4層～第5層）が確認された。16～19Tでは、地表下0.4m前後までは表土層（畑地：第1層）、旧耕作土層（水田：第2層、床土：第3層）が堆積し、その直下から河川堆積物層（第4層～第8層）が確認された。

試掘調査の結果、いずれのトレンチからも遺構は確認することはできなかった。7T内の河川堆積層から近世の土器片1点が出土しているが流れ込みの遺物と判断された。

以上のことから、今回の試掘調査地点においては、遺跡はないと考えられたため、工事に着手しても差し支えない旨を報告した。なお、今回の試掘対象地内で試掘調査を実施できなかった地点（未契約地）は、今後改めて協議の上、埋蔵文化財保護の対応を図る必要がある旨を報告した。

３－７　中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査

所　在　地　南巨摩郡身延町和田字平林576－26外地内
調 査 期 間　2013年3月4日～18日
調 査 面 積　約338.3㎡（調査対象面積約11,068㎡）
担　当　者　保坂和博・土橋寛仁



試掘調査　位置図

本事業は、中部横断自動車道建設事業に係る本線及び工事用道路建設に伴う試掘調査である。事業予定地は、東側の山地から西流し富士川へ合流する南北両端に位置する沢に挟まれた台地上にあり、周知の埋蔵文化財包蔵地は確認されていないが、JR身延線沿いの低部で標高200m前後、山側で標高220m前後を測る西向き緩傾斜面が広範囲に形成されていることから、遺跡の広がりや遺構・遺物の有無を把握するため、国土交通省関東地方整備局甲府河川国道事務所（中部横断自動車道推進室）、中部横断自動車道推進事務所、学術文化財課、埋蔵文化財センターにより、2013年1月30日及び3月13日に実施した現地協議に基づき、試掘調査を実施した。

今回の試掘調査では、用地の取得された範囲内に長さ約1.0～5.0m、幅約1.0m、深さ約0.4～0.85mのトレンチ（試掘溝）を58箇所(1T～58T)設定し、人力による掘削後に遺構確認と土層観察を行った。

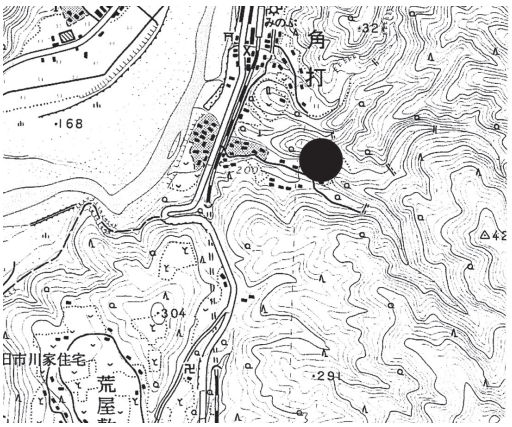
各トレンチの土層堆積状況は、基本的に同様であり、第1層（表土層：黒褐色土：腐植土）、第2層（にぶい黄褐色土：遺物包含層）、第3層（褐色土：遺構確認面）が確認された。また、深堀をした1～8Tでは、第3層下に第4層（黄褐色土）、第5層（地山層：黄褐色土：礫を多量に含む）が確認され、台地縁辺に位置する10・11・17・44・45・47・48・57・58Tでは、第2層下に第5層あるいは第3層中に地山の礫が混じる堆積状況が確認された。

試掘調査の結果、各トレンチから縄文時代前期から中期初頭に比定される遺物（土器片・石器片）や住居跡、土坑、ピットなどが確認された。

以上のことから、今回の試掘調査地点においては、遺跡が新たに発見されたため、「平林遺跡」として登録し、工事に着手する前に発掘調査による記録保存などの埋蔵文化財の保護措置が必要である旨を報告した。また、今回試掘調査が出来なかった試掘調査対象地点については、今後改めて協議の上、試掘調査を実施する必要がある旨も併せて報告した。

３－８　中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査

所　在　地　南巨摩郡身延町角打地内
調 査 期 間　2012年3月8日
調 査 面 積　約8㎡（調査対象面積約427㎡）
担　当　者　保坂和博・土橋寛仁



試掘調査　位置図

本事業は、中部横断自動車道建設事業の本線建設に伴う試掘調査である。事業予定地は、東側の山地から西流し富士川へ合流する南沢川の右岸に広がる河岸段丘上にあり、周知の埋蔵文化財包蔵地は確認されていないが、現集落地帯として平坦地が形成されていることから、国土交通省関東地方整備局甲府河川国道事務所（中部横断自動車

道推進室）、学術文化財課、埋蔵文化財センターにより、2012年4月19日に実施した現地協議に基づき、試掘調査を実施した。

今回の試掘調査では、長さ約2.0～3.0m、幅約1.0m、深さ約0.4～0.7mのトレンチ（試掘溝）を3箇所（1T～3T）設定し、人力による掘削後に遺構確認と土層観察を行った。各トレンチの土層堆積状況は、1Tと2～3Tで異なる状況である。1Tでは、現地表下0.7m前後まで掘り下げたところ埋土層（第1層～第2層）が堆積し、その下層に第3層（地山層：河川砂礫堆積層）が確認された。2～3Tは、基本的に同様であり、地表下10㎝前後までは第1層（表土層：畑地）となり、その下層に3Tで第2層（旧水田層）が堆積し、さらに2～3Tで第3層（旧水田床土層）、第4層（地山層：砂質土層）の層順が確認された。

試掘調査の結果、いずれの地点からも遺物や遺構は全く確認できず、遺跡はないと考えられたため、工事に着手しても差し支えない旨を報告した。

３－９　国道411号改良事業に伴う試掘調査

所　在　地　①甲州市勝沼町休息1612外
　　②甲州市勝沼町等々力1430外
　　③甲州市勝沼町山1140外
遺　跡　名　大門後遺跡
調 査 期 間　①2012年10月29日～30日
　　②2012年12月3日～4日
　　③2012年12月5日
調 査 面 積　①約46㎡（調査対象面積約385 ㎡）
　　②23㎡（調査対象面積約368㎡）
　　③16㎡（調査対象面積約750㎡）
担　当　者　保坂和博・土橋寛仁

試掘調査　位置図

本事業は、国道411号改良事業に伴う道路拡幅工事である。今回の事業予定地となる甲州市勝沼町等々力から地内については、周知の埋蔵文化財包蔵地である大門後遺跡の範囲内や大塚南遺跡などの隣接地にあたることから、2012年10月11日に行った峡東建設事務所、学術文化財課、埋蔵文化財センターとの現地協議に基づき、引渡しが完了した用地内の3箇所を対象として試掘調査を実施した。

甲州市勝沼町休息1612外地内の試掘調査では、長さ約3.2～6.4m、幅約1.0m、深さ約0.7～1.6mのトレンチ（試掘溝）を5箇所（用地外の隣接地で行われていた看板の基礎布設用の縦坑を2Tとして含む）設定し、重機によりそれぞれ掘削し、人力により遺構確認と土層観察を行った。土層の堆積状況は、基本的に同様であり地表下約10～80㎝まで埋土層（第1～4層）が確認され、その下層に自然堆積層（第4～9層）が確認された。試掘調査の結果、いずれのトレンチからも遺構は確認されず、また各トレンチの砂礫層（第9層）からは、摩滅した平安時代の土器の小破片が僅かに出土しているが、周辺地域に所在する遺跡からの流れ込みの遺物と判断されるため、今回の試掘調査地点は、遺跡はないと考えられたため、工事に着手しても差し支えない旨を報告した。

甲州市勝沼町等々力1430外地内の試掘調査では、長さ約3.2～6.4m、幅約1.0m、深さ約0.7～1.6mのトレンチ（試掘溝）を5箇所（用地外の隣接地で行われていた看板の基礎布設用の縦坑を2Tとして含む）設定し、重機によりそれぞれ掘削し、人力により遺構確認と土層観察を行った。土層の堆積状況は、基本的に同様であり地表下約10～80㎝まで埋土層（第1～4層）が確認され、その下層に自然堆積層（第4～9層）が確認された。試掘調査の結果、明治期以降の埋甕が出土しているが、山梨県教育委

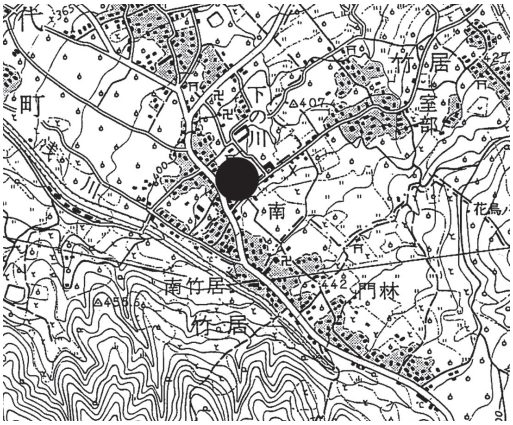
員会埋蔵文化財事務取扱要項第3条に基づき、これらは本地域における保護措置の必要性はないものと判断されるため、今回の試掘調査地点では工事に着手しても差し支えない旨を報告した。

甲州市勝沼町山1140外地内の試掘調査では、長さ約9.3m、幅約1.7m、深さ約2.8mのトレンチ（試掘溝）を1箇所設定し、重機によりそれぞれ掘削し、人力により遺構確認と土層観察を行った。土層の堆積状況は、地表下約1.8mまで道路建設時の整地層（第1～6層）が確認され、その下層に旧表土層（第7層）、さらに河川堆積層（第8～9層）が確認された。試掘調査の結果、遺構・遺物ともに検出されず、遺跡は存在しないものと考えられたため、今回の試掘調査地点においては、工事に着手しても差し支えない旨を報告した。

なお、今回の事業予定地となる甲州市勝沼町等々力から山地内については、今回の試掘対象地内で未引渡し等により試掘調査が実施出来なかった地点（山交差点付近など）を今後改めて協議の上、埋蔵文化財保護の対応を図る必要がある旨を併せて報告した。

３－10　山梨リニア実験線建設事業に伴う試掘調査

所　在　地　笛吹市八代町竹居1211外地内
遺　跡　名　柚木遺跡
調 査 期 間　2012年12月13日～14日
調 査 面 積　約32㎡（調査対象面積約300㎡）
担　当　者　保坂和博・土橋寛仁



試掘調査　位置図

本事業は、山梨リニア実験線建設事業に伴う機能回復道路を建設する工事である。この地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地である柚木遺跡の範囲に当たることから、2012年11月12日に行った鉄道建設・運輸施設整備支援機構、学術文化財課、埋蔵文化財センターとの現地協議に基づき、試掘調査を実施した。

今回の試掘調査では、長さ約4.5～8.0m、幅約1.0m、深さ約0.8～1.9mのトレンチ（試掘溝）を5箇所（1T～5T）設定し、重機によりそれぞれ掘削し、人力により遺構確認と土層観察を行った。土層の堆積状況は、基本的に同様で、地表下約20～40㎝まで工事用道路の石砕が敷設され、その下に養生シートを挟んで、硬くしまった厚さ約20～40㎝の旧表土（耕作土）層となり、さらに黒褐色土層（第3層）、褐色土層（第4～6層）の層順が確認された。

試掘調査の結果、いずれのトレンチからも遺構は確認されず、3T第2層（旧耕作土層）から縄文時代の土器片が1点出土したのみで、これまでに本地点の近接する範囲で行われた試掘調査でも同様に希薄な出土状況がみられ、周辺地域に所在する遺跡からの流れ込みと判断された。

以上のことから、今回の試掘調査地点においては、遺跡はないと考えられたため、工事に着手しても差し支えない旨を報告した。

３－11　甲府駅南口周辺地域修景計画に伴う試掘調査

試掘調査　位置図

所　在　地　甲府市丸の内二丁目地内
遺　跡　名　甲府城下町遺跡
調 査 期 間　2012年6月4日～5日
調 査 面 積　約16㎡（調査対象面積約1,050㎡）
担　当　者　保坂和博・土橋寛仁

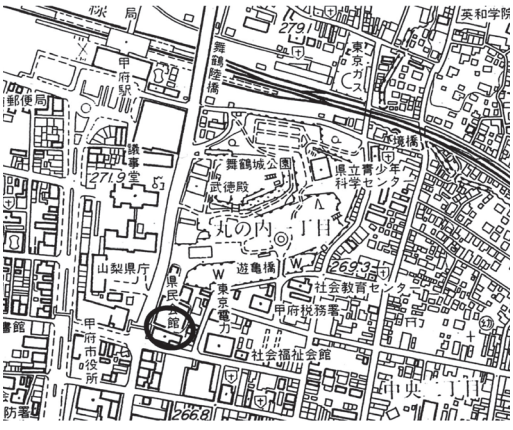
事業予定地は、相川扇状地の扇端部、相川の中下流左岸に位置し、標高272mを測り、周知の埋蔵文化財包蔵地である甲府城下町遺跡の範囲内に当たり、また隣接地では、2002年に甲府駅周辺土地区画整理事業に伴う発掘調査（以下、43街区調査）が行われていることから、2012年5月9日に行われた都市計画課、中北建設事務所、学術文化財課、埋蔵文化財センターとの現地協議に基づき、試掘調査を実施した。

今回の試掘調査では、長さ約16m、幅約1.0m、深さ約1.5mのトレンチ（試掘溝）を1箇所（1T）設定し、重機により掘削した後に、人力により遺構確認と土層観察を行った。土層の堆積状況は、アスファルト層（1層）下に、現代の造成層の砕石層（2層）、褐色山砂層（3層）、灰オリーブ山砂層（4層）が確認された。トレンチ東側で限定的にオリーブ褐色砂礫層（5層）がみられ、さらにトレンチ全体に43街区調査で検出した黒褐色土層（6層：発掘Ⅳ層）、オリーブ黒色土層（7層：発掘Ⅴ層）、青黒色土層（8層：発掘Ⅵ層）の層順が確認された。遺構及び遺物の検出状況は、黒褐色土層（6層：発掘Ⅳ層）から時期不明の溝状遺構1条、焼土・炭化物・江戸期の土器と陶器片、オリーブ黒色土層（7層：発掘Ⅴ層）上面から時期不明の杭2本、江戸期のピット7基と土器片が確認されている。

試掘調査の結果、江戸時代の遺物包含層（6層）と同期の遺構面（7層）が確認された。遺物包含層（6層）の厚さは約10㎝、遺構確認面（7層）までの深さは、現地表面から約80㎝となる。

以上のことから、本事業予定地においては工事着手前に埋蔵文化財の保護に努める必要がある旨を報告した。

３－12　甲府駅南口周辺地域修景計画に伴う試掘確認調査


試掘確認調査　位置図

所　在　地　甲府市丸の内一丁目地内
遺　跡　名　甲府城跡
調 査 期 間　2012年12月1日～8日
調 査 面 積　約36㎡
担　当　者　野代幸和・長田隆志

本調査は、当該事業により影響を受ける可能性がある埋蔵文化財の確認調査を基本とし、併せて当事業に必要なデータ収集と提示を行うと共に、隣接する舞鶴城公園部分が県指定史跡であることに鑑み、堀跡の石垣など地下遺構の残存状況について文化財保護を視野に入れた成果を求めることを目的に調査を実施することとなった。学術文化財課と都市計画課・管財課で事前協議を実施し、当該日の工程で対応することで調整を行い、西側より既存構造物を避けながらトレンチを設定し、調査を行った。

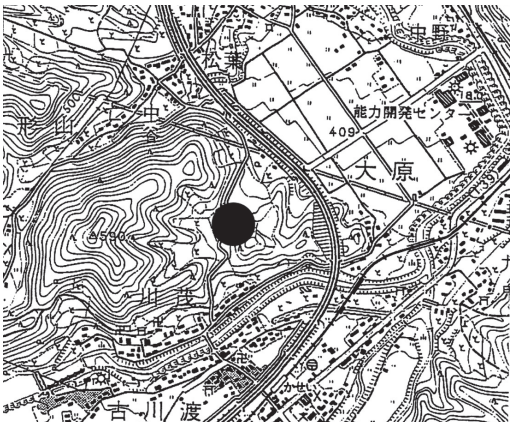
西側トレンチでは現況地盤面下560mmまで掘削を実施したところ旧建物の基礎にあたり、遺構は

確認できなかった。中央トレンチでは現況地盤面下410mmまで掘削を実施したところ旧建物の基礎が認められ、遺構は確認できなかった。ただし、一部掘削可能な地点を1400mmまで掘り下げたが、埋設管が認められ、堀は確認できなかった。東側トレンチでは現況地盤面下2200mmまで掘り下げたところ、堀の覆土を確認した。石垣が想定される付近には、既存の水道管があったことから掘削ができなかったため、遺構は確認できなかった。

今回の調査では、明確な遺構・遺物ともに確認できなかったが、既存建物の基礎解体工事など地下に影響を及ぼす際には特に注意が必要であり、撤去工事時に立会を、撤去後には本格的な調査が必要である。

３－13　リニア見学センター再整備事業に伴う試掘調査

所　在　地　都留市川茂字上揚久保502外地内
調 査 期 間　2012年11月1日～9日
調 査 面 積　約223㎡（調査対象面積約9,713㎡）
担　当　者　保坂和博・土橋寛仁



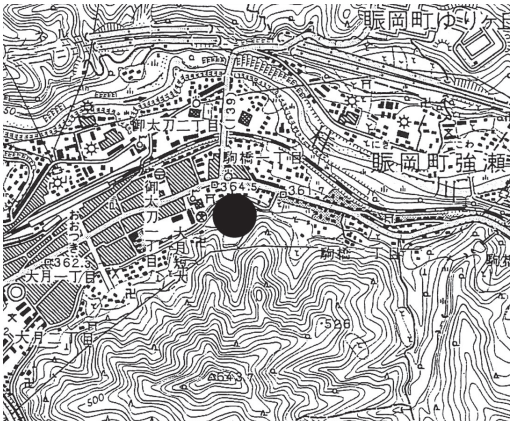
試掘調査　位置図

本事業は、リニア見学センター再整備事業における駐車場造成及び拡張に伴う外周擁壁などを設置する工事である。この地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地である揚久保遺跡及び中谷遺跡などに近接することから、2012年10月9日に行ったリニア推進課、学術文化財課、埋蔵文化財センターとの現地協議に基づき、試掘調査を実施した。

今回の試掘調査では、長さ約8.6～34.6m、幅約1.0m、深さ約1.9～2.9mのトレンチ（試掘溝）を11箇所（1T～11T）設定し、重機によりそれぞれ掘削し、人力により遺構確認と土層観察を行った。調査地は、現況の畑地に1～6Tを設定した駐車場新設予定地（緩傾斜地上部）と現況で駐車場及び畑地に7～11Tを設定した駐車場拡張予定地（緩傾斜地下部）に大別される。土層の堆積状況は、傾斜地上部の1～6Tでは地表下1m前後まで埋土層（第1～3層）が堆積し、その下層に地山層となる第5～12層が確認された。また、各トレンチの現表土下（畑地）の第2層及び第3層から掘り込まれた攪乱が広範囲にわたり確認された。傾斜地下部に設定した7～10Tでは、地表下約170～250㎝まで埋土層（第1～3層）が堆積し、その下層に地山層（第4層）が確認された。11Tでは、地表下約160㎝まで埋土層（第1～3層）が堆積し、その下層に地山層となる第4～7層（1～6Tの第7・8・11・12層同一層）が確認され、さらに第4層上面から掘り込まれた攪乱が確認された。

試掘調査の結果、いずれのトレンチからも遺構は確認されず、6T6層から黒曜石片1点が出土したのみで、希薄な出土状況から周辺地域に所在する遺跡からの流れ込みと判断された。以上のことから、今回の試掘調査地点においては、遺跡はないと考えられたため、工事に着手しても差し支えない旨を報告した。

３－14　県営住宅大月団地建替事業に伴う試掘調査



試掘調査　位置図

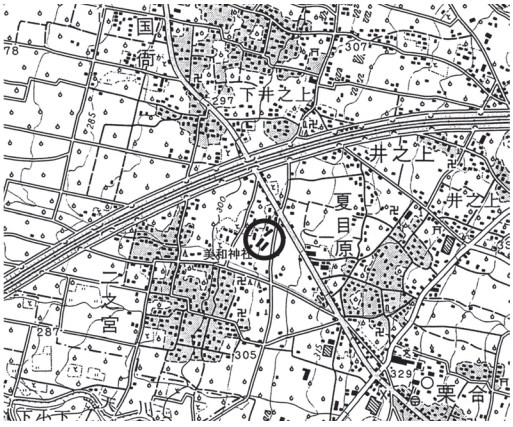
所　在　地　大月市駒橋一丁目5－2地内
遺　跡　名　丹後屋敷
調 査 期 間　2012年6月13日
調 査 面 積　約7㎡（調査対象面積約3,132㎡）
担　当　者　保坂和博・土橋寛仁

本事業は、県営住宅大月団地建替事業に伴う試掘調査である。この地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地である丹後屋敷の範囲に当たることから、2012年4月11日に行った建築住宅課、学術文化財課、埋蔵文化財センターとの現地協議に基づき試掘調査を実施した。

今回の調査では、長さ約2.8～3.4m、幅約1.1m、深さ約1.1～1.3mのトレンチを2箇所（1T～2T）設定し、重機により掘削し、人力により遺構確認と土層観察を行った。1Tの攪乱層（第2層）以外は、両地点ともに表土層（第1層：にぶい黄褐色土層）の下に地表下約10～120㎝前後まで事業地南側に立地する菊花山を供給源とする地滑り層（第3層：褐色土層、第4層：黒褐色土層）が堆積し、その直下から地山層（第5層：にぶい黄褐色土層）が確認された。

いずれのトレンチからも遺構は確認されず、また1Tの地滑り層（第4層）からは、摩滅した土器の小破片が1点出土しているが、周辺地域に所在する遺跡からの流れ込みの遺物と判断された。以上のことから、今回の試掘調査地点においては、遺跡はないと考えられたため、工事に着手しても差し支えない旨を報告した。

３－15　県営住宅御坂団地他駐車場整備事業に伴う試掘調査



試掘調査　位置図

所　在　地　笛吹市御坂町二之宮字宝手2650番1
遺　跡　名　後畑遺跡、御坂条里遺跡
調 査 期 間　2013年1月28日
調 査 面 積　約9㎡
担　当　者　野代幸和・長田隆志

本地点における工事日程に併せて、学術文化財課と建築住宅課・営繕課で事前協議を実施し、当該日の工程で対応することで調整を行い、埋蔵文化財の調査を実施する準備を行った。丁張りが完了した自転車置場建設予定地、緑地帯、看板建設予定地の3箇所にトレンチを設定し、調査を行った。

自転車置場建設予定地（0.6×5.0m）では、現況地盤面から保護層を勘案した800mmまで掘削を実施したところ、550mmの盛土と150mmの旧表土を確認した。土層の変色部分が認められたため東側の一部を1000mm付近まで掘り下げたところ塩化ビニルと鉄の配管が確認されたが、遺構・遺物共に確認できなかった。

緑地帯（0.6×5.5、0.6×2.5m）では、現況道路地盤面から保護層を勘案した800mmまで掘削を実施したところ、現況地盤面下540～800mmでコンクリート路盤にあたり掘削を中止した。遺構・遺物共に確認できなかった。本路盤は埋められたままということなので、下部の掘削は実施しなかった。

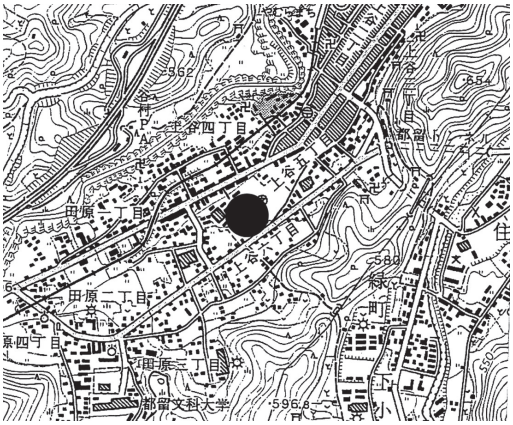
看板建設予定地（0.6×2.0m）では、現況地盤面下800mmまで掘り下げたところ、600mmの盛土を

確認した。一部撹乱も見られ旧地盤面が確認できなかったが、遺構・遺物共に確認できなかったため、掘削を中止した。

調査地点が狭小な範囲であると共に、地下に既存構造物が認められたことから、現状での調査には限界があるが、現況地盤下550mm付近で旧地表面も確認できたことから、遺構や遺物が残存する可能性が想定される。既存建物の基礎解体工事など地下に影響を及ぼす際には精度の高い調査が必要である。

３－16　東部地域総合制高校建設事業に伴う試掘調査

所　在　地　都留市上谷5－7－1地内
遺　跡　名　三ノ側遺跡
調 査 期 間　2012年7月25日～8月3日
調 査 面 積　約186㎡（調査対象面積約10,000㎡）
担　当　者　保坂和博・土橋寛仁



試掘調査　位置図

本事業は、東部地域総合制高校建設事業に伴う県立谷村工業高等学校敷地内の埋蔵文化財の試掘調査である。本体校舎建設予定地エリアは、2011年12月1日から9日にかけて実施した試掘調査により、隣接する県立産業技術短期大学都留キャンパス建設事業に伴う三ノ側遺跡の発掘調査（以下、都留キャンパス調査）で検出した遺物包含層（発掘3層）や遺構確認面（発掘4層～発掘6層）などの層順が確認されたことから、新設校舎建設に伴い新たに掘削行為を行う地点について再度試掘調査を行うこととなっていたため、トレーニングセンター建設予定地エリアと合わせて今回の試掘調査を実施した。

今回の試掘調査では、長さ約2.5～35m、幅約1.4m、深さ約1.5～3.0m（最深部）のトレンチ（試掘溝）を13箇所設定し、重機による掘削後、人力による遺構確認と土層観察を行った。

①本体校舎建設予定地エリア

既存校舎の間に現時点で調査が可能な範囲においてトレンチ（1T～11T）を設定した。土層の堆積状況は、1～3・5～11Tと4Tで異なる状況が確認された。1～3・5～11Tでは、地表から約90cmの深さまで旧学校建物の基礎や埋土層（a～m層）が堆積し、その下層には旧水田層：第1-1層～第1-2層（近世以降）、地表から深さ約110cmで奈良・平安時代の遺物包含層：第3層（発掘3層）、さらに奈良・平安時代以前の遺構確認面（第4-1層～第6層：発掘4層～発掘6層）などが確認され、土坑7基、溝状遺構１条、5Tの遺物包含層（第3層：発掘3層）、9Tの遺構確認面（第4-2層）からそれぞれ奈良・平安時代（8・9世紀）の土器片を僅かであるが確認している。なお、5Tでは旧水田層が見られず、地表から深さ約110cmまで埋土層が及んでいる。4Tでは、地表から約60cmの深さまで旧学校建物の基礎や埋土層（b層・d層）が堆積し、その下層に溶岩ブロック（第9層）および溶岩の岩盤（第10層：約8,500年前の猿橋溶岩）が確認されており、遺構及び遺物は確認されていない状況である。

②トレーニングセンター建設予定地エリア

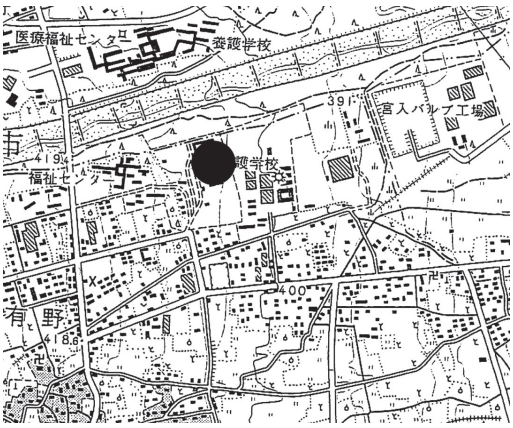
現在使われている駐車場での調査となるため、調査後の使用になるべく影響を及ぼさないよう2箇所にトレンチ（12T～13T）を設定した。各トレンチは、ほぼ同様の土層堆積状況を示しており、表土層（e層：アスファルト層）下では遺物包含層（第3層）や遺構確認面（第4-1層～第6層）などが見られず、地表から深さ約160cmの黒色土層（第7層）まで埋土層や攪乱層が及んでおり、遺構及び遺物は確認されていない状況である。

試掘調査の結果、本体校舎建設予定地エリア1～3・5～11Tでは、遺物包含層（第3層：発掘3層）

や遺構確認面（第4-1層～第6層：発掘4層～発掘6層）が確認され、かつ奈良・平安時代の土器片や土坑、溝状遺構が確認されていることから、埋蔵文化財の保護措置が必要と判断された。なお、4Tでは、旧学校建物の基礎や埋土層の下層に溶岩ブロックおよび溶岩の岩盤（約8,500年前の猿橋溶岩）が確認されていることから、埋蔵文化財が存在する可能性は極めて低いと考えられ、保護措置の必要はない旨を報告した。トレーニングセンター建設予定地エリアの12・13Tでは、遺物包含層（第3層）や遺構確認面（第4-1層～第6層）などが埋土層や攪乱層により削平され、遺構及び遺物は確認されていないため、発掘調査の必要はない旨を報告した。

３－17　県立わかば支援学校建設事業に伴う試掘調査

所　在　地　南アルプス市有野3346－3地内
遺　跡　名　後田堰
調 査 期 間　2012年8月20日～27日
調 査 面 積　約243㎡（調査対象面積約24,720㎡）
担　当　者　保坂和博・土橋寛仁



試掘調査　位置図

本事業は、県立わかば支援学校改築による撤去工事及び2期工事の予定地（新校舎及びグラウンド建設地点）における試掘調査である。この地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地である枡形堤防跡に隣接し、また後田堰（徳島堰から国史跡六科将棋頭内への導水施設）推定地の範囲にあたることから、2012年7月12日に行った学校施設課、学術文化財課、埋蔵文化財センターとの現地協議に基づき、昨年度の試掘調査に引き続き試掘調査を実施した。

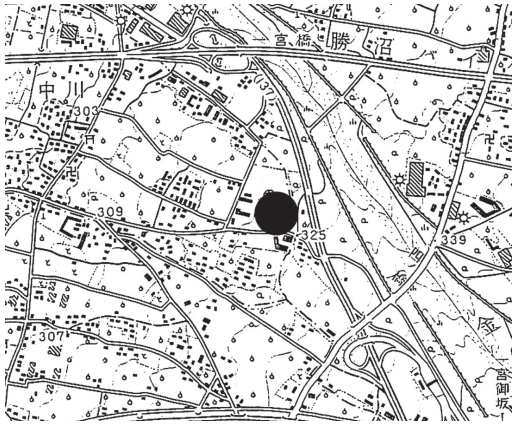
今回の試掘調査では、現況で調査の可能な範囲内に長さ約3～48m、幅約0.5～1.5m、深さ約0.5～2.5mのトレンチ（試掘溝）を14箇所（1T～14T）設定し、重機による掘削後、人力による遺構確認と土層観察を行った。

1・2・4Tでは、表土層（第1層）の下に砂礫層を主体とする整地層（第2～5層）の堆積が地表下2.5m前後まで確認された。3・9Tでは、表土層（第1層）の下に現地表下約30～50㎝まで整地層（第2層）が堆積し、さらに現地表下約1.5mまで砂質土と砂礫の互層状をなす河川堆積層（第3～6層）が確認された。5～8・10～14Tでは、表土層（第1層）の下に砂礫層を主体とする河川堆積層（第2～4層）が現地表下約1.2mまで確認された。このような各トレンチの土層の堆積状況からは、御勅使川右岸の氾濫源を切り土により造成し、現在の校舎を建設した状況が確認された。

試掘調査の結果、いずれの地点からも遺物や遺構は全く確認することはできなかった。また後田堰については、造成工事による土地の改変状況から今回の試掘対象地内では、既に消滅しているものと考えられた。

以上のことから、今回の試掘調査地点においては工事に着手しても差し支えない旨を報告した。

３－18　県立かえで支援学校建設事業に伴う試掘調査



試掘調査　位置図

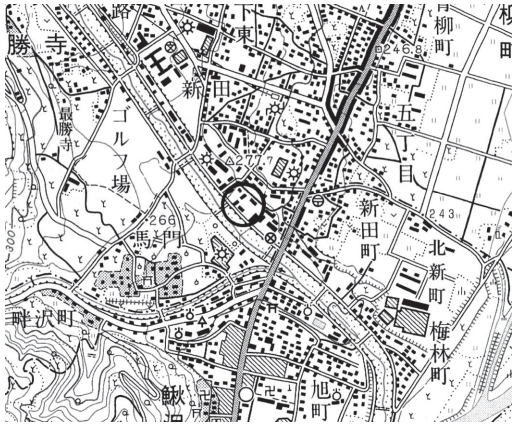
所　在　地　笛吹市石和町中川1400地内
調 査 期 間　2012年9月6日
調 査 面 積　約34㎡（調査対象面積約620㎡）
担　当　者　保坂和博

本事業は、かえで支援学校分教室改修事業に伴う高等部専門学科寄宿舎建設事業である。この地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地である狐原遺跡の隣接地に当たることから、2012年5月24日に行った現地協議に基づき、試掘調査を実施した。

今回の試掘調査では、長さ約5.0～8.0m、幅約1.0m、深さ約1.0～1.3mのトレンチ（試掘溝）を5箇所（1T～5T）設定し、重機によりそれぞれ掘削し、人力により遺構確認と土層観察を行った。土層の堆積状況は、基本的に同様であり、各地点ともに金川による自然堆積層（河川堆積層）が確認された。1～4Tでは、地表下約0.5mで砂礫層（7層）が確認され、5Tでは、同層を地表下約1.1mで確認しており、金川から離れた5Tで砂礫層（7層）の上層において比較的安定した土壌（4～6層：シルト層主体）堆積が確認された。

試掘調査の結果、いずれのトレンチからも遺構は確認されていないが、5T5層から平安時代の須恵器片が出土した。土層堆積及び遺物出土の状況から、5層は流れ込みの遺物と判断された。以上のことから、今回の試掘調査地点においては、遺跡はないと考えられたため、工事に着手しても差し支えない旨を報告した。

３－19　県立峡南高等技術専門校本館改築等事業に伴う試掘調査



試掘調査　位置図

所　在　地　南巨摩郡富士川町青柳町3492
遺　跡　名　堤防遺跡推定地
調 査 期 間　平成24年12月3日～5日
調 査 面 積　約200㎡（調査対象面積約585㎡）
担　当　者　依田幸浩・加々美鮎実

調査地点は、富士川の支流である戸川の左岸上にあたり、山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第152集『山梨県堤防・河岸遺跡分布調査報告書』において報告されている明治21年測量地図に記載された堤防（堤防遺跡推定地）の範囲内に位置している。このため、平成24年10月25日・26日には、新本館建築予定地の裏側（北東側）にあった寄宿舎の解体工事（基礎抜き取り作業）の際に立会調査を行ったが、遺構及び遺物は確認されなかった。

今回の試掘調査では、新本館建築予定地と寄宿舎のあった実習車両置場となる部分に試掘トレンチを6本設定し、平面及び断面の観察を行った。なお、どのトレンチも砂礫が厚く堆積しており、崩落の恐れがあったため、トレンチ内での作業は行わず、地上から観察及び測量作業を行った。

1号トレンチは新本館の部分、2・3号トレンチは新本館と実習車両置場の部分に設定した。新本館の部分は、1～3号トレンチでほぼ同様の状況であり、地表下0.7～1mほどまで埋め土及び峡南高等技術専門校旧施設のコンクリート構造物や攪乱が見られ、その下層は戸川によって運ばれた砂礫の水平

堆積が確認された。

2・3号トレンチの実習車両置場の部分では、峡南高等技術専門校北東側の敷地の縁から約5～7m離れた地点で、30～50㎝ほどの礫を斜めに積んだ石積みとその最下部から南西方向（戸川方向）に20㎝前後の礫が4mほど水平に並ぶ石列を検出した。石積みは、幅が約1～2m、深さが地表下約1.3～2.3mの範囲で確認したが、上部は解体された寄宿舎の基礎によって失われていると考えられる。また、石列は地表下約2mの地点で検出された。なお、3号トレンチでは、石積みの延長線上にあたる地表下約2.8mの地点で40～50㎝ほどの礫を検出していることから、水平に並ぶ石列のさらに下方まで石積みが伸びている可能性も考えられる。石積みを検出した周辺の土壌堆積状況は、地表下1mから2mほどまで寄宿舎の基礎による攪乱が見られ、その下層は、石積みや水平に並ぶ礫の地点まで葉裏状の砂礫が堆積していた。石積みと礫の下には人為的に盛られたと考えられる20㎝以下の礫を大量に含むにぶい黄褐色粘土が地表下約3mの地点まで見られ、さらに下層には地山と思われるにぶい黄褐色粘土が堆積していた。

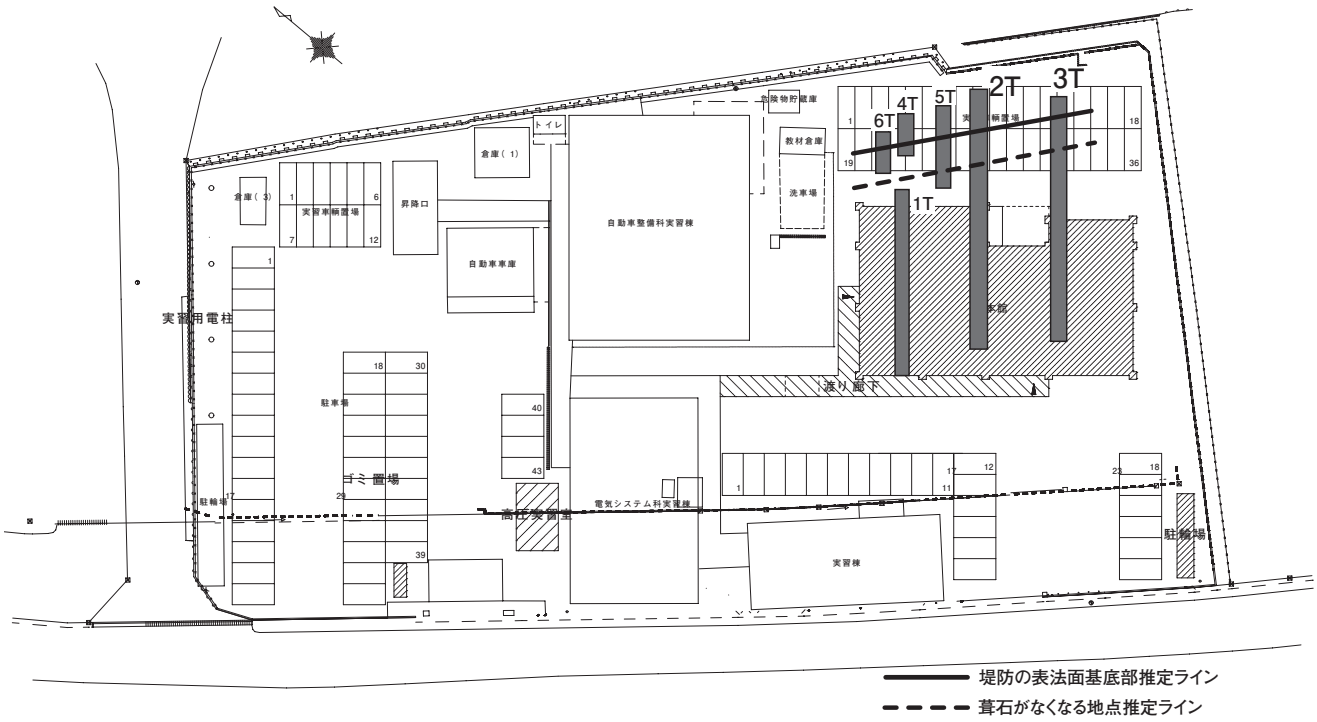
4～6号トレンチは、2・3号トレンチで検出した石積みと礫の北西方向への分布範囲を確認するため1号トレンチの北東側に設定した。4号トレンチでは、地表下約2mまで基礎の攪乱が見られ、石積みや礫は確認できなかったが、5・6号トレンチでは、2・3号トレンチからの延長線上で石積みや礫を検出した。

2・3・5・6号トレンチで検出した石積みは、検出された位置や砂礫の堆積状況から明治21年測量地図に記載された堤防の川表側法面の基部付近と考えられる。また、水平に並んだ石列は、各トレンチで石積みとともに検出されていることから、法面の前に広範囲に葺石された平坦面が作られていたことが想像される。堤防に付随した水勢を弱める、または堤防を守るための施設と考えられるが、トレンチ断面の観察だけでは詳細な形状や性格を把握することはできなかった。

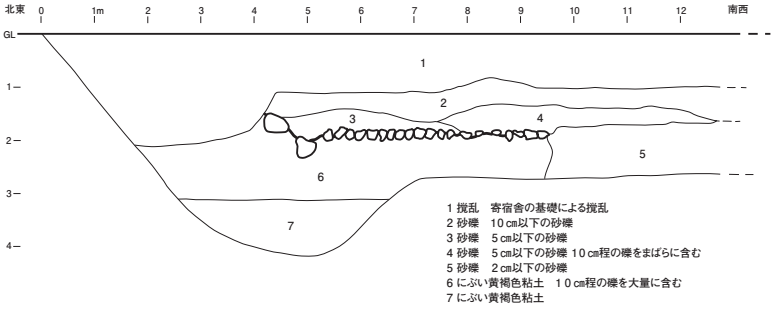
遺物は、石積み付近の砂礫層内に昭和期と思われる磁器片が少量見られた程度で、堤防が築かれた時期を特定するような遺物は出土しなかった。また、蛇籠や杭などの痕跡も確認できなかった。

試掘調査の結果、新本館建築予定地から遺構・遺物は全く検出されなかったため、工事に着手しても差し支えないと判断した。

ただし、実習車両置場となる部分では、地表下約1.3～3mの地点に堤防遺跡が存在することが判明したため、保護層の確保等、埋蔵文化財の保護措置が必要となる。

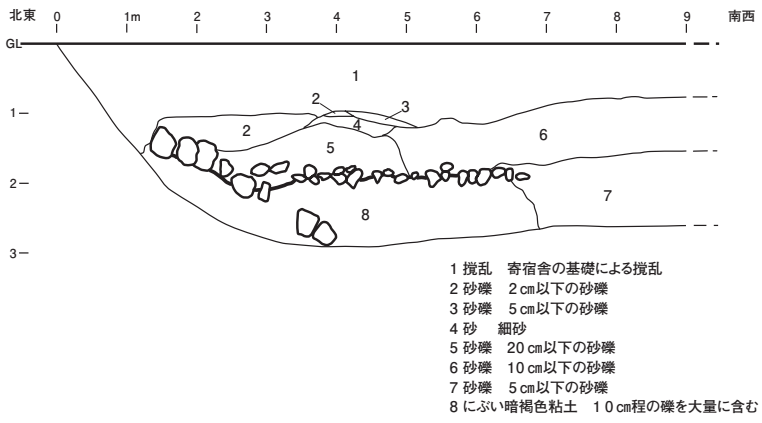


試掘トレンチ配置



2号トレンチ断面

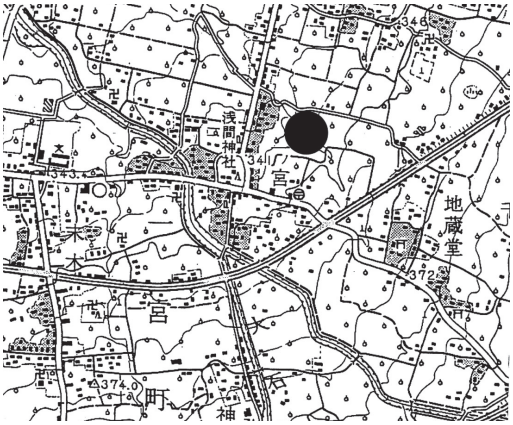
2号トレンチ石積み検出状況



3号トレンチ断面

3号トレンチ石積み検出状況

３－20　南川河川改修事業に伴う試掘調査



試掘調査　位置図

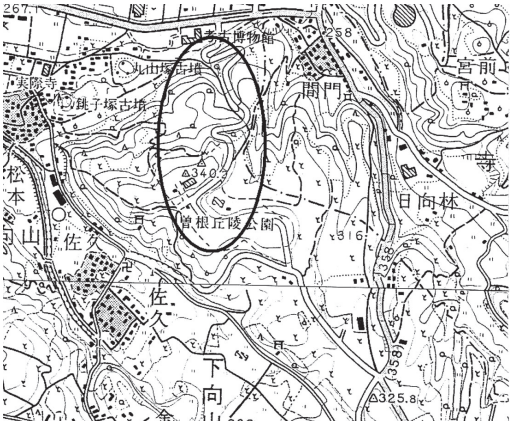
所　在　地　笛吹市一宮町一ノ宮字日出田766外地内
遺　跡　名　桜坪遺跡、中尾条理遺跡
調 査 期 間　2012年11月22日
調 査 面 積　約5㎡（調査対象面積約1,200㎡）
担　当　者　保坂和博・土橋寛仁

本事業は、南川河川改修事業に伴う護岸工事である。この地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地である桜坪遺跡及び中尾条里遺跡の範囲に当たることから、2012年10月26日に行った峡東建設事務所河川砂防課、学術文化財課、埋蔵文化財センターとの現地協議に基づき、試掘調査を実施した。

今回の試掘調査では、長さ約1.0ｍ四方、深さ約50～75㎝のトレンチ（試掘溝）を4箇所（1T～4T）設定し、人力によりそれぞれ掘削し、遺構確認と土層観察を行った。土層の堆積状況は、基本的に同様であり各地点ともに地表下10～30㎝前後まで表土層（耕作土層：第1層）が堆積し、その直下から南川の河川堆積により形成された砂礫層、シルト質土層（第2～4層）が確認された。

試掘調査の結果、いずれの地点からも遺構・遺物ともに検出されず、遺跡は存在しないものと考えられたため、今回の立試掘調査地点では、工事に着手しても差し支えない旨を報告した。

３－21　曽根丘陵公園（防災公園）整備事業に伴う試掘調査



試掘調査　位置図

所　在　地　甲府市下曽根町923外地内
遺　跡　名　上の平遺跡
調 査 期 間　2013年1月21日、23日～25日
調 査 面 積　約74㎡（調査対象面積約1,100㎡）
担　当　者　保坂和博・土橋寛仁

本事業は、曽根丘陵公園（防災公園）整備事業に伴う遠路拡幅及びトイレ等を設置する事業である。曽根丘陵公園内では、これまでに旧石器時代から古墳時代にかけての遺跡が数多く発掘調査され、また保存されてきており、今回の調査では岩清水遺跡の隣接地や埋設保存されている上の平遺跡の範囲に当たることから、2012年10月31日に行った現地協議に基づき、試掘調査を実施した。

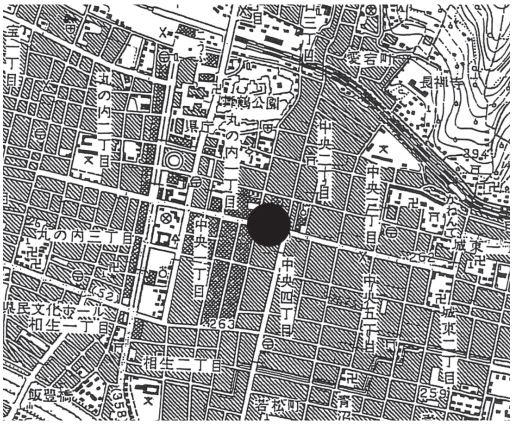
今回の試掘調査では、長さ約5.0～16.0m、幅約1.0m、深さ約0.7～1.7mのトレンチ（試掘溝）を9箇所（1T～9T）設定し、重機によりそれぞれ掘削し、人力により遺構確認と土層観察を行った。調査地は、1～7Tを設定した笛吹川左岸低地域（北地区）と8～9Tを設定した曽根丘陵上地域（南地区）に大別される。北地区の土層堆積状況は、1～3Tでは地表下約50㎝までは公園造成時の整地層（第1～7層）が堆積し、その下層は地山層となる第8層（にぶい黄褐色土層）、第9層（黒褐色土層）、第10層（橙色粘質土層）が確認され、さらに3Tでは沢状地形の傾斜に第11～15層の層順が確認された。4～5Tでは、地表下約70㎝まで崩落土層（第1～2層）、その下層に地山層となる黒褐色土層（第3～4層）が確認された。6～7Tでは、地表下約110㎝まで崩落土層（第1～3層）、その下層に地山層（第4～6層）が確認された。南地区の8～9Tでは、上の平遺跡の埋設保護層（盛り土層：第1～5層）

を8Tで地表下約90㎝、9Tで地表下約120㎝まで確認し、その下層にそれぞれ遺構確認層（地山層：第6～7層）が確認された。

試掘調査の結果、1～7Tでは、遺構は全く確認できず、遺跡はないと考えられたため、工事に着手しても差し支えない旨を報告した。8～9Tでは、遺構確認層が検出されたことから工事を行うに当っては、埋蔵文化財の保護措置（遺構確認面から保護層30㎝の確保など）が必要である旨を報告した。

3－22　都市計画道路古府中環状浅原線街路事業に伴う立会調査

所　在　地　甲府市中央二丁目14外地内
遺　跡　名　甲府城下町遺跡
調 査 期 間　2012年5月30日～10月6日
調 査 面 積　約425㎡（調査対象面積約425㎡）
担　当　者　保坂和博・土橋寛仁



立会調査　位置図

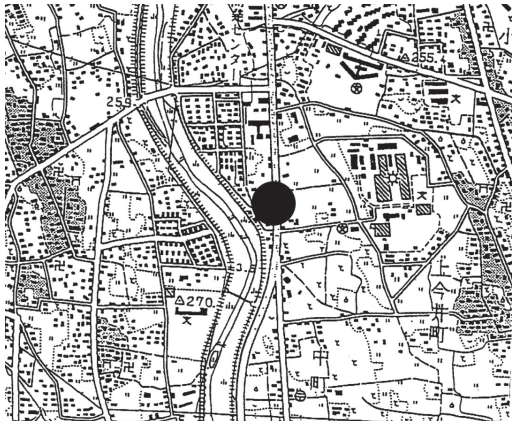
本事業は、県道古府中環状浅原橋線及び城東通り（国道411号線）の拡幅工事に伴う調査である。この地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地である甲府城下町遺跡の範囲内に当たることから、これまで発掘調査等による対応を行ってきた経緯がある。今年度も新たに買収された事業エリアに関して2012年5月2日及び5月15日に行われた中北建設事務所都市整備課、学術文化財課、埋蔵文化財センター、甲府市教育委員会による事前協議に基づき、国道に関しては埋蔵文化財センター、県・市道部分は甲府市教育委員会が試掘調査を分担し、極小範囲で行われる工事に関しては両者で立会調査を行うこととした。

今回の立会調査では、工事工程に合わせて2012年5月から10月にかけて計17回実施した。各地点の土層の堆積状況は、後世の攪乱等による差異は見られるが基本的に2011年10月に行われた本調査時の層序に対応しており、第1層（表土：砕石・アスファルトなど）、第2層（焼土層：近代～江戸期）、第3層（造成層：江戸期）、第4層（焼土層：江戸期）、第5層（造成層：江戸期）、第6層（文化層：江戸期）、第7層（文化層：造成層）、第8層（文化層：中世から古代）、第9層（地山層：黒色粘質土）、第10層（地山層：黒褐色粘質土）、第11層（暗オリーブ褐色粘質土）が確認された。

立会調査の結果、A地点では、甲府城の土塁跡及び堀跡が想定されたがその痕跡は確認出来ず、④地点で甲府上水に伴う桶が検出された。B地点では、③地点で2011年度の調査で発見された同様の金付着のかわらけが第4層から出土した。C地点では、⑰地点の第7層から江戸期の石列が確認された。

以上のことから今後、本地点で工事を行う場合には、遺跡に影響を及ぼさない保護措置を行うことが必要である旨を報告した。

３－23　国道358号共同電線溝設置事業に伴う立会調査


立会調査　位置図

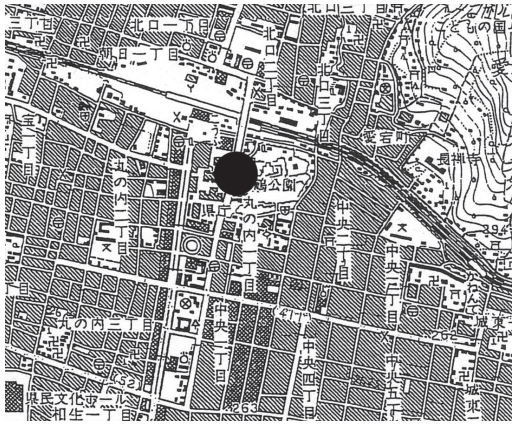
所　在　地　甲府市上今井町1025地先外
調 査 期 間　2012年10月30日、11月29日
調 査 面 積　約34㎡（調査対象面積約579㎡）
担　当　者　保坂和博

本事業は、国道358号共同電線溝設置事業に伴う管路等を設置する事業である。この地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地には該当しないが国道の両車線においてそれぞれ施工長約187m（甲府駅方面車線）、約199m（下曽根町方面車線）、幅約1.5～1.8m、深さ約2.3mの範囲となることから、2012年6月22日に行った中北建設事務所道路課、学術文化財課、埋蔵文化財センターとの現地協議に基づき、夜間の立会調査を実施した。

今回の立会調査では、当初両車線2箇所ずつの立会場所を設定したが同様な土層堆積状況であることが確認されたことから1箇所ずつにおいて重機によりそれぞれ掘削し、人力により遺構確認と土層観察を行った。土層の堆積状況は、基本的に同様であり、地表（道路面）下130㎝前後まで道路造成層（第1～4層）となり、その直下から荒川の後背湿地域に形成された粘質土層、シルト質（第5～11層）が確認され、さらに10月30日の立会調査1地点（甲府駅方面車線）では、地震の痕跡と考えられる高さ約１ｍに及ぶ液状化現象（噴砂）が観察された。

立会調査の結果、いずれの地点からも遺構・遺物ともに検出されず、遺跡は存在しないものと考えられたため、今回の立会調査地点では、工事を進めても差し支えない旨を報告した。

３－24　県道甲府山梨線整備事業に伴う立会調査


立会調査　位置図

所　在　地　甲府市丸の内一丁目6－1地先外
遺　跡　名　甲府城跡
調 査 期 間　2012年7月9日
調 査 面 積　約6㎡（調査対象面積約6㎡）
担　当　者　保坂和博・土橋寛仁

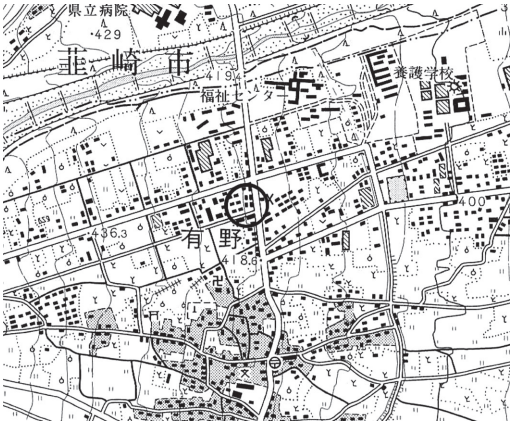
本事業は、甲府山梨線整備事業に伴う照明柱を設置する事業である。この地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地である甲府城跡の範囲に当たることから、2012年6月28日に行った中北建設事務所道路課、学術文化財課との事前協議に基づき、甲府市教育委員会、学術文化財課、埋蔵文化財センターにより立会調査を実施した。

今回の調査では、照明柱の設置に伴う掘削箇所2地点を7月9日の午前（第1地点）と午後（第2地点）のそれぞれに立会を実施した。第1地点では、長さ約3.0m、幅約1.2m、最深部1.42mの掘削坑を対象に調査した。土層の堆積状況は、歩道敷設とガス管埋設に伴う造成層下に現況地盤面下約62～142㎝に一条小山を形成する岩盤が確認された。第2地点では、長さ約1.7m、幅約1.5m、深さ約1.6mまで掘り下げたところ、地表（歩道面）下1.6m前後まで埋土層が確認された。

立会調査の結果、第1地点では、当初の掘削深度は2.3mであったが、岩盤に掘削が及ばないことを確認した上で、工事を進めても差し支えない旨を指示した。第2地点では、遺構・遺物ともに検出されないため、今回の立会調査地点では、工事を進めても差し支えない旨を報告した。

３－25　林野庁関東森林管理局山梨森林管理事務所白根宿舎解体事業に伴う立会調査

所　在　地　南アルプス市有野2722-26
調 査 期 間　2012年8月20日
調 査 面 積　約44.6㎡（調査対象面積約44.6㎡）
担　当　者　依田幸浩



立会調査　位置図

本調査は、山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第152集『山梨県堤防・河岸遺跡分布調査報告書』において報告されている明治21年測量地図に記載された堤防（堤防遺跡推定地）付近に立地する山梨森林管理事務所白根宿舎解体工事における立会調査である。立会調査は、既存建物の基礎撤去作業に合わせて重機による掘削部分の断面と底面の観察を行った。

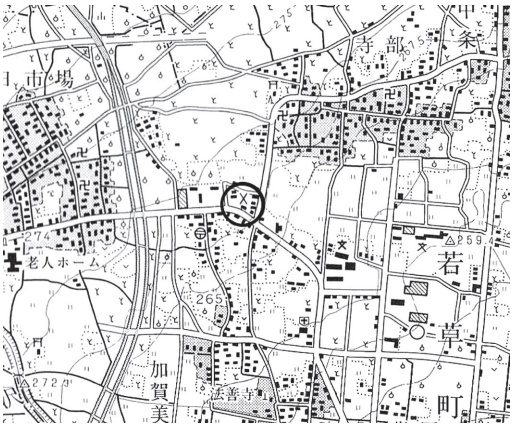
既存基礎は50年程前の布基礎で、根入れの深さは20㎝ほどであった。基礎周辺の土壌は、地表下20㎝まで埋め土と思われる砕石の多く混ざった黒色土で、地山を確認することはできなかった。

建物の北側では、埋設されていた浄化槽を撤去するために、地表下1ｍほどまで掘り下げた。浄化槽が設置されていた地点の土壌堆積状況は、地表下約20㎝まで基礎部分と同じ砕石の混ざった黒色土で、下層は地表下約1ｍまで砂礫が堆積していた。

今回の立会調査では、遺構・遺物は全く確認されなかったことから、本工事における埋蔵文化財の保護措置は必要ないものと判断した。

３－26　南アルプス警察署三田駐在所改築事業に伴う立会調査

所　在　地　南アルプス市寺部144-1
遺　跡　名　加賀美条里遺構
調 査 期 間　2012年7月20日
調 査 面 積　約3.5㎡（調査対象面積約226㎡）
担　当　者　依田幸浩



立会調査　位置図

本調査は、周知の埋蔵文化財包蔵地である加賀美条里遺構の範囲内にあり、伊勢前遺跡（弥生・古墳・平安時代）に隣接する南アルプス警察署三田駐在所改築工事に伴う立会調査である。

調査は、既存建物の基礎撤去作業に合わせて実施し、新築建物の基礎に設定されている部分を除いて、既存基礎の内側にトレンチを2カ所設定し、埋蔵文化財の確認を行った。

第1号トレンチは、既存基礎の設置深度も併せて確認するため、既存基礎脇の地点に設定した。土壌の堆積状況は、埋め土と思われる5㎝以下の礫を多く含んだ黄褐色粘土層、黄褐色粘土層、砂礫層であった。第2号トレンチは、新築基礎間の中間部分に設定し、第1号トレンチと同様に地表面から約100㎝まで掘削した。土壌の堆積状況は、埋め土と思われる5㎝以下の礫を多く含んだ黄褐色粘土層、黄褐色粘土層、北から南へ傾斜する砂礫層と葉裏状の砂礫を含む黄褐色粘土層であった。

第1・2号トレンチともに、トレンチのさらに下方に続くと考えられる砂礫層を確認した。今回の調査地点は、御勅使川扇状地の扇端部に立地していることから、河川の氾濫による砂礫が広く堆積している状況が想定される。

今回の立会調査では、遺構・遺物は全く確認されなかったことから、本工事における埋蔵文化財の保護措置は必要ないものと判断した。

３－27　県営寿団地下水道接続事業に伴う立会調査

所　在　地　富士吉田市上暮地一丁目８
調 査 期 間　2012年9月12日～14日・18日・19日
調 査 面 積　約14㎡（調査対象面積約30㎡）
担　当　者　依田幸浩

立会調査　位置図

本調査は、県営住宅寿団地の下水道接続工事における立会調査である。周辺に周知の埋蔵文化財包蔵地はなく、溶岩流の流下範囲内であることが想定されたが、回答のあった事業予定地の面積が広かったため、富士吉田市教育委員会と協議した中で、試掘・立会が必要との指示になっていた。実際には、掘削する面積が狭かったことから、立会調査を実施することとなった。

立会調査は、下水道接続工事の工程に沿って、5カ所の掘削地点で行った。Ａ地点では、地表下約70㎝まで埋め土が堆積しており、埋め土の下層30㎝程の厚さで暗赤色スコリアと溶岩ブロックが堆積し、その下層は溶岩の岩盤であった。Ｂ地点では、地表下約1ｍまで埋め土が堆積しており、その下層は岩盤であった。Ｃ～Ｅ地点は、地表下1～1.1ｍまで掘削したが、全て埋め土が堆積しており、地山は確認されなかった。

今回の立会調査では、遺構・遺物は全く確認されなかったことから、本工事における埋蔵文化財の保護措置は必要ないものと判断される。

３－28　県営住宅身延第二団地下水道接続事業に伴う立会調査

所　在　地　南巨摩郡身延町波木井1200-2地内
調 査 期 間　2012年9月24日・25日・26日
調 査 面 積　約35㎡（調査対象面積約42㎡）
担　当　者　依田幸浩

立会調査　位置図

本調査は、県営住宅身延第二団地の下水道接続工事における立会調査である。周辺に周知の埋蔵文化財包蔵地はないものの、工事地点の西側に日蓮宗波木井山円実寺があり、塔頭などの埋蔵文化財が存在する可能性があるため、立会調査を実施することとなった。

立会調査では、下水道の配管を設置するために身延第二団地2号棟の北側に沿って掘られた幅１ｍ、深さ1.2～1.6ｍの溝の掘削状況を確認し、掘削終了後に溝の断面および底部の観察を行った。

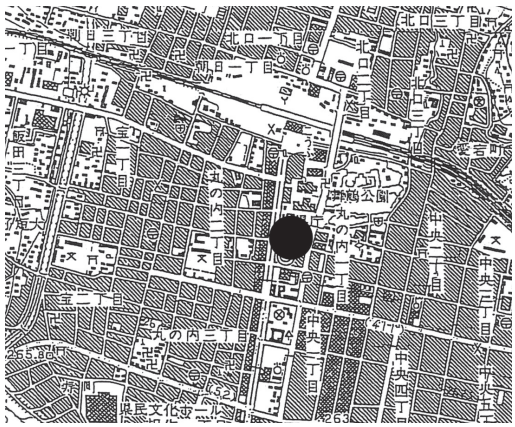
溝の西側では、地表下約20㎝まで砕石が敷かれ、その下層から溝の底部まで４㎝以下の礫を含む明褐色粘土が堆積していた。また、西側の最も端の部分では明褐色粘土の下層にオリーブ黒色の粘土が堆積している状況が確認され、この周辺からは湧水が見られた。溝の中央部分では、地表下約70㎝まで側溝のコンクリート壁等の埋め土が見られ、その下層は明褐色粘土が堆積していた。溝の東側では、地表下約70㎝までは中央部と同じ状況で、その下層はオリーブ黒色粘土、明褐色粘土の順で堆積

していた。オリーブ黒色粘土は東側へ進むほど厚く堆積していた。オリーブ黒色粘土とその上層の埋め土の間からは、わずかながら湧水が見られた。

今回立会調査を行った地点において遺構・遺物は全く確認されなかったことから本工事における埋蔵文化財の保護措置は必要ないものと判断される

３－29　山梨県防災新館建設事業に伴う試掘調査

所　在　地　甲府市丸の内一丁目8地内
遺　跡　名　甲府城跡
調 査 期 間　2012年12月10日、17日～18日
調 査 面 積　約11㎡（調査対象面積約11㎡）
担　当　者　保坂和博


立会調査　位置図

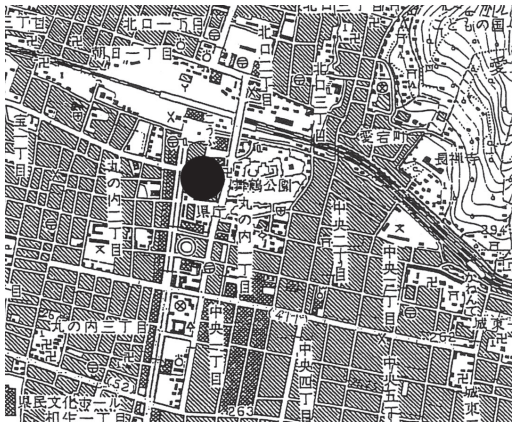
本事業は、山梨県防災新館建設事業に伴い県民会館前交差点付近と平和歩道橋交差点付近の2箇所において新設公共雨水枡及びその配管を現歩道下の下水道本管に布設する工事である。この地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地である甲府城跡の堀の範囲内に想定されていることから、学術文化財課と管財課との事前協議に基づき、重機及び人力による掘削時に立会調査を実施し、遺構確認と土層観察を行った。道路占有の関係から深夜21時以降からの対応となった。

県民会館前交差点付近では、長さ約3.0m、幅約1.1m、深さ約1.9mの掘削坑を対象に調査した。土層の堆積状況は、現況地盤面下約1.05mまで既設の配管などの敷設に伴う埋土（暗灰黄色粘質土に礫が混入）が確認され、さらに約1.9mまで掘り下げたところ、甲府城の堀の覆土（オリーブ黒色粘質土＋暗緑色配色シルト質土に5～10㎝大の礫が多量に混入）と考えられる堆積が確認された。平和歩道橋交差点付近では、歩道脇の暗渠を挟んで長さ約2.4m、幅約1.5m、深さ約2.0mの掘削坑を対象に調査した。土層の堆積状況は、現歩道（アーケード）部分では歩道敷設に伴う造成層（砂層、砕石層）を現況地盤面下約1.0mまで確認し、さらに約2.0mまで掘り下げたところ、堀の覆土と考えられる層中に下水道本管が確認され、江戸期以降の所産と考えられる石臼（上臼）1点が出土した。旧県民情報プラザ建物跡地部分では、現況地盤面下約1.8mまで建物基礎及びその埋土が確認された。

今回の県民会館前交差点付近と平和歩道橋交差点付近の立会調査では、甲府城の堀の覆土と考えられる堆積が確認されたため、これ以上の掘削を行わないことを確認した上で、工事を進めても差し支えない旨を指示した。

３－30　県庁構内県警電話幹線埋設配管経路増設事業に伴う立会調査

所　在　地　甲府市丸の内一丁目8地内
遺　跡　名　甲府城跡
調 査 期 間　2013年3月9日
調 査 面 積　約11㎡（調査対象面積約11㎡）
担　当　者　保坂和博


立会調査　位置図

本事業は、県庁構内における県警電話幹線埋設配管の経路を増設する工事である。この地点は、周知の埋蔵文化財包

蔵地である甲府城跡の範囲に含まれることから、県警本部、学術文化財課、埋蔵文化財センターとの2012年12月28日に行われた事前協議に基づき、重機による掘削時に立会調査を実施し、遺構確認と土層観察を行った。工事工程の都合から土曜日の対応となった。

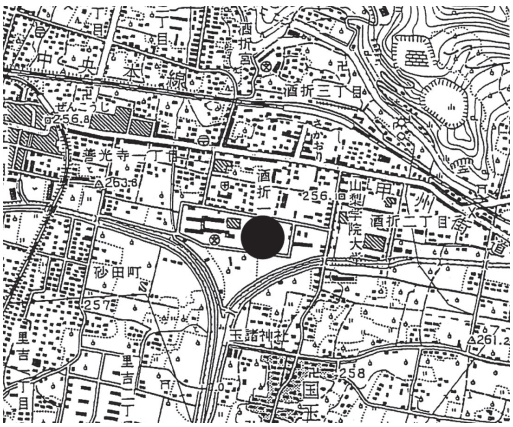
今回の立会調査では、①マンホール側地点（長さ約320㎝、幅約75㎝、深さ約110㎝）と②県庁別館外壁側地点（長さ約200㎝、幅約45～70㎝、深さ25～60㎝）の工事掘削範囲において重機および人力による掘削後に遺構確認と土層観察を行った。マンホール側地点の土層堆積状況は、現地表下約110㎝まで掘り下げたところ、第1層（表土：アスファルト約7.5㎝）、第2層（埋土：砕石約20㎝）が堆積し、一部別館外壁側に第3層（コンクリート基礎約10㎝）と第4層（埋土：砂約20㎝）、さらに全体的に第5層（盛土：黒褐色土約50㎝）、第6層（盛土：にぶい黄褐色土約20㎝）、第7層（地山層：黒褐色土約15㎝）が確認された。県庁別館外壁側の土層堆積状況は、現地表下約25～60㎝前後まで掘り下げたところ、第1層（表土：コンクリート約10㎝）、第2層（埋土：砕石約50㎝）が堆積し、その下層に既存の重要通信ケーブル2本が確認された。

今回の立会調査では、いずれの地点からも遺構・遺物ともに検出されなかったため、工事を進めても差し支えない旨を報告した。

なお、県指定有形文化財（建造物）の県庁舎別館（旧本館）の外壁への配管（穿孔）工事は、予定どおりの内容で行われたことを確認した。

３－31　県立甲府東高等学校治水対策事業に伴う立会調査

所　在　地　甲府市酒折一丁目17－1地内
調 査 期 間　2012年7月23日
調 査 面 積　約83㎡（調査対象面積約155㎡）
担　当　者　保坂和博・土橋寛仁



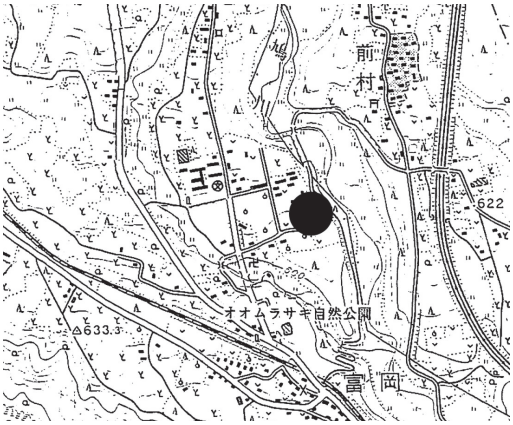
立会調査　位置図

本事業は、県立甲府東高等学校での濁川流域グランド貯留施設建設工事に伴う立会調査である。この地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地には該当しないが事業面積が広範囲におよぶことから、2012年7月13日に行われた中北建設事務所河川砂防課、学術文化財課、埋蔵文化財センターとの現地協議に基づき、工事工程に合わせて立会調査を実施した。

今回の立会調査は、施工箇所の中で新たな掘削がおよぶ範囲で、グランドの周囲の小堤及びグランド搬入路を対象に実施した。グランド整地工については、既掘箇所となることから立会調査を実施しないこととした。小堤施工箇所では、長さ約536ｍ、掘削深度約60㎝、幅約50㎝を測る。土層の堆積状況は、立会第1地点で現況地盤面下約60㎝まで埋土（整地層）が確認された。搬入路施工箇所（立会第2地点）では、長さ約25ｍ、掘削深度約70㎝、幅約100㎝の掘削範囲において確認作業を行った。土層の堆積状況は、現況地盤面下約40㎝まで埋土（整地層）が堆積し、さらに自然堆積層（第2～4層）が確認された。

立会調査の結果、いずれの地点からも遺構・遺物ともに検出されず、遺跡は存在しないものと考えられたため、今回の立会調査地点では、工事を進めても差し支えない旨を報告した。

３－32　県立北杜高等学校緊急修繕事業に伴う立会調査



立会調査　位置図

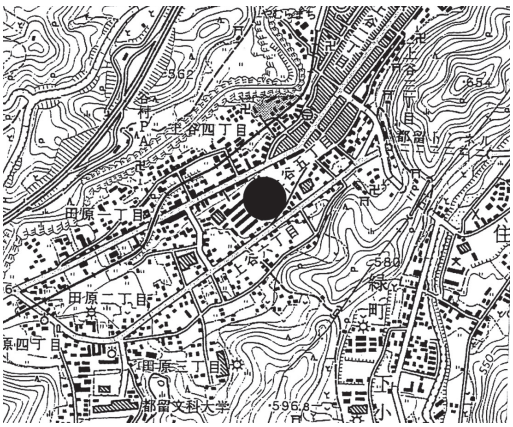
所　在　地　北杜市長坂町渋沢153地内
調 査 期 間　2012年11月30日
調 査 面 積　約3㎡（調査対象面積約3㎡）
担　当　者　保坂和博・土橋寛仁

本事業は、県立北杜高等学校での農場外周擁壁工事、既設枡改修工事、道路側溝改修工事等に伴う立会調査である。この地点は、これまでに峡北地区総合学科高校（北杜高校）整備事業に伴い、2000年度から2002年度にかけて3次にわたり発掘調査が実施され、縄文時代中期や平安時代の集落跡などが発見されている「原町農業高校前遺跡」の隣接地に当たることから、2012年10月23日に行われた県立北杜高等学校、学術文化財課、埋蔵文化財センターとの現地協議に基づき、工事工程に合わせて立会調査を実施した。

今回の立会調査は、市道脇にある既設枡の周囲に嵩上げ擁壁を設置する際に遺構・遺物の確認作業を行った。工事による掘削深度は、既設枡の法面側で最大高130㎝前後を測り、この掘削面での土層堆積状況は表土層以下に地山層（暗褐色土層）が確認された。

立会調査の結果、いずれの地点からも遺構・遺物ともに検出されず、遺跡は存在しないものと考えられたため、今回の立会調査地点では、工事を進めても差し支えない旨を報告した。

３－33　東部地域総合制高校建設事業に伴う立会調査



立会調査　位置図

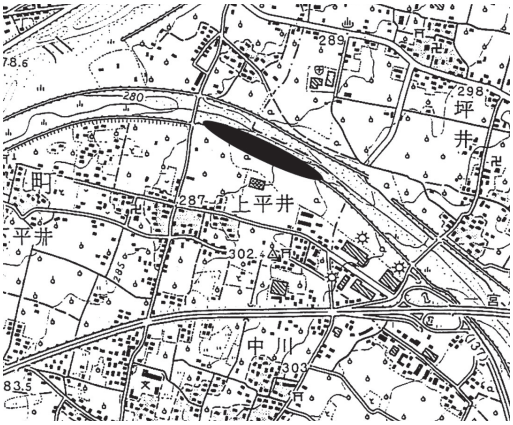
所　在　地　都留市上谷5-7-1地内(谷村高校グランド)
遺　跡　名　三ノ側遺跡
調 査 期 間　2013年3月11日～13日、18日
調 査 面 積　約94㎡（調査対象面積約118）
担　当　者　笠原みゆき

本事業は、東部地域総合制高校建設事業に伴う仮設校舎給排水敷設工事での立会調査である。

平成23年度の試掘調査では旧水田層下に遺物包含層が確認されており、地表面から最も深いところで約1m、浅いところで約0.6mの地点で旧水田層の下層に存在することから、工事全長148.5mの内、掘削深度が0.6mに達しない仮設校舎脇までの117.5mを立会調査の範囲とした。

調査の結果、グランド北東部では地表下約0.9mで水田層を確認し、この旧水田層の下約0.3mの黒褐色土中から平安時代の土師器の破片10点ほどが出土したが、遺構は検出されなかった。また、この地点以外では、遺構・遺物とも検出されなかった。

３－34　森林公園金川の森再整備事業に伴う立会調査



立会調査　位置図

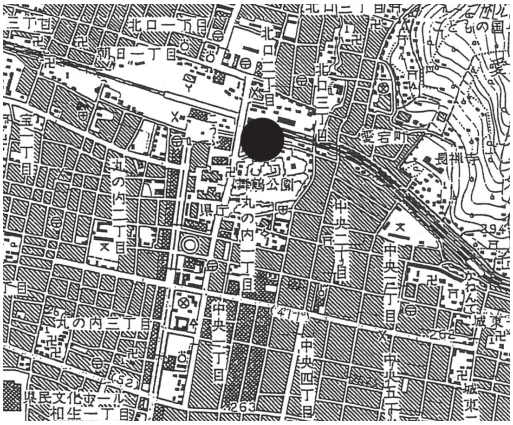
所　在　地　笛吹市石和町上平井地先
遺　跡　名　宮の上遺跡
調 査 期 間　2012年11月12日、12月6日
調 査 面 積　155㎡（調査対象面積約155㎡）
担　当　者　保坂和博・土橋寛仁

本事業は、森林公園金川の森再整備事業により、かぶとむしの森観察施設を設置する工事である。この地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地である宮の上遺跡の範囲内に当たることから、県有林課と学術文化財課との事前協議に基づき、工事工程に合わせて立会調査を実施した。

今回の立会調査は、空中観察施設、生きもの観察施設、クイズラリー標示板の建設地点において基礎の掘削深度が現地表下0.45～1.1m前後に及ぶため、重機による掘削時に人力により遺構確認と土層観察を行った。各地点における土層堆積状況は、基本的に同様であり、地表下0.2～0.5m前後まで表土層（腐植土層）が堆積し、その直下から金川の氾濫により形成された河川堆積層となり、砂質土層、シルト質土層、砂礫層による互層が確認された。

今回の立会調査では、遺構・遺物は全く確認できず、遺跡はないと考えられたため、工事を進めても差し支えない旨を報告した。

３－35　舞鶴橋南立ち上げ管路復活工事事業に伴う立会調査



立会調査　位置図

所　在　地　甲府市丸の内1丁目１地内外
遺　跡　名　甲府城跡
調 査 期 間　2013年3月21日～22日
調 査 面 積　約5㎡（対象面積約5㎡）
担　当　者　宮里学

本事業は、舞鶴橋南立ち上げ管路復活工事事業に伴う管路工等を設置する事業である。この地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地である甲府城跡に該当するため、学術文化財課、埋蔵文化財センターとの協議を経て立会調査を実施した。

今回の立会調査は、甲府駅南口に隣接することから、電気や情報管など様々な管路が埋設されており、掘削工事を伴う開発が頻繁におこなわれている地点である。また、施工は既設配管の再利用であることから、立会調査で掘削が計画通り実施され、土層堆積状況を確認しつつ遺構の確認をおこなうことを目的とした。掘削面積は、約5㎡で、長さ4.5m、幅1mの範囲で既設埋設管を再検出した。掘削深度0.6mで既設埋設管が確認され、土層の堆積状況を観察したが、全体が既掘範囲であるため砕石が検出されたのみであった。

立会調査の結果、当該地点は屋形曲輪に比定されるが、遺構・遺物ともに検出されず、施工は既掘範囲内で完了したため、工事を進めても差し支えないと認められた。

第Ⅲ章　県内の概況

1　届出件数と内容

平成19年度より文化財保護法施行令第5条により県教育委員会が行うこととされている文化財保護法第93条の指示及び第94条の勧告に係る権限の一部を、富士吉田市を除く11市に移譲し、平成20年度には富士吉田市へ、平成22年度には身延町および富士河口湖町へ権限を移譲したことにより、県下の14市町へ文化財保護法第93条・第94条に係る権限の一部を移譲した。権限移譲を行ったのは指示・勧告のうち工事立会、慎重工事などの軽微なもので「発掘調査」や「試掘・確認調査」の指示・勧告は現行どおり県教育委員会で行っている。権限移譲にあたっては、埋蔵文化財の専門知識と客観的かつ合理的な基準が必要となることから埋蔵文化財専門職員が配属されている自治体を対象とし、山梨県教育委員会の事務処理の特例に関する条例の一部を改正する条例により実施した。よって平成19年度以降の届出件数について、権限移譲した分があるため県への届出件数が減少している。

平成24年度、県内の埋蔵文化財調査による届出件数については、法92条：5（2）件、法93条：179（139）件、法94条：43（32）件、法96条：0（0）件、法97条：3（8）件、法98条：0（0）件、法99条：198（187）件である。届出の総件数は428（368）件であり、前年度と比較すると、その件数は60件の増加となっている。

※（　　）内数字は前年度。過去20年間の件数の変遷は62頁の表のとおり。

2　発掘調査

平成24年度に実施された県内の発掘調査件数は、62頁の表のとおり試掘調査を含めて205（192）件（発掘調査学術調査等含む）となっている。その内訳は、県教委による調査が21（33）件、市町村教委による調査が179（157）件、民間調査組織による調査が5（2）件である。発掘調査の原因は、道路21（29）件、鉄道1（1）件、河川0（1）件、学校建設3（8）件、集合住宅10（6）件、個人住宅60（72）件、工場0（2）件、店舗12（9）件、個人住宅兼工場又は店舗2（1）件、その他建物27（13）件、宅地造成30（11）件、土地区画整理3（2）、公園造成1（1）、ガス・電気・電話・水道6（4）件、農業基盤整備事業10（6）件、農業基盤整備事業以外の農業関係事業2（1）件、土砂採取0（0）件、その他開発11（11）件といった緊急調査と、学術調査2（5）件、保存目的の範囲確認2（3）件、遺跡整備2（4）件があった。緊急調査では、地方公共団体が行う公共事業では道路などが目立ち、民間開発においては宅地造成に大幅な増加傾向がみられる。　※（　　）内数字は前年度。

3　県指定有形文化財（考古資料）及び県指定史跡

平成24年度は、県指定有形文化財（考古資料）１件が指定されている。平成25年1月10日に県指定有形文化財（考古資料）として告示された「海道前Ｃ遺跡土坑出土品」は北杜市高根町の海道前C遺跡から出土した、縄文時代中期の土器3点・石器1点からなる。このうち人面装飾付土器の文様は、母体から子どもが生まれようとする瞬間を表すとされる。一方石棒は、男性器を象っているとされ、これらが同時に出土したことは、縄文人の豊穣への表れととらえられ、縄文時代の精神文化をさぐる上で重要な資料である。

4　発掘調査の成果と保存整備事業

平成24年度県内各地で行われた発掘調査（試掘調査含む）は延べ205件ある。北杜市の堰口遺跡では縄文時代前期・中期、平安時代の集落跡が調査され、縄文時代前期に大規模な拠点的集落が営まれ

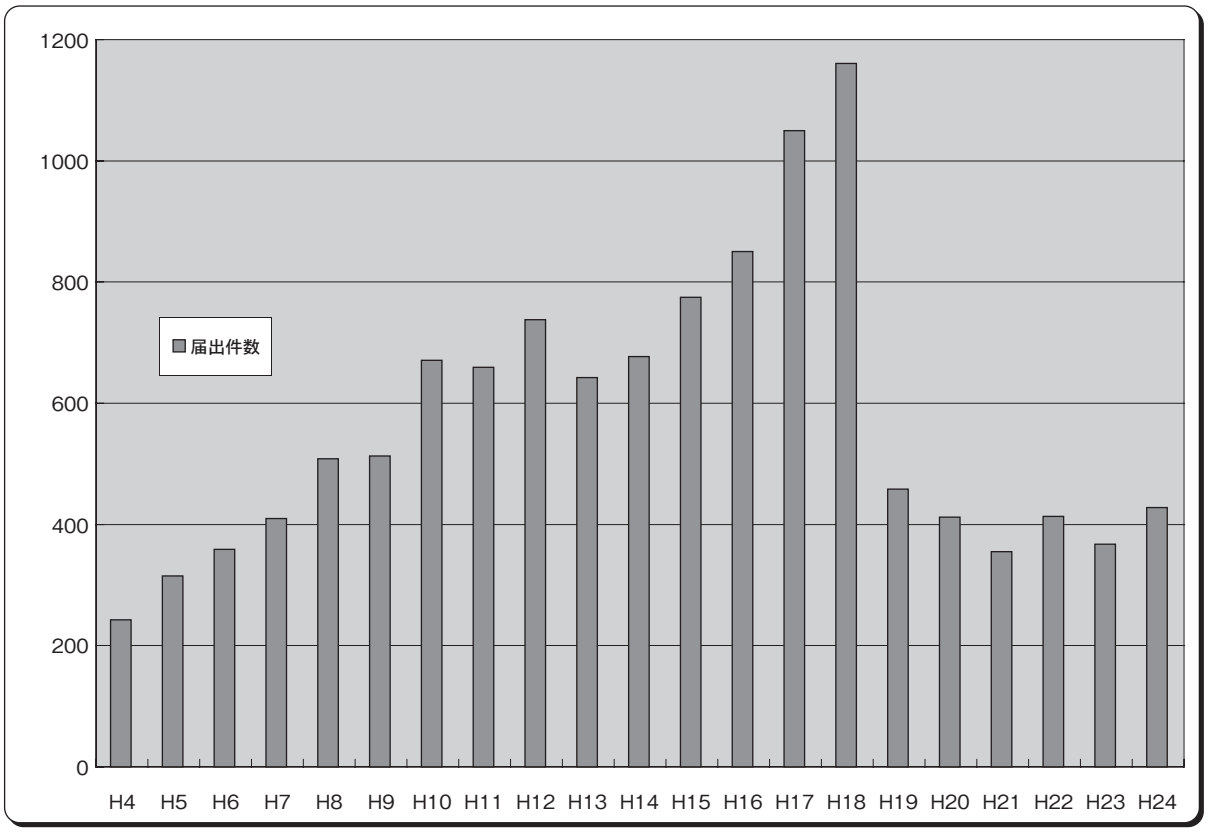
ていたことが確認されている。南アルプス市のお熊野堤では布積みされた石積みによる堤防が前御勅使川で初めて発見され、石積みの堤防の内部には、さらに古い堤防跡も発見されている。身延町の大野堤防遺跡では、良好な状態で保存されていた堤防が発見され、石積出や蛇籠の跡なども確認された。富士河口湖町河口の鯉ノ水遺跡では平安時代と鎌倉時代の道路遺構が確認され、古代官道と中世鎌倉往還の遺構である可能性がある。甲府市中央の甲府城下町遺跡では平成23年度の発掘調査により出土したふいごやかわらけ等に金が付着していることが平成24年度の整理報告書作成作業によって確認され、金の精錬を行っていた「甲州金座」が周辺に存在することが明らかになってきた。

史跡の保存整備事業について、国指定史跡では武田氏館跡（甲府市）及び新府城跡（韮崎市）で、発掘調査成果をもとにした整備事業が進められているほか、富士山（富士吉田市）では平成23年度末の地震災害で倒壊した石造物の復旧整備が行われた。また、県指定史跡では甲府城跡（甲府市）で鉄門が約140年ぶりに復元整備され、平成25年1月10日から公開されているほか、連方屋敷（山梨市）での発掘調査成果をもとにした整備工事や勝山城跡（都留市）での自然災害復旧整備などが行なわれている。

５　発掘調査体制

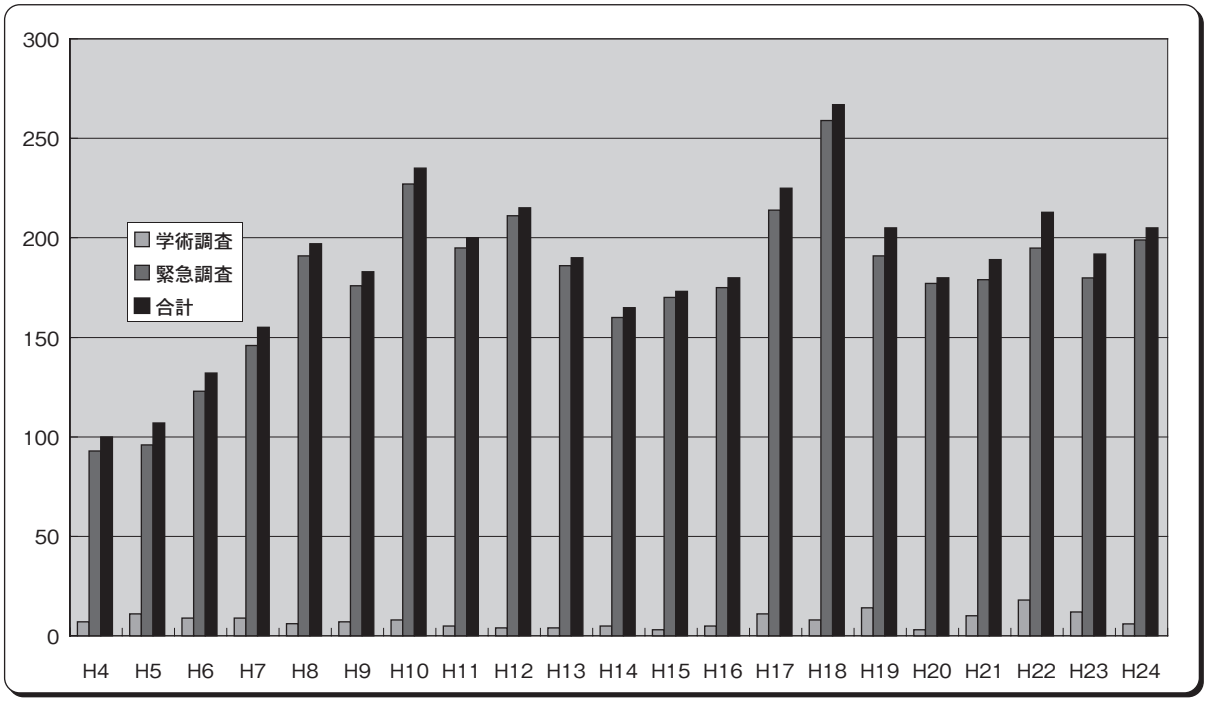
埋蔵文化財専門職員について、県では学術文化財課4名、埋蔵文化財センター22名（うち教員派遣交流3名、非常勤嘱託4名）、博物館2名、考古博物館4名である。市町村では、甲府市6名、富士吉田市2名、甲州市3名、大月市1名、韮崎市3名、南アルプス市3名、笛吹市4名（他に非常勤嘱託2名）、甲斐市1名（他に非常勤嘱託1名）、北杜市3名（他に非常勤嘱託2名）、山梨市2名、中央市1名（昭和町と兼務）、都留市1名、上野原市1名、身延町1名、忍野村1名（非常勤嘱託）、富士河口湖町1名となっている。埋蔵文化財担当者の配置率は、27市町村のうち17市町村で約63％となり、平成15年度の61％（64市町村のうち39市町村）と比べ増加しているが、担当職員数は54名から15名減の39名（嘱託等含む）の配置状況であり、市町村合併や発掘調査事業量の減少に伴い組織編成が行われ、埋蔵文化財専門職員の配置換えによって実質的に配置職員数の減少となっている。また専門職員の退職がここ数年で大きな山を迎えることが予想される。近年発掘調査事業量が減少する一方で、行財政改革が進められるなど、埋蔵文化財行政をとりまく環境は大きく変化しつつあり、実情に見合った適切な専門職員配置は大きな課題である。行政としては、記録保存のための発掘調査の実施にとどまらず、これまでの膨大な調査成果の蓄積を適切に保存・活用し、歴史を活かした地域作りに資するなど、多様な業務を実施し、国民の期待に応えることが求められている。

届出件数の推移 ※H19年度以降は各市町内での処理件数は含まない。



年度	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
届出件数	243	315	359	410	508	513	671	659	738	642	677	775	850	1050	1161	458	412	355	414	368	428

発掘調査件数の推移



年度	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
学術調査	7	11	9	9	6	7	8	5	4	4	5	3	5	11	8	14	3	10	18	12	6
緊急調査	93	96	123	146	191	176	227	195	211	186	160	170	175	214	259	191	177	179	195	180	199
合計	100	107	132	155	197	183	235	200	215	190	165	173	180	225	267	205	180	189	213	192	205

２０１２年度　県内発掘調査一覧

No	遺　跡　名	所　在　地	面積(㎡)	遺跡の種類	遺跡の年代	調査目的	調査主体	調査期間
1	伊勢之宮遺跡	笛吹市八代町北	1,188.72	散布地	古墳・奈良・近世	その他開発(無線基地局)	笛吹市教育委員会	H24.4.17 ～ H24.4.19
2	甲府城下町遺跡	甲府市丸の内二丁目	8.00	城下町	近世	個人住宅	甲府市教育委員会	H24.4.19
3	桜木遺跡	韮崎市旭町上条北割	353.99		縄文・平安	その他建物(公民館)	韮崎市教育委員会	H24.4.20
4	山影遺跡	韮崎市藤井町南下條	379.90	集落跡	縄文・平安	個人住宅	韮崎市教育委員会	H24.4.24
5	外中代遺跡	甲府市川田町	4.00	集落跡	古墳・奈良・平安	個人住宅	甲府市教育委員会	H24.4.20 ～ H24.5.2
6	当町Ｂ遺跡	北杜市高根町村山北割	500.10	散布地	中世	個人住宅	北杜市教育委員会	H24.4.24 ～ H24.5.1
7	甲府城下町遺跡	甲府市北口二丁目	7.00	城下町	近世	土地区画整理	甲府市教育委員会	H24.4.27
8	甲府城下町遺跡	甲府市北口二丁目	850.00	城下町	近世	土地区画整理	甲府市教育委員会	H24.4.16 ～ H24.6.8
9	包蔵地外	南アルプス市桃園	8.00			店舗	南アルプス市教育委員会	H24.5.1
10	金の尾遺跡	甲斐市大下条	2,614.00	集落跡	縄文･弥生･古墳･奈良･平安	宅地造成	甲斐市教育委員会	H24.4.20 ～ H24.5.18
11	坂井南大原遺跡	韮崎市藤井町北下條	330.89			個人住宅	韮崎市教育委員会	H24.5.23
12	六科･村北遺跡,前御勅使川堤防址群	南アルプス市六科	1,459.50	散布地	中世	宅地造成	南アルプス市教育委員会	H24.5.11 ～ H24.5.15
13	五反田遺跡	甲州市塩山熊野	11,267.00	古墳	古墳	店舗	甲州市教育委員会	H24.3.13 ～ H24.3.31
14	加賀美条里遺構	南アルプス市加賀美	9.00	その他遺跡(条里)	古墳	宅地造成	南アルプス市教育委員会	H24.5.10
15	藤塚遺跡,山道第２遺跡	韮崎市中田町中條	20,041.28	集落跡	縄文・平安	その他開発	韮崎市教育委員会	H24.5.14 ～ H24.5.16
16	泉下遺跡	北杜市大泉町西井出	706.73	散布地	縄文	個人住宅	北杜市教育委員会	H24.5.17 ～ H24.5.22
17	旧菅原小学校遺跡	北杜市白州町白須	607.00	集落跡	縄文・平安・中世	個人住宅	北杜市教育委員会	H24.5.21 ～ H24.5.25
18	馬場遺跡	北杜市高根町下黒澤	592.00	散布地	縄文・平安・中世	個人住宅	北杜市教育委員会	H24.4.27 ～ H24.5.1
19	銚子原遺跡	笛吹市八代町岡	400.00	集落跡	縄文	公園造成	笛吹市教育委員会	H24.5.14 ～ H24.5.30
20	大野堤防遺跡	南巨摩郡身延町大野	120.00	その他遺跡(堤防跡)	近世・近現代	道路	身延町教育委員会	H24.5.9 ～ H24.5.18
21	常葉川堤防遺跡	南巨摩郡身延町波高島	230.00	その他遺跡(堤防遺跡推定地)	近世・近現代	道路	山梨県埋蔵文化財センター	H24.5.28 ～ H24.6.29
22	甲府城跡	甲府市丸の内一丁目	7.00	城館跡	近世・近現代	その他建物(県庁舎)	山梨県埋蔵文化財センター	H24.5.28 ～ H24.6.1
23	上コブケ遺跡	山梨市南	1,384.00	散布地・集落跡	縄文・平安	道路	山梨県埋蔵文化財センター	H24.6.4 ～ H24.7.31
24	道生掘遺跡	都留市つる五丁目	80.00	散布地	縄文・中世	その他建物(駐車場)	都留市教育委員会	H24.5.15 ～ H24.5.18
25	武田城下町遺跡	甲府市屋形一丁目	6.75	城下町	中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H24.5.9
26	武田城下町遺跡	甲府市屋形一丁目	18.00	城下町	中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H24.5.16
27	上小路遺跡	韮崎市神山町鍋山	280.17	散布地	奈良・平安・中世	個人住宅	韮崎市教育委員会	H24.5.25
28	堰西遺跡	甲斐市大垈	1,971.35	散布地	縄文	宅地造成	甲斐市教育委員会	H24.5.16 ～ H24.5.25

29	御岳田遺跡	甲斐市中下条	250.00	集落跡	古墳・平安・中世	道路	甲斐市教育委員会	H24.5.18 ～ H24.6.22
30	不動ノ木遺跡	甲斐市中下条	3,884.90	集落跡	縄文・古墳	店舗	甲斐市教育委員会	H24.5.23 ～ H24.5.31
31	古村南遺跡	甲斐市篠原	3,000.00	散布地	近世	宅地造成	甲斐市教育委員会	H24.5.29 ～ H24.6.8
32	包蔵地外	甲府市下曽根町	158.00			その他建物（複合施設）	甲府市教育委員会	H24.5.25 ～ H24.5.30
33	蓬田遺跡	韮崎市中田町小田川	762.04	集落跡	平安	個人住宅	韮崎市教育委員会	H24.5.30
34	甲府城下町遺跡	甲府市丸の内二丁目	15.00	城下町	近世	その他建物（駐輪場）	山梨県埋蔵文化財センター	H24.6.4
35	丹後遺跡	大月市駒橋一丁目	156.00	その他遺跡（屋敷跡）	中世	集合住宅	山梨県埋蔵文化財センター	H24.6.13
36	前御勅使川堤防址群	南アルプス市野牛島	45.00	その他遺跡（堤防）	近世	店舗	南アルプス市教育委員会	H24.5.23 ～ H24.6.29
37	大輪寺関連遺跡	韮崎市旭町上条北割	494.90	城館跡	平安・中世	個人住宅	韮崎市教育委員会	H24.6.4
38	百々・上八田遺跡	南アルプス市上八田	1,500.00	散布地	平安・中世	その他建物（工場誘致）	南アルプス市教育委員会	H24.6.6 ～ H24.8.31
39	大坪遺跡	甲府市横根町	185.14	生産遺跡	古墳・奈良・平安	宅地造成	甲府市教育委員会	H24.6.1 ～ H24.6.30
40	上原遺跡	北杜市明野町浅尾	12,017.00	集落跡	縄文・平安	農業基盤整備事業	北杜市教育委員会	H24.6.4 ～ H24.9.30
41	荻野遺跡	上野原市大野	5.00	散布地	縄文・平安	ガス・電気・電話・水道	上野原市教育委員会	H24.6.7
42	中耕地遺跡	甲斐市富竹新田	2,673.71	散布地	近世	その他建物（保育園）	甲斐市教育委員会	H24.6.11 ～ H24.8.31
43	横森・横森前遺跡	北杜市高根町箕輪	524.00	散布地	縄文・平安・中世	個人住宅	北杜市教育委員会	H24.6.11 ～ H24.6.12
44	御前崎遺跡	北杜市須玉町若神子	172.88	散布地	縄文・平安・中世	店舗	北杜市教育委員会	H24.6.12 ～ H24.6.14
45	寺平遺跡	北杜市白州町上教来石	51,196.00	散布地	縄文・平安・中世	農業基盤整備以外の農業関係事業	北杜市教育委員会	H24.6.14 ～ H24.7.6
46	西原遺跡	甲府市右左口町	4.00	散布地	弥生・古墳	個人住宅	甲府市教育委員会	H24.6.1
47	上窪遺跡	中央市下河東	60.00	集落跡・城館跡・田畑跡	平安・中世・近世	その他建物（倉庫）	中央市教育委員会	H24.6.11 ～ H24.6.29
48	甲府城下町遺跡	甲府市丸の内二丁目	40.00	城下町	近世・近現代	その他建物（県庁舎）	山梨県埋蔵文化財センター	H24.6.14
49	青葉町遺跡	甲府市青葉町	30.00	散布地	平安	集合住宅	甲府市教育委員会	H24.6.7 ～ H24.6.22
50	駒井砂宮神遺跡	韮崎市藤井町駒井	392.07	集落跡	縄文	個人住宅	韮崎市教育委員会	H24.6.26
51	甲府城下町遺跡	甲府市丸の内二丁目	40.00	城下町	近世・近現代	その他建物（県庁舎）	山梨県埋蔵文化財センター	H24.6.14
52	包蔵地外	甲州市勝沼町山	5,627.00			店舗	甲州市教育委員会	H24.6.28 ～ H24.6.29
53	甲府城下町遺跡	甲府市武田一丁目	4.00	城下町	近世	個人住宅	甲府市教育委員会	H24.6.27 ～ H24.6.28
54	武田城下町遺跡	甲府市大手三丁目	4.00	城下町	中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H24.6.27 ～ H24.6.28
55	福王子遺跡	甲府市上町	24.00	社寺跡	平安	宅地造成	甲府市教育委員会	H24.7.2
56	緑ヶ丘一丁目遺跡	甲府市緑が丘一丁目	28.80	散布地	古墳	宅地造成	甲府市教育委員会	H24.6.26 ～ H24.7.13
57	甲府城下町遺跡	甲府市丸の内二丁目	450.00	城下町	近世	土地区画整理	甲府市教育委員会	H24.7.2 ～ H24.8.31
58	金の尾遺跡	甲斐市大下条	1,263.49	集落跡	縄文・弥生・古墳・奈良・平安	道路	甲斐市教育委員会	H24.6.25 ～ H24.12.28

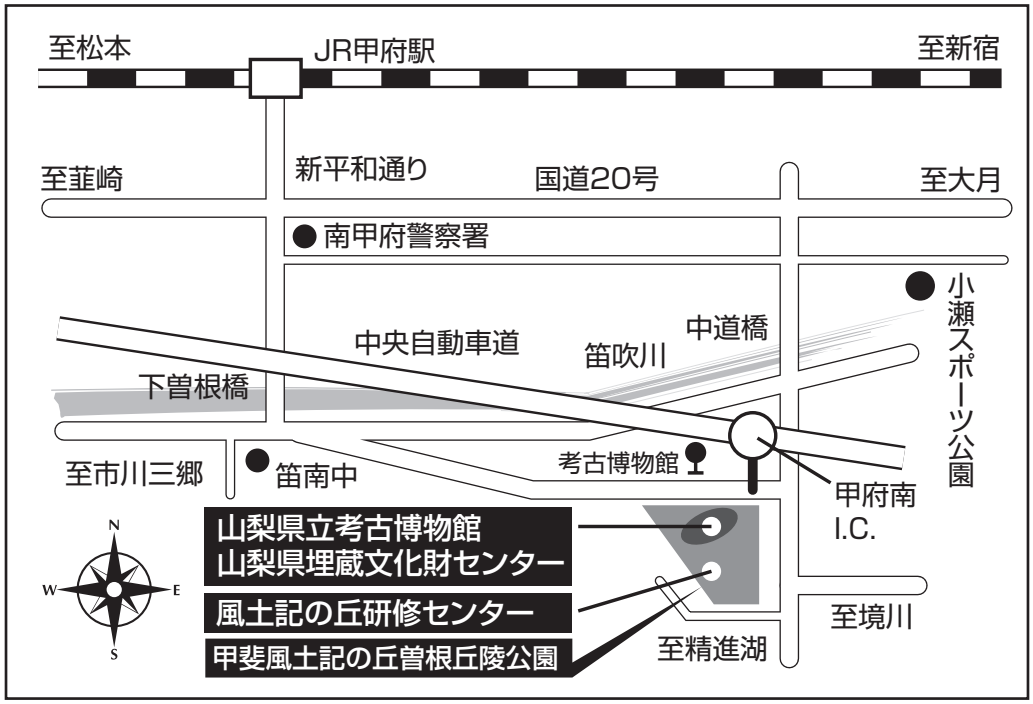
59	本城山	南巨摩郡身延町大島	1,729.00	城館跡	中世	道路	山梨県埋蔵文化財センター	H24.7.10 ～ H24.12.26
60	包蔵地外	南巨摩郡身延町下山	615.00			その他建物（築堤・盛土）	山梨県埋蔵文化財センター	H24.7.4 ～ H24.7.5
61	三ノ側遺跡	都留市上谷五丁目	40.00	散布地	縄文･奈良　平安･中世	集合住宅	都留市教育委員会	H24.7.24 ～ H24.7.27
62	石水遺跡	韮崎市穴山町	523.00	集落跡	縄文・平安	個人住宅	韮崎市教育委員会	H24.7.25
63	大聖寺境内遺跡	韮崎市龍岡町下條南割	2,390.90	社寺跡	中世・近世	その他建物	韮崎市教育委員会	H24.7.28
64	前御勅使川堤防址群	南アルプス市徳永	4,559.00	その他遺跡（堤防址）	近代･近現代	道路	南アルプス市教育委員会	H24.7.11 ～ H24.9.28
65	石水遺跡	韮崎市穴山町	523.00	集落跡	中世	個人住宅	韮崎市教育委員会	H24.7.25 ～ H24.8.25
66	川田館跡	甲府市川田町	76.00	城館跡	中世	その他建物（公民館）	甲府市教育委員会	H24.7.23 ～ H24.8.7
67	日下部遺跡	山梨市七日市場	44.00	集落跡	縄文･奈良･平安･中世	店舗	山梨市教育委員会	H24.8.2 ～ H24.8.8
68	緑が丘二丁目遺跡	甲府市緑が丘二丁目	4.00	古墳	古墳	個人住宅	甲府市教育委員会	H24.8.1
69	古林第１遺跡	北杜市大泉町西井出	499.00	散布地	縄文・古墳	集合住宅	北杜市教育委員会	H24.7.19 ～ H24.7.25
70	滝の前遺跡	北杜市小淵沢町上笹尾	930.00	散布地	縄文	道路	北杜市教育委員会	H24.7.17 ～ H24.7.18
71	原東沢遺跡	北杜市小淵沢町	285.27	散布地	縄文	個人住宅	北杜市教育委員会	H24.7.10 ～ H24.7.11
72	甲府城下町遺跡	甲府市中央三丁目	135.00	城下町	近世	その他建物（保育園）	甲府市教育委員会	H24.7.25 ～ H24.8.10
73	朝気遺跡	甲府市朝気一丁目	17.00	集落跡	縄文･弥生･古墳･奈良･平安	個人住宅	甲府市教育委員会	H24.8.24 ～ H24.8.29
74	藤田窪遺跡	北杜市小淵沢町	1,303.36	その他の墓	中世	集合住宅	北杜市教育委員会	H24.7.18 ～ H24.7.19
75	包蔵地外	南アルプス市飯野	11.10			宅地造成	南アルプス市教育委員会	H24.8.15
76	後田堰	南アルプス市有野	300.00	その他遺跡（堰）	近世	学校施設	山梨県埋蔵文化財センター	H24.8.20 ～ H24.8.27
77	甲府城下町遺跡	甲府市中央五丁目	7.00	城下町	近世	個人住宅兼工場又は店舗	甲府市教育委員会	H24.8.20
78	武田城下町遺跡	甲府市天神町	5.00	城下町	中世	その他建物（個人兼集合住宅）	甲府市教育委員会	H24.8.13 ～ H24.8.15
79	膳棚遺跡	山梨市北	8,600.00	集落跡	縄文・平安	道路	甲府市教育委員会	H24.8.15 ～ H25.1.10
80	堤･堤上遺跡	北杜市高根町箕輪	619.00	散布地	縄文・平安・中世	その他建物（公民館）	北杜市教育委員会	H24.7.24 ～ H24.7.27
81	山影遺跡	韮崎市藤井町南下條	2,911.58	集落跡	縄文・平安	集合住宅	韮崎市教育委員会	H24.8.13 ～ H24.8.15
82	国分寺南遺跡	笛吹市一宮町国分	1,559.11	集落跡	縄文･奈良･平安･近世	道路	笛吹市教育委員会	H24.8.28 ～ H24.8.30
83	二ツ木Ｄ遺跡	北杜市須玉町大豆生田	24,150.90	散布地	古墳・平安・中世	その他建物（市役所庁舎）	北杜市教育委員会	H24.8.2 ～ H24.8.8
84	武田城下町遺跡	甲府市武田四丁目	14.60	城下町	中世	学校施設	甲府市教育委員会	H24.8.27 ～ H24.9.7
85	寺部村附第８遺跡	南アルプス市寺部	33.00	散布地	古墳	宅地造成	南アルプス市教育委員会	H24.8.28
86	包蔵地外	笛吹市石和町中川	30.00			学校施設	山梨県埋蔵文化財センター	H24.9.6 ～ H24.9.7
87	包蔵地外	上野原市上野原	47.00			店舗	上野原市教育委員会	H24.8.28
88	包蔵地外	南巨摩郡南部町福士	20.00			道路	山梨県埋蔵文化財センター	H24.9.10 ～ H24.9.14

89	包蔵地外	南巨摩郡南部町福士	250.00			道路	山梨県埋蔵文化財センター	H24.9.13 ～ H24.9.14
90	包蔵地外	西八代郡市川三郷町落居	200.00			道路	山梨県埋蔵文化財センター	H24.9.10 ～ H24.9.14
91	馬場平遺跡	甲州市塩山一之瀬高橋	150.00	散布地	旧石器	その他開発(携帯電話基地局)	甲州市教育委員会	H24.9.5 ～ H24.9.14
92	堀の内遺跡	大月市富浜町鳥沢	1.20	集落跡	縄文・奈良・平安	個人住宅	大月市教育委員会	H24.9.6
93	北田遺跡，川田窯跡	甲府市川田町	230.00	集落跡・生産遺跡	古墳・奈良・平安	宅地造成	甲府市教育委員会	H24.8.13 ～ H24.9.29
94	甲府城下町遺跡	甲府市丸の内二丁目	5.00	城下町	近世	個人住宅	甲府市教育委員会	H24.8.21
95	柳坪北遺跡	北杜市長坂町大八田	630.00	集落跡	縄文・弥生・平安	個人住宅	北杜市教育委員会	H24.9.4 ～ H24.9.7
96	駒飼場遺跡	北杜市明野町上手	446.00	集落跡	縄文	個人住宅	北杜市教育委員会	H24.9.13 ～ H24.9.14
97	真原Ａ遺跡	北杜市武川町山高	150.00	集落跡	縄文	ガス･電気･電話･水道	北杜市教育委員会	H24.8.30 ～ H24.8.31
98	本村耕地第２遺跡	北杜市白州町横手	140.00	散布地	平安・中世	ガス･電気･電話･水道	北杜市教育委員会	H24.8.29 ～ H24.8.30
99	上前後沢遺跡	北杜市小淵沢町	405.00	散布地	縄文・平安	個人住宅	北杜市教育委員会	H24.8.23 ～ H24.8.24
100	豊武遺跡	北杜市大泉町谷戸	625.00	散布地	縄文・中世	個人住宅	北杜市教育委員会	H24.8.21 ～ H24.8.22
101	北林第１遺跡	南アルプス市小笠原	12.98	散布地	古墳	その他建物(福祉施設)	南アルプス市教育委員会	H24.9.10
102	宮ノ前第３遺跡	韮崎市藤井町駒井	1,094.31	集落跡	縄文・平安	個人住宅	韮崎市教育委員会	H24.9.12 ～ H24.10.12
103	山影遺跡	韮崎市藤井町南下條	2,911.58	集落跡	縄文・平安	集合住宅	韮崎市教育委員会	H24.9.13 ～ H24.10.31
104	大坪砦跡	北杜市高根町箕輪	559.13	城館跡	中世	個人住宅	北杜市教育委員会	H24.9.18 ～ H24.9.19
105	後田第２遺跡	韮崎市藤井町北下條	888.39	集落跡	縄文	個人住宅	韮崎市教育委員会	H24.9.19
106	上蔵原塁跡	北杜市高根町蔵原	499.53	城館跡	中世	個人住宅	北杜市教育委員会	H24.9.20 ～ H24.9.21
107	朝気遺跡	甲府市朝気三丁目	6.00	集落跡	縄文･弥生･古墳･奈良･平安	個人住宅	甲府市教育委員会	H24.9.18 ～ H24.10.5
108	野牛島･家西遺跡	南アルプス市野牛島	19.00	散布地	平安	宅地造成	南アルプス市教育委員会	H24.9.25
109	大門後遺跡	甲州市勝沼町休息	892.00	散布地	平安	店舗	甲州市教育委員会	H24.9.24 ～ 2012/9/31
110	一道下遺跡	北杜市須玉町大蔵	425.00	集落跡	縄文・平安・中世	個人住宅	北杜市教育委員会	H24.9.27 ～ H24.10.5
111	中耕地遺跡	甲斐市富竹新田	1,591.00	散布地	近世	宅地造成	甲斐市教育委員会	H24.10.4 ～ H24.10.11
112	屋代氏屋敷跡	北杜市明野町上神取	598.00	城館跡	中世	個人住宅	北杜市教育委員会	H24.10.9 ～ H24.10.19
113	甲府城下町遺跡	甲府市北口二丁目	11.70	城下町	近世	個人住宅兼工場又は店舗	甲府市教育委員会	H24.10.25
114	上ノ平遺跡	韮崎市穂坂町三之蔵	162.44	集落跡	縄文	個人住宅	韮崎市教育委員会	H24.10.15
115	南居遺跡，増田永井条里	笛吹市八代町永井南居	1,031.22	散布地･その他遺跡(条里)	縄文･古墳･奈良･平安･近世	農業基盤整備事業	笛吹市教育委員会	H24.10.26 ～ H24.10.31
116	滝沢遺跡	南都留郡富士河口湖町河口	8,400.00	散布地･集落跡･その他遺跡(道路跡)	縄文･弥生･古墳･平安･中世･近世	道路	富士河口湖町教育委員会	H24.9.24 ～ H25.3.31
117	甲府城下町遺跡	甲府市北口二丁目	10.20	城下町	近世	個人住宅	甲府市教育委員会	H24.10.22
118	石骨Ａ遺跡	甲州市塩山熊野	1,510.00	散布地	縄文・平安	個人住宅	甲州市教育委員会	H24.11.2 ～ H24.11.30

119	大門後遺跡	甲州市勝沼町休息	35.00	散布地	平安	道路	山梨県埋蔵文化財センター	H24.10.29 ～ H24.10.30
120	八王子遺跡	山梨市小原西	50.00	散布地	縄文	宅地造成	山梨市教育委員会	H24.9.13 ～ H24.10.22
121	包蔵地外	山梨市万力	160.00			宅地造成	山梨市教育委員会	H24.10.9 ～ H24.10.12
122	包蔵地外	山梨市牧丘町成沢	45.00			農業基盤整備事業	山梨市教育委員会	H24.10.24
123	包蔵地外	山梨市小原西	70.00			宅地造成	山梨市教育委員会	H24.7.23 ～ H24.7.30
124	武田城下町遺跡	甲府市古府中	2.00	城下町	中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H24.11.2
125	浜井場遺跡	中央市関原	100.00	散布地	縄文・弥生・中世	農業基盤整備以外の農業関係事業	中央市教育委員会	H24.10.29 ～ H24.10.31
126	新畑遺跡	甲府市桜井町	3,321.40	散布地	中世・近世	宅地造成	甲府市教育委員会	H24.11.1 ～ H24.11.2
127	武田東畑遺跡	韮崎市神山町武田	291.00	城館跡	中世	個人住宅	韮崎市教育委員会	H24.11.1
128	四方津牧野遺跡	上野原市四方津	60.00	散布地	縄文・平安	個人住宅	上野原市教育委員会	H24.11.8 ～ H24.11.29
129	甲府城跡	甲府市丸の内一丁目	400.00	城館跡	近世・近現代	その他建物（県庁駐輪場）	山梨県埋蔵文化財センター	H24.11.1 ～ H24.12.21
130	福寺遺跡	甲州市勝沼町上岩崎	90.00	その他遺跡（甲州金等出土地）	中世	学術調査（甲州金出土地点確認調査）	山梨県立博物館	H24.11.15 ～ H24.12.30
131	米倉Ａ条里	笛吹市八代町米倉	8,900.00	その他遺跡（条里）	奈良・平安	保存目的の範囲確認	笛吹市教育委員会	H24.11.14 ～ H24.11.16
132	五本松遺跡	甲府市国玉町	40.00	集落跡	平安・中世	宅地造成	甲府市教育委員会	H24.11.12 ～ H24.11.26
133	坂井南大原遺跡	韮崎市藤井町坂井	305.09	集落跡	縄文・平安	個人住宅	韮崎市教育委員会	H24.10.19
134	蝙蝠塚他９遺跡	笛吹市八代町竹居	3,953.30	散布地・古墳	縄文・古墳・奈良・平安・近世	農業基盤整備事業	笛吹市教育委員会	H24.11.19 ～ H24.12.7
135	神野遺跡	上野原市秋山	1,100.00	散布地	縄文・平安	道路	上野原市教育委員会	H24.11.27 ～ H25.3.31
136	前御勅使川堤防址群	南アルプス市有野	72.14	その他遺跡（堤防址）	近世・近現代	農業基盤整備事業	南アルプス市教育委員会	H24.11.2 ～ H24.11.24
137	後原遺跡	北杜市高根町上黒澤	404.00	集落跡	縄文・古墳・中世	個人住宅	北杜市教育委員会	H24.11.30 ～ H24.12.3
138	蔵原東久保遺跡	北杜市高根町蔵原	1,547.28	集落跡	縄文	個人住宅	北杜市教育委員会	H24.10.26 ～ H24.11.16
139	新井Ａ遺跡	北杜市高根町	1,502.00	散布地	平安・中世	その他開発（荒廃した宅地の整地）	北杜市教育委員会	H24.10.15 ～ H24.10.26
140	金の尾遺跡	甲斐市大下条	1,899.72	集落跡	縄文・弥生・古墳・奈良・平安	宅地造成	甲斐市教育委員会	H24.12.10 ～ H24.12.28
141	三ノ側遺跡	都留市田原二丁目	40.00	散布地	縄文・奈良・平安・中世	集合住宅	都留市教育委員会	H24.11.27 ～ H24.11.30
142	宮の脇Ａ遺跡	甲府市善光寺二丁目	4.00	散布地	縄文・平安	個人住宅	甲府市教育委員会	H24.12.5 ～ H24.12.19
143	工宮遺跡	甲州市勝沼町小左手	1,420.00	散布地	平安	農業基盤整備事業	甲州市教育委員会	H24.10.30 ～ H24.11.10
144	旭西久保Ｂ遺跡	北杜市高根町村山北割	303.49	散布地	平安・中世	個人住宅	北杜市教育委員会	H24.11.28 ～ H24.11.29
145	柚木遺跡	笛吹市八代町竹居	15.00	散布地	縄文・平安・近世	鉄道	山梨県埋蔵文化財センター	H24.12.13 ～ H24.12.14
146	大堀Ⅰ遺跡	上野原市上野原	140.00	散布地	縄文	宅地造成	上野原市教育委員会	H24.12.11 ～ H24.12.27
147	大堀Ⅰ遺跡	上野原市上野原	140.00	散布地	縄文	宅地造成	上野原市教育委員会	H24.12.11 ～ H24.12.27
148	半座池遺跡	山梨市上岩下	4.00	散布地	古墳・平安	個人住宅	山梨市教育委員会	H24.12.18

149	江曽原遺跡	山梨市江曽原	28.00	集落跡	縄文・古墳・平安	農業基盤整備事業	山梨市教育委員会	H24.12.3 ～ H24.12.25
150	蔵原東久保遺跡	北杜市高根町蔵原	11,700.00	集落跡	縄文	その他開発(太陽光発電施設)	北杜市教育委員会	H24.12.10 ～ H24.12.21
151	富士見遺跡	甲府市富士見一丁目	14.00	散布地	古墳・平安	店舗	甲府市教育委員会	H24.12.17
152	社口遺跡	北杜市高根町村山北割	5,295.00	集落跡	縄文・平安	その他開発(太陽光発電施設)	北杜市教育委員会	H24.12.25 ～ H24.12.27
153	三百水第２遺跡	韮崎市穂坂町三ツ沢	259.29	集落跡	縄文・平安	個人住宅	韮崎市教育委員会	H24.10.5
154	上ノ山立石遺跡	韮崎市上ノ山	665.99	集落跡	縄文・平安	個人住宅	韮崎市教育委員会	H24.9.13
155	築地遺跡	韮崎市大草町上條東割	61.14	集落跡	縄文・平安	個人住宅	韮崎市教育委員会	H24.11.5
156	武田東畑遺跡	韮崎市神山町武田	291.00	城館跡	中世	個人住宅	韮崎市教育委員会	H24.11.7
157	坂井南大原遺跡	韮崎市藤井町北下条	2.00	集落跡	縄文・平安	その他建物(擁壁)	韮崎市教育委員会	H24.11.23
158	坂井南大原遺跡	韮崎市藤井町北下條	723.00	集落跡	縄文・平安	個人住宅	韮崎市教育委員会	H24.12.27
159	築地遺跡	韮崎市大草町上條東割	458.32	集落跡	縄文・平安	個人住宅	韮崎市教育委員会	H24.11.28 ～ H24.11.30
160	青木氏屋敷跡	韮崎市清哲町青木	257.08	城館跡	中世	個人住宅	韮崎市教育委員会	H24.12.27
161	赤面Ｂ遺跡	南アルプス市沢登	70.00	散布地	中世・近世・近現代	その他建物(公会堂)	南アルプス市教育委員会	H24.7.3 ～ H24.10.31
162	雨ヶ久保遺跡	南アルプス市桃園	23.40	散布地	近世・近現代	その他建物(福祉施設)	南アルプス市教育委員会	H24.10.2
163	野牛島･石橋遺跡	南アルプス市野牛島	24.83	散布地	平安	ガス･電気･電話･水道	南アルプス市教育委員会	H24.10.19 ～ H24.10.22
164	藤塚遺跡	南アルプス市小笠原	7.80	散布地	近世・近現代	その他建物(福祉施設)	南アルプス市教育委員会	H24.12.5
165	上ノ平遺跡	南アルプス市湯沢	15,000.00	散布地	縄文	農業基盤整備事業	南アルプス市教育委員会	H24.12.17 ～ H25.2.28
166	大久保遺跡	笛吹市八代町高家	36.00	散布地	縄文･古墳･平安･近世	その他開発(携帯電話基地局)	笛吹市教育委員会	H25.1.8 ～ H25.1.10
167	包蔵地外	山梨市東	5.00			農業基盤整備事業	山梨市教育委員会	H25.1.10
168	桜林Ａ遺跡	甲府市宮原町	40.00	散布地	古墳･奈良･平安･中世	宅地造成	甲府市教育委員会	H25.1.16
169	堂平遺跡	韮崎市穂坂町三之蔵	1,107.33	集落跡	縄文・平安	個人住宅	韮崎市教育委員会	H24.12.4
170	下屋敷遺跡，無名墳	南アルプス市山寺	200.00	散布地	古墳・平安	集合住宅	南アルプス市教育委員会	H24.12.25 ～ H25.2.28
171	包蔵地外	南アルプス市桃園	25.23			宅地造成	南アルプス市教育委員会	H25.2.13 ～ H25.2.14
172	舟山遺跡	北杜市高根町小池	2,730.00	散布地	弥生	宅地造成	北杜市教育委員会	H25.1.9 ～ H25.1.17
173	椿和田原遺跡	上野原市桐原	120.00	散布地	縄文	その他開発(携帯電話基地局)	上野原市教育委員会	H25.1.25 ～ H25.1.31
174	西梨木戸遺跡	大月市七保町下和田	2.00	集落跡	縄文・古墳	個人住宅	大月市教育委員会	H25.1.29
175	上窪遺跡	中央市下河東	130.00	集落跡・田畑跡	平安・中世・近世	その他建物(病棟)	中央市教育委員会	H25.1.17 ～ H25.2.28
176	鎌作遺跡	甲府市国玉町	482.27	散布地	平安・中世	宅地造成	甲府市教育委員会	H25.1.18 ～ H25.2.8
177	甲府城跡	甲府市丸の内一丁目	140.00	城館跡	近世・近現代	その他建物(県庁舎)	山梨県埋蔵文化財センター	H25.1.21 ～ H25.2.20
178	武田城下町遺跡	甲府市屋形三丁目	13.00	城下町	中世	宅地造成	甲府市教育委員会	H25.2.5 ～ H25.2.20

179	上庄遺跡	北杜市小淵沢町	1,073.00	散布地	縄文・平安	個人住宅	北杜市教育委員会	H25.2.5 ～ H25.2.6
180	前町遺跡	北杜市明野町下神取	3.00	集落跡	古墳・平安・中世	ガス･電気･電話･水道	北杜市教育委員会	H25.1.21 ～ H25.1.22
181	竹宇１遺跡	北杜市白州町白須	1.50	集落跡	縄文・平安・中世	ガス･電気･電話･水道	北杜市教育委員会	H25.1.21 ～ H25.1.22
182	小屋敷遺跡	北杜市長坂町大八田	1,108.00	集落跡	縄文・平安・中世	その他建物（小児科医院）	北杜市教育委員会	H25.1.21 ～ H25.1.31
183	御岳田遺跡	甲斐市大下条字御岳田	250.00	集落跡	古墳・平安・中世	宅地造成	甲斐市教育委員会	H25.2.12 ～ H25.2.15
184	薬師堂遺跡	笛吹市一宮町末木	4,842.00	集落跡・社寺跡	奈良・平安・中世	その他開発（防災施設）	笛吹市教育委員会	H25.2.18 ～ H25.3.29
185	瀬戸原遺跡	上野原市秋山	120.00	散布地	縄文・平安	その他開発（携帯電話基地局）	上野原市教育委員会	H25.2.26 ～ H25.3.29
186	大坪遺跡	甲府市横根町	60.00	生産遺跡	古墳・奈良・平安	宅地造成	甲府市教育委員会	H25.2.14
187	包蔵地外	南アルプス市飯野	1,444.00			集合住宅	南アルプス市教育委員会	H25.2.22
188	包蔵地外	南巨摩郡身延町和田	1,200.00			道路	山梨県埋蔵文化財センター	H25.3.4 ～ H25.3.15
189	包蔵地外	南巨摩郡身延町角打	21.00			道路	山梨県埋蔵文化財センター	H25.3.8
190	前田北遺跡	北杜市小淵沢町下笹尾	250.00	散布地	縄文・平安	その他開発	北杜市教育委員会	H25.2.12 ～ H25.2.14
191	泥の沢Ａ遺跡，泥の沢Ｂ遺跡	南巨摩郡身延町帯金	180.00	散布地		道路	山梨県埋蔵文化財センター	H25.2.22 ～ H25.3.1
192	四本木遺跡	大月市御太刀二丁目	2.00	集落跡	縄文	個人住宅	大月市教育委員会	H25.3.5
193	御岳田遺跡	甲斐市大下条	177.45	集落跡	古墳・平安・中世	宅地造成	甲斐市教育委員会	H25.3.1 ～ H25.4.30
194	滝沢川堤防左岸２	南アルプス市十日市場	87.32	その他遺跡（堤防址）	近世・近現代	その他建物	南アルプス市教育委員会	H25.2.20
195	後田堰取水口堤防跡	南アルプス市有野	50.00	その他遺跡（堤防）	近世・近現代	保存目的の範囲確認	南アルプス市教育委員会	H25.3.4 ～ H25.3.29
196	青柳遺跡	南巨摩郡富士川町青柳町	43,274.19	集落跡	弥生・古墳	店舗	富士川町教育委員会	H24.12.17 ～ H24.2.28
197	竹宇１遺跡	北杜市白州町	2,419.00	集落跡	縄文・平安	農業基盤整備事業	北杜市教育委員会	H24.12.3 ～ H25.3.29
198	大輪寺関連遺跡	韮崎市旭町上条北割	494.90	城館跡	平安・中世	個人住宅	韮崎市教育委員会	H24.6.6 ～ H24.6.29
199	日下部遺跡	山梨市七日市場	1,500.00	散布地	平安	店舗	財団法人山梨文化財研究所	H24.4.25 ～ H24.7.10
200	諏訪原遺跡	北杜市明野町上神取	100.00	集落跡	縄文・中世	学術調査	昭和女子大学	H24.8.6 ～ H24.8.19
201	大野堤防遺跡	南巨摩郡身延町大野	1,600.00	その他の遺跡	近世	道路	公益財団法人山梨文化財研究所	H24.8.1 ～ H24.10.31
202	八王子遺跡	山梨市小原西	650.00	散布地	縄文	宅地造成	公益財団法人山梨文化財研究所	H24.12.10 ～ H25.1.31
203	江曽原遺跡	山梨市江曽原	625.00	集落跡	平安	道路	公益財団法人山梨文化財研究所	H25.3.15 ～ H25.5.31
204	武田氏館跡			城館跡	中世	史跡整備	甲府市教育委員会	
205	連方屋敷			城館跡	中世	史跡整備	山梨市教育委員会	



●路線バスご利用
　甲府ー豊富（中道橋経由）考古博物館で下車
●高速バスのご利用（2時間）
　新宿西口…南回り、甲府行（中道下車）徒歩5分
　　南甲府インター下車・徒歩10分

年　報　29

印刷日　2013 年 7 月 25 日
発行日　2013 年 7 月 25 日

発行所　山梨県埋蔵文化財センター
山梨県甲府市下曽根町923
ＴＥＬ　055－266－3881・055－266－3016
ＦＡＸ　055－266－3882
E-mail：maizou-bnk@pref.yamanashi.lg.jp

印刷所　港北出版印刷株式会社
山梨県甲府市高室町155